

総務委員会資料

2 所管事務の調査（報告）

（１）新川崎・創造のもりの機能更新に向けたイノベーション拠点整備基本計画の策定について

資 料 1 「新川崎・創造のもりの機能更新に向けたイノベーション拠点整備基本計画（案）」に関するパブリックコメントの実施結果について

参考資料 1 新川崎・創造のもりの機能更新に向けたイノベーション拠点整備基本計画【概要版】

参考資料 2 新川崎・創造のもりの機能更新に向けたイノベーション拠点整備基本計画

経済労働局

令和 7 年 4 月 2 4 日

「新川崎・創造のもりの機能更新に向けたイノベーション拠点整備基本計画（案）」に関する
パブリックコメントの実施結果について

1 概要

本市では、令和6年4月に策定した「新川崎・創造のもりの機能更新に関する基本的な考え方」を踏まえ、次の100年を見据えた量子技術等の最先端コンピューティング分野の「知」と「人材」が集積する新たな拠点形成を実現するため、必要機能の導入による機能更新に向けて、「新川崎・創造のもりの機能更新に向けたイノベーション拠点整備基本計画」（案）を取りまとめ、広く市民の皆様から御意見を募集するため、パブリックコメントを実施しました。

その結果、パブリックコメント手続きでは、76通（251件）の御意見をいただきましたので、御意見等の内容とそれに対する本市の考え方を次のとおり公表します。

2 意見募集の概要

題 名	「新川崎・創造のもりの機能更新に向けたイノベーション拠点整備基本計画（案）」に関する意見募集について
意見の募集期間	令和7年1月27日（月）から令和7年2月25日（火）まで
意見の提出方法	意見提出フォーム、FAX、郵送、持参
募集の周知方法	・市ホームページ ・かわさき情報プラザ（市役所本庁舎2階） ・各区役所・支所及び出張所の閲覧コーナー、各市民館、各図書館 ・市政だより（2月1日号） ・経済労働局イノベーション推進部（市役所本庁舎9階）
結果の公表方法	・市ホームページ ・かわさき情報プラザ（市役所本庁舎2階） ・各区役所・支所及び出張所の閲覧コーナー、各市民館、各図書館 ・経済労働局イノベーション推進部（市役所本庁舎9階）

3 結果の概要

意見提出数（意見総数）		76 通 （251 件）
内訳	電子メール	75 通 （242 件）
	F A X	0 通 （ 0 件）
	郵送	0 通 （ 0 件）
	持参	1 通 （ 9 件）

4 意見の内容と対応

今回のパブリックコメントの手続きでは、量子イノベーションパークの実現に向けた取組の推進を求める意見や、エコシステム実現に向けた拠点間連携に関する意見、導入機能に関する要望などが寄せられました。

寄せられた意見が、案に沿ったもの、今後の取組を進めていく上で参考とさせていただくもの、案に対する質問・要望などであったことから、用字や図表の所要の整備を行った上で、「新川崎・創造のもりの機能更新に向けたイノベーション拠点整備基本計画」を策定いたしました。

【意見に対する対応区分】

A：御意見を踏まえ、案に反映したもの

B：御意見の趣旨が案に沿ったものであり、御意見の趣旨を踏まえ、取組を推進するもの

C：今後の取組を進めていく上で参考とするもの

D：案に対する質問・要望の御意見であり、案の内容を説明・確認するもの

E：その他

【意見の件数と対応区分】

項目	A	B	C	D	E	計
(1) 基本計画全般に関すること	0	26	1	3	0	30
(2) 基本方針（量子イノベーションパーク、イノベーション・エコシステム含む）に関すること	0	16	27	9	0	52
(3) 土地利用・整備の方針に関すること	0	0	4	6	0	10
(4) 導入機能の整理に関すること	0	62	14	47	0	123
(5) 施設計画、運営方針に関すること	0	12	6	12	0	30
(6) その他	0	0	0	0	6	6
合計	0	116	52	77	6	251

5 具体的な意見の内容と市の考え方

(1) 基本計画全般に関すること (30件)

No.	意見の要旨	本市の考え方	区分
1	<u>新川崎・創造のもりの機能更新に向けたイノベーション拠点整備基本計画案に全面的に賛同いたします。早期の計画実現を心待ちにしている。</u> (同趣旨他 6 件)	<u>新川崎・創造のもりを、量子技術等の最先端コンピューティング分野の「知」と「人材」が集積する世界最高水準の研究開発拠点へと成長、発展させる機能更新に向けて、慶應義塾をはじめとする関係者と連携・協力しながら、着実な事業推進を目指してまいります。</u>	B
2	本計画が川崎市の持つポテンシャルを最大限に引き出し、内外から注目される「未来の新技术の拠点都市」として、イノベーションと創造の息吹に満ちた最先端の拠点へと進化することを期待している。 (同趣旨他 5 件)		B
3	今後、世の中の大変革の基盤となる量子コンピューターや、日本として特に強化している半導体分野に重点を置き、ラボスペースをさらに拡大されるだけでなく、国際的な共創の拠点となるべく、レストランやカフェ、宿泊施設を準備されようとしている点はとても先進的で、ものづくりに関する川崎市の強みを活かした戦略だと思う。 (同趣旨他 1 件)		B
4	川崎市民として、最先端の研究開発拠点が設立されることを誇りに思う。ぜひ、質の高い拠点に成長してほしいと願う。		B
5	関連企業が集積し新たなイノベーションも期待できることから政策としては非常に良いと思う。		B

6	昨年時の構想からより一層配慮が行き届いた素晴らしい構想であると感じており、レベルの高い研究をされる企業、大学等の方々と一緒にこの施設に入居できることをとても誇りに感じている。		B
7	本計画は、川崎市の経済活性化や産業競争力の向上に貢献するだけでなく、市がこれまで推進してきた先端産業振興、環境政策とも一貫しており、市の持続的発展にとって不可欠な取組だと考える。 また、市民、企業、研究者が一体となって、持続可能で活力ある地域社会の実現を目指す本計画は、川崎市が未来志向のイノベーション拠点として成長するための重要なステップとなると確信している。		B
8	<u>新たな施設の整備にあたっては、地域の関係者や利用者の声を適切に反映し、どのようなメリット、デメリットがあるのかなど開かれた形で議論を進めることを強く希望する。</u> (同趣旨他 1 件)	<u>本計画の策定にあたっては、地元である日吉地区の町内会をはじめ、幸区内の町内会や新川崎地区の就業者、さいわいふるさと公園を管理されているボランティア団体等、地域の皆様へ説明を行い、伺ったご意見を踏まえて取りまとめたものでございます。</u> <u>今後も計画の進捗に合わせて、新川崎・創造のものの機能更新による効果や影響等を、町内会や地域の活動団体等を通じて、地域住民や関係者、利用者の皆様へ丁寧に説明を行いながら取組を進めてまいります。</u>	D
9	<u>イノベーション・エコシステムの図に下野毛地区が示されているが、全体の計画は川崎区・幸区・中原区で完結するようにも見える。最近の川崎市の科学に関する取組は臨海部が中心となるため、北部や中部からするとやや他人事のように感じている。</u> <u>高津区、多摩区、宮前区、麻生区などの教育機関や市民にも情報を届け、事業の成果を広く PR していただければと思う。</u>	<u>世界最先端の研究開発、イノベーション創出の拠点として、この地で行われる取組とその成果を市域の南部だけではなく、北部、中部の子どもたちや市民にも積極的に発信し、認知度の向上、シビックプライドの醸成につなげてまいります。</u>	C

10	壮大な計画であり、遅延も予想される。粘り強く推進していただきたい。	量子技術の実用化に向けては、長い時間を要すると見込まれていることから、量子技術に加えて、AI や半導体等の最先端コンピューティング技術分野やこれらと関連する技術・産業の「知」と「人材」が集積するイノベーション拠点の形成に取り組んでまいります。	B
11	研究開発は短期間で成果が出づらい。川崎市には短期的な成果を求めるのではなく、中長期的な視点でゴール設定をしてほしい。	研究開発の促進やオープンイノベーションの活性化、次世代人材の育成等において、大学の果たす役割が重要となることから、慶應義塾大学を中心に多様な大学や企業、研究機関との連携を図りながら、イノベーション拠点の形成に取り組んでまいります。	B
12	慶應義塾大学は長年イノベーション創出に向けた取組を行っており、引き続き慶應義塾大学との連携強化を希望する。	慶應義塾大学をはじめとする、多様な大学や企業、研究機関等が立地することにより、新川崎・創造のもりが、最先端の「知」と「人材」の集積と輩出を生み出すエコシステムのエンジンとなるような拠点形成に取り組んでまいります。	B
13	教育研究機関が充実することで、新川崎が活性化することは大歓迎である。	今回の機能更新において、地域に開かれた新川崎・創造のもののエントランスにふさわしい賑わいと憩いの空間形成を図ってまいります。	B
14	当該ブロックは自然豊かではあるが賑わい（特に夜間）の面では魅力に乏しいと感じておりましたので、今回の再開発計画を好意的に見ている。	量子技術や AI、先端半導体等の研究開発を行うためには、世界トップレベルの人材（研究者・技術者）の誘引が不可欠であることから、新川崎・創造のものの機能更新においては、国内外から高度人材を呼び込む機能を導入した拠点の形成を目指しています。	B
15	川崎市域は次世代人材、高度人材の集積地として特化した方がよいと思う。	本計画では、カフェ・レストラン等の商業機能の導入やさいわいふるさと公園との一体的な緑豊かな空間の形成など、地域に開かれた機能の導入により、地域住民が気軽に利用・来訪できるエリアの形成を目指してまいります。	B
16	さらに地域住民も利用できることにより、新川崎が新しい拠点として世の中に知られることにもなると思う。		

17	本計画のパブリックコメント募集が実施されていることは、地域住民に十分に周知されているとは言えない。意見募集期間も1か月間と短く、地域住民の意見を本気で聞こうとしているのか疑問である。新施設は、規模が非常に大きく、長い期間使用されるものと考えられるため、地域への影響は将来にわたって甚大である。市は、これ以上計画を進める前に、現時点で詳細な計画内容を地域住民に説明する場を設け、意見を聴取することが必要と考える。	本計画（案）の公表後、地元である日吉地区の町内会をはじめ、幸区内の町内会や新川崎地区の就業者、さいわいふるさと公園を管理されているボランティア団体等、地域の皆様へ説明を行ってしました。 また、本計画（案）に先立ち令和6年4月に公表した「新川崎・創造のもりの機能更新に関する基本的な考え方」の策定段階においても同様に地域住民の皆様へ説明・意見交換を行いました。 今後も、事業の進捗に合わせて、地域の皆様への説明、意見聴取を丁寧に行いながら取組を進めてまいります。	D
----	--	---	---

(2) 基本方針（量子イノベーションパーク、イノベーション・エコシステム含む）に関すること（５２件）

No.	意見の要旨	本市の考え方	区分
1	<u>量子コンピューティング分野とキングスカイフロントのライフサイエンス分野は親和性が高いため、計画に記載されている「イノベーション・エコシステム」が実現することを期待している。</u> （同趣旨他２件）	<u>量子イノベーションパークの中核である新川崎・創造のもりと、ライフサイエンス分野の企業等が集積するキングスカイフロントやクライメートテック分野の産業集積を目指す南渡田地区等との、量子コンピューティング技術の活用による連携を通じ、創薬や診断技術等の開発の加速化や、新素材、次世代バッテリーなど革新的な技術・製品開発につなげる「イノベーション・エコシステム」の実現を目指した取組を進めてまいります。</u>	B
2	<u>新川崎・創造のもりに関しては、量子イノベーション等の先端技術の研究拠点やスタートアップ企業の集積というイメージが強く、ものづくりを担う市内中小企業から見ると敷居が高く感じられるところがある。</u> <u>もう少し市内の中小企業が、身近に感じることができる PR や催しを検討していただけると交流を深めてアウトプットに繋げることができるのではないかと考える。</u>	<u>市内には高度な技術を有し、量子コンピューターを構成する部材の開発・製造を担う中小企業も立地していることから、量子イノベーションパークの取組は本市産業の活性化や市内企業の一層の技術力向上につながるものと考えています。今後は、サプライチェーンの構築に向けて、市内ものづくり企業が有する技術など幅広い産業との連携が一層重要となりますので、市内企業との交流・連携を活性化し、量子技術分野等への参画促進に取り組んでまいります。</u>	C

3	川崎市内で実証実験を行う際にワンストップでのコーディネーションや必要な申請を行える機能があるとたいへん助かる。 市街地を使った実証実験を行える環境がなかなか無いため、迅速な検証ができる環境があると事業化への時間短縮になりありがたい。市民や関係者へのプロモーション面でのサポートや、市民、地域企業等のステークホルダーからのフィードバックが受けられると実証実験がやりやすくなる。 (同趣旨他 2 件)	本市が目指す「量子イノベーションパーク」は、量子技術を核としたイノベーションの創出に向けた多様な研究・実証・教育プロジェクトが、新川崎・創造のもりを中核として、様々な企業・研究機関等において市内全域で展開するものです。 本市においても、量子技術の活用事例を創出し、量子技術分野への企業の参画促進と、量子技術に対する理解と興味・関心、期待感を醸成するため、様々な企業・大学等と連携し、市内をフィールドとした量子技術の実証に取り組んでまいります。	C
4	近年、生成 AI 技術が注目されるなか、量子コンピューティング技術を本格導入した当該施設が世界的な先進事例として、また地域のシンボルとして大いに発展していくことを期待する。 (同趣旨他 1 件)	新川崎・創造のもりを、量子・AI・半導体等の最先端コンピューティング分野の「知」と「人材」が集積する世界最高水準の研究開発拠点へと成長、発展させる機能更新に向けて取組を進めてまいります。	B
5	新しい建物になり新しい仲間が増え、地域が活性化することは周辺企業にとって良いことである。スタートアップ企業と共にビジネスを行っているので、イノベーションを起こすことができる人・企業が集まりともに成長できることを期待している。 (同趣旨他 1 件)	スタートアップや大企業、中小企業、大学、研究機関など多種多様なプレイヤーが積極的に集い、交流し、アイデアをぶつけ合うことでイノベーションが生み出されることを期待しています。	B

6	イノベーション拠点として、スタートアップが成長しやすい環境を整えることが重要。量子技術や AI 分野のスタートアップが成長できるよう、投資家とのネットワーキング機会を提供し、また、外国人研究者やエンジニアが働きやすい環境を整備することで、海外企業の進出を促進することができる。「新川崎・創造のもりが成長のエンジンとなるイノベーション・エコシステムの姿」は、既存の施設を最大限に有効活用したエコシステムの提案でありとても素晴らしいと思う。このエコシステムを実現するためには、スタートアップ入居が重要であり、入居スペースの 5 割ぐらひは確保する必要があるのではないかと思う。 (同趣旨他 1 件)	研究の加速化や成果の実用化の視点から、大企業や中小企業、スタートアップ、大学など多様な主体が集い、交流・連携しやすい環境を整備することが必要と考えております。 先端的な研究開発成果の社会実装には、スタートアップの役割が重要であることから、スタートアップの入居スペースの確保に向けて検討してまいります。	C
7	AI と共に注目される量子コンピューターの世界的拠点を川崎に作ることができれば、市はもちろん、日本の産業にも大きく貢献できる可能性があることから、本プロジェクトについては市政の最優先課題の一つとして取り組んでいただきたい。 (同趣旨他 1 件)	新川崎・創造のもりを、次の 100 年を見据えた我が国の成長をけん引する拠点として発展・成長させるため、量子・AI・半導体等の最先端コンピューティング分野の「知」と「人材」が集積する世界最高水準の研究開発拠点へと成長、発展させる機能更新に向けて取り組んでまいります。	B
8	量子技術を中心に据えつつも、AI や半導体など、他の先端技術に関してもイノベーションを起こせるような知の集結の場となるような施設の計画が望まれる。		B
9	市全体で量子イノベーションパークの形成を目指す中で、当該施設はその中核拠点として大きな役割とポテンシャルを有するだろう。	新川崎・創造のもり地区が世界の他の拠点と比較しても高い優位性を持つ量子コンピューティング技術を活かし、同地区を中核とする市内全域での量子分野におけるイノベーションの創出を図る「量子イノベーションパーク」の取組を推進してまいります。	B

10	量子技術と環境、エネルギー、ライフサイエンス分野の既存産業基盤との融合により、新たなイノベーションが生まれることが期待される。	新川崎・創造のもりの機能更新においては、核となる量子技術に加え、AI・半導体等の最先端コンピューティング技術の集積地を目指しておりますが、こうした技術を活かして、エネルギー分野やライフサイエンス分野、カーボンニュートラルといった幅広い分野への応用が考えられます。 量子技術を核として多様な技術領域との融合を生み出し、オープンイノベーションの活性化に取り組んでまいります。	B
11	アカデミアとの連携促進に期待している。大学研究者が集まる場としても機能できれば、量子に限らず多分野の研究者の集積となることは波及的展開可能性も開けてくる。	新川崎・創造のもりの機能更新においては、慶應義塾大学に加え、多様な大学や企業、研究機関が集い、連携を促進する拠点形成を目指しています。そのため、先端企業・大学等が集積し、研究開発を加速する良好な研究環境を構築するとともに、オープンイノベーションを活性化させる交流・コミュニティ機能の充実に向けて取り組んでまいります。	C
12	新川崎・創造のもり周辺や川崎市内には、慶應義塾大学矢上キャンパス、大手製造企業・先進企業だけでなく、電力・交通インフラ設備が集積しており、量子イノベーションパークなどの研究開発を促進する機能を整備するにあたって創造のもりは非常に魅力的な地区である。当該地区における研究開発を促進する機能の政策等は非常に理にかなっている。	K² ウンキャンパス開設以降、新川崎地区は、研究開発企業やものづくり企業の立地が進み、本市を代表する産業集積地へと発展し、住宅や交通インフラの整備も大幅に進展してきました。 こうした新川崎地区のポテンシャルを活かして、新川崎・創造のもりを世界最高水準の研究開発拠点へと発展・成長させるため、当地区の機能更新に取り組んでまいります。	B
13	量子技術の活用ユースケースのショーケース、活用相談、POC 等ができると、量子に関わる全ての相談や問い合わせが川崎に集積することになり、産業発展力やコミュニティの強化に繋がると思う。	新川崎・創造のもりを中核として市内全域で、様々な企業・研究機関等において量子技術を核としたイノベーションの創出に向けた研究・実証・教育プロジェクトが展開される「量子イノベーションパーク」の実現に向けて取組を進めてまいります。	C

14	半導体人材や量子人材の育成の場をぜひご検討いただきたい。量子コンピューティングのプログラミング言語やミニマルファブなどを用いながら学習できると国内外から優秀な人材が集まると思う。東京でもそのような拠点は無いので、川崎が日本一の量子・半導体拠点になり得ると思う。	国内における半導体分野や量子分野の人材は不足しており、人材育成が課題となっています。こうしたことから、本市においては、量子産業の将来の担い手である若年層を中心に量子技術の人材育成に取り組んでおりますが、半導体分野の人材育成につきましても、いただいた御意見を今後の取組の参考とさせていただきます。	C
15	日本の重要な産業である製薬業と材料分野では、AI創薬やマテリアルズインフォマティクスをはじめとするデータ駆動型科学が大きく貢献している。次世代の計算基盤である量子コンピューターの存在は、川崎市が日本経済を牽引する可能性を示唆しているといえる。昨今、データ駆動型科学ではAI・計算科学と自動実験の両立が当然とされ、HPCやロボティクスへの需要が今後も高まると予想される。これは、化学者や生物学者、AIエンジニアだけでなく、ハード面を担う人々の協力が不可欠であることを意味する。学術や企業だけでは、このマッチングは極めて難しいが、本計画案では市内企業の参画例が明確に示されている。市内企業では後継者不足で消えていく技術も多いため、市内企業の活性化ならび後継者不足によって失われそうな技術を活用・保全するうえでも、こうした取り組みをさらに継続・拡充していただきたい。	量子イノベーションパークの実現に向けて、量子と古典の融合技術やソフトウェア、通信、センシング、セキュリティ分野など関連産業の早期の社会実装化を意識した拠点形成に向けて取り組むことから、市内のものづくり企業が有する技術など幅広い産業との連携が重要と考えております。 また、市内企業とのマッチングの活性化に向けて、企業、大学、研究機関など多種多様なプレイヤーが集い、異分野の研究者・技術者が出会う仕掛けづくりや交流・コミュニティ環境の構築に向けて取り組んでまいります。	C

16	量子コンピューター「KAWASAKI」は今後川崎市の行政課題解決に向けたユースケース考察と解決手法の構築に向けた大きな一助となる。その実現のため、現在川崎市が有する研究員（直接的／間接的）を機能集約し「川崎市量子イノベーション研究所：仮称」として新しい施設に研究所を開設する。川崎市が量子関連の先端研究所を所有することによって、川崎市のブランドイメージが大きく向上し、高度技術人材の集約拠点を狙った構想がより進みやすくなるのではないかと考える。	新川崎・創造のもりを中核とした「量子イノベーションパーク」実現に向けた取組や、市内における量子技術の活用事例を広く発信することで、本市の取組の認知度の向上と期待感の醸成につなげ、量子技術分野への参画促進、新川崎・創造のもりへの企業集積等を図ってまいります。	D
17	量子技術の最先端研究の集積地となるためにも、IBMQに加えて他ベンダーの量子コンピューターもこの地で稼働すると良いと思う。	量子イノベーションパークの実現に向けて、その中核となる新川崎・創造のもりに国内外から量子技術分野の多様な企業、大学、研究機関等を誘致し、世界の量子イノベーションを先導する拠点形成に取り組んでまいります。	C
18	私は量子技術等の最先端コンピューティング分野の専門家であり、多くの講演を行っている。その際にいただくお声として、「量子技術等の最先端コンピューティング分野」は難しそうだということで「食わず嫌い」の状態になっていることが多々あるように見受けられる。そのため、様々な方々が集え、気軽に技術相談・ビジネス相談等を行える場作りになることを期待している。	量子コンピューティング技術の本格的な実用化までには解決すべき課題が多くあると言われておりますが、こうした先端技術分野では日進月歩で研究開発が進展しておりますので、先端的な科学技術・研究活動の見える化や企業向けセミナーなど積極的な情報発信に取り組んでまいります。 また、量子と古典の融合技術やソフトウェア、通信、センシング、セキュリティ等の分野など関連産業の社会実装を意識した拠点の形成に取り組むとともに、市内企業との連携を促進する交流・コミュニティ機能の導入についても検討してまいります。	C

19	施設で活動する企業について、川崎市が進める量子イノベーションパーク構想を基に、少なくとも5割は、量子研究開発関係を対象とすべき。量子コンピューターを有する企業に、機能更新後の施設入居者向けに、利用時間枠を確保していただければ、イノベーションが大いに進むことが期待できる。 量子コンピューターを開発している企業は、多くの人に利用してもらいたいはずである。利用する側は、金融をはじめ交通、素材・薬開発など多岐の分野にわたるユーザーが事実いる。両社、ウインウインの関係にあると感じている。量子コンピューター利用の一定時間解放が、本施設の目玉となり、利用を望む企業が入居してくることになると思う。	現在、新川崎・創造のもりにおいて稼働する量子コンピューターは、IBM が設置し、東京大学が占有使用权を有して企業、大学、研究機関等と量子コンピューターの利活用に関する共同研究を行っているものでございます。 量子コンピューターの利用環境の構築については、いただいた御意見を今後の取組の参考とさせていただきます。	C
20	新設施設は 50 年程度以上使用されると推定されるが、その間、現在のような状況が継続するかどうかは不透明である。現在は多く新規設立されているベンチャー企業や、次世代コンピューターとして期待されている量子コンピューターも、20 年程度後の時点では社会環境が変化している可能性があり、活況が継続している保証はない。万一、ブームが去った後、新設施設は、利用率の低い無機質で空疎な施設となり、地域の不活性化や衰退につながることを懸念される。	社会が期待する性能を持った量子コンピューティング技術の実用化には乗り越えるべき様々な技術的課題があると言われており、本格的な実用化までは時間を要すると考えられており、長期的な視点で取組を進めていく必要があると考えております。 また、本施設においても、将来の変化の大きさや不確実性等を見据え、その時代の社会環境や技術開発のトレンド、企業等のニーズに合わせて機能や規模を適切に変化させられるような柔軟な設計・運営を目指してまいります。	D
21	エコシステム形成にあたり、まず入り口となるイノベーション技術の始まりをいかに広く集め、拡充していくが、イノベーション・エコシステム形成について重要なポイントになると考えている。	本市におけるイノベーション・エコシステムの形成に向けて、令和7年度に、新川崎・創造のもりをはじめ、キングスカイフロント、南渡田地区等の本市の研究開発拠点・産業拠点等が有機的に連	C

22	新施設での目的達成のため「エコシステムの構築と連携」を促進する新たな仕組みが必要と考える。その企画・検討・構築に向けた予算確保が必要と考える。最初の1年は企画立案作業となるが専門の人員が必要となるだろう。	携・融合したネットワークを構築する「川崎版イノベーション・エコシステム」のしくみづくりなどについて検討してまいります。	C
23	機能更新後の研究スペースを大学、スタートアップ、大企業に分類する。主要大学の産学連携室との連携が重要で、特に量子関係の研究が盛んな東大、京大、大阪大学、東工大、横浜国大、慶応などの大学と連携する。 スタートアップ向けには、川崎市での包括的なエコシステムに沿って成長していただく企業を想定し、活性化のために、入居期間の制限を設ける方が好ましい。卒業後は、エコシステムの流れに乗り、「下野毛・黒川地区」「殿町地区」「南渡田」へ移転、より成長していただく。川崎市のエコシステム実現の中核をなす。大企業向けには、市の方針に沿った企業を選定し、入居活動を行う。大規模なプロジェクトを進める力のある企業・関心のある企業を探し選び、誘致していく。 これらの企業の入居により、施設内で新たなプロジェクトが生まれる確率も高まる。入居企業をみて、協業のために外部から入居してくる企業も生まれると思う。	研究開発の促進やオープンイノベーションの活性化等において、大学の果たす役割が重要となることから、慶應義塾大学を中心に多様な大学や企業、研究機関との連携を図りながら、イノベーション拠点の形成に取り組んでまいります。 また、整備事業者等と本市が連携し、量子イノベーションパークの実現や新たなイノベーションの創出、エコシステム形成につながる企業・プロジェクト等の誘致活動に取り組んでまいります。	C

24	自然科学における基礎研究の重要性は言うまでもないが、科学技術の社会還元の意義や重要性も極めて高まっている。本計画案では「イノベーション・エコシステムの姿」として、最新技術の社会実装における循環イメージが分かりやすく提示されている。これは複数の開発拠点によるコラボレーションであり、相乗効果が期待されるように感じた。ただし、循環させ続けることが日本の大きな課題でもあり、川崎市独自の取組として、この点をどのように解消されるのかをもう一步深く計画の記載をいただきたい。	本市では、各拠点が持つ価値、強みを活かした、最先端技術とスタートアップのイノベーション・エコシステムの形成を目指しています。企業の成長の成果・資産を次世代の人材・スタートアップの輩出へと還流させ、次々とイノベーションを生み出す持続可能なエコシステムの実現に向けて取組を進めてまいります。	D
25	新川崎・創造のもりとキングスカイフロントの研究者同士が活発に交流できる仕掛けとして、コワーキングスペースなどの利用についても連携が図られるとよいのではと思う。	キングスカイフロントや南渡田地区等の研究開発拠点との連携を活性化させる仕掛けの一つとして、コワーキングスペースやオープンファクトリーの利用を通じて、立地する企業、大学、研究機関など多様な主体による交流を促進し、新川崎・創造のもりのイノベーション拠点としての機能強化に向けた取組を進めてまいります。	C
26	今後の検討においては、各拠点間の連携をどのように具体化するか、また、新施設の運営にあたり地域との調和をどう図るのかといった点について、引き続き丁寧な議論と情報提供をお願いしたい。	イノベーション・エコシステムの形成に向けた拠点間連携を活性化させる取組については、様々なステークホルダーの意見を伺いながら検討を深めてまいります。また、新たな施設においては、地域に開かれた緑地空間の整備や、カフェ、レストラン等の商業機能の導入など、就業者だけでなく、地域住民や来訪者の利便性を高め、地域との調和に配慮した施設運営に向けて、継続して周辺住民に対して情報提供・説明の機会を設けながら取組を進めてまいります。	D

27	「新川崎・創造のもりが成長のエンジンとなるイノベーション・エコシステムの姿」は、既存の施設を有効活用しているが、今からでも連携できるはずであるがうまくできていないと感じている。 K-NIC、キングスカイフロント、南渡田地区、下野毛・黒川地区との定期的な連絡会、もしくは機能更新後の施設に出先を設けるなどの、交流が必須と考える。将来的には、量子通信で回線を結ぶことが出来ればトピックスとなるのではないかと思う。	本市にはキングスカイフロントや南渡田地区等の研究開発拠点、研究開発型の産業集積の特徴があることから、こうした強みを活かして、市内に立地する大企業やスタートアップ、大学、研究機関など多様な主体による連携を促進し、新川崎・創造のもりのイノベーション拠点としての機能強化に向けた取組を進めてまいります。	C
28	複雑な技術体系・エコシステムの上になりたつ先端 IT 技術は 10 年以上先を見た継続的な投資が必要であり、今後も長期的な視点での政策をお願いしたい。	量子技術等の先端 IT 技術の実用化・社会実装に向けては、長い時間を要すると見込まれていることから、長期的な視点で、量子技術に加えて、AI や半導体等の最先端コンピューティング技術分野やこれらと関連する技術・産業の「知」と「人材」が集積するイノベーション拠点の形成に取り組んでまいります。	C
29	先進事例の整理などで他機関の実績が紹介されておりますが、川崎市内にある研究拠点に関する記述は p32 に限られている。本拠点は従来の拠点と異なる特徴を備えているものの、関係者が共創し研究開発を加速するという観点では大きく変わらないと考える。これまでの事業運営において生じた問題・課題とその対策を踏まえながら、継続される取り組みや新たに提案された施策の経緯を強調していただけると、機能更新における市の考えがより明確に伝わると考える。	本市の特徴として、かながわサイエンスパークやキングスカイフロント、南渡田地区など複数の研究開発拠点・産業拠点を有しており、市内には 5 5 0 以上の研究開発機関が集積し、市域全体でイノベーションを創出する基盤が整っています。 今後は、こうした拠点間連携の促進や市内に立地する企業等のネットワーク構築による相乗効果を生み出し、技術領域や成長段階に応じた支援を継続的に行っていくことが必要と考えております。	D

30	新川崎地区のスタートアップから大企業、そして地域住民の方々のエコシステムの中心地となる場所であることと、地域外の人にも新川崎がスタートアップインキュベーションの最先端を行く地域であること知ってもらえるような場所であってほしいと思う。	新川崎・創造のもりのかわさき新産業創造センターは、計 100 室、ラボ面積 8,100 m²の首都圏最大級のインキュベーション拠点として、多数の研究開発型のスタートアップが集積しております。 今回の機能更新によって、本市のイノベーション・エコシステムの成長のエンジンとなる新川崎・創造のもりについて、地域内外の方々に広く認知してもらえるよう、革新的な成果の創出と情報発信に取り組んでまいります。	C
----	---	--	---

31	新川崎・創造のもりが世界の量子イノベーションを先導するエコシステムとして大きく発展することを大変強く期待している。 その中で、将来的に様々な研究開発プロジェクトが集積され、様々な研究ニーズに対応可能な柔軟性を持つようになると考えているが、拠点整備段階から配慮すべき点について検討をお願いしたい。 ■概要：量子技術においては、下記3点の設備導入を見越した拠点設計が重要と考えている。 1 「屋上の GPS アンテナならびに時刻同期信号の施設内配布」 2 「ヘリウム循環装置」 3 「クレーン搬入」 ■内容 1 「屋上の GPS アンテナならびに時刻同期信号の施設内配布」 量子技術を始めとする最先端技術、特にネットワークに関するものにおいては、昨今の高速通信に対応させるために、高精度の時刻同期が要求されるケースが多い。時刻同期に向けては GPS に搭載された原子時計由来の基準信号を活用することが多く、そのために GPS アンテナやクロックシステムが重要となる。特にアンテナについては障害物の無い屋上に標準的なサイズのアンテナを設置する必要がある、拠点設計の段階で考慮すべきである。またクロックシステム由来の時刻同期信号についても、施設内の希望者に提供可能なサービスを展開できるよう、施設建築段階からあらかじめ、高周波対応の電気配線の導入が望ましい。 2 「ヘリウム循環装置」 量子コンピューターの多くの方式においては極低温が要求される。	いただいた御意見については、今後の施設整備の参考とさせていただきます。	C
----	--	--	---

その実装のためには液体ヘリウムが使われることが多く、貴重かつ高額な資源であるため、再利用するための設備として再液化・再凝縮のための部屋を確保する必要がある。MRI 装置でもよく使われるものであり、ガス回収配線などやヘリウム容器接続用施設を、施設建築段階からあらかじめ導入することが望ましい。 3 「クレーン搬入」 量子技術の研究開発においては、力学的な安定性の要求にこたえるために、除振台や光学テーブルを用いるケースが多い。本体重量としては、例えば幅 2 m・奥行 1 m・高さ 0.8 m（高さ 0.4 m の架台を含む）の場合、500 kg にも及ぶ。床の耐荷重はもちろんのこと、このようなテーブルを搬入するための方法を予め検討する必要がある。例えば荷物用大型エレベータの導入や、外側から当該フロアまでクレーンで吊り上げての搬入などが考えられる。建物内部装置を導入するほど頻繁にアクセスが行われるものではないと当面考えられるため、コストのみを考えると、後者のクレーンによる搬入経路を確保するのが望ましいだろう（もちろん前者も魅力的である）。具体的にはクレーン車を停車するためのスペースと、解放可能なベランダやバルコニーとを、向きを合わせて設置する必要がある。また廊下についても過度に狭い廊下は適さない可能性が高い。 以上のような建築段階での設計は非常に重要であり、積極的な導入に至らなかったとしても、量子イノベーションパークの中心施設に向けては、検討の価値があるものと考えている。		
--	--	--

32	新川崎・創造のもりが成長のエンジンとなる、持続可能なイノベーション・エコシステムの形成に向けた取組について、新たに研究機関やアカデミアが集積し、地域全体の発展が図られることを期待しており、誘致等を促進するための支援策の創設を期待している。	新川崎・創造のもりの機能更新において、量子イノベーションを先導する量子・AI・半導体等の先端技術領域の企業・プロジェクトや、これらの技術を活用し新たな技術・サービスを開発する素材・創薬等の企業を国内外から誘致し、早期にプレイヤーの集積を図ることは、イノベーション・エコシステムの形成において重要であると考えているため、企業等の立地誘導・投資促進制度について今後検討を進めてまいります。	B
33	VC/CVC にも入居いただけると、スタートアップと VC/CVC が常に情報交換でき、メリットもあるのではないかと思います。	最先端技術分野の早期の社会実装に向けた研究開発の推進や、スタートアップ企業等の新事業・新ビジネスの創出の後押しには、企業の成長過程に応じた資金調達が必要であることから、ベンチャーキャピタル等のスタートアップを支援するプレイヤーとの連携・交流の可能性についても検討してまいります。	C
34	KBIC 等のインキュベーション施設卒業後も定期的に川崎市のイベントに登壇してもらう等、継続的に川崎市と何かしらの縁を持ち続ける仕組みがあると良いと感じました。	KBIC では、インキュベーション施設を退去した企業と現在の入居企業をつなぐネットワークイベント等を定期的で開催しております。こうした仕組みを継続し、卒業企業の成功事例等の共有や企業間連携の促進に取り組んでまいります。	B
35	論文を出すだけでなく、社会実装を進めてほしい。その結果がわかるような形で発表してほしい。	新川崎・創造のもりでは、新川崎地区や市内の企業集積を活かした、産学連携や企業間連携による研究成果の社会実装に向けた取組を推進しています。機能更新においては、こうした取組をより一層活性化させるとともに、今後は、その成果の発信についても充実させてまいります。	C

36	量子技術に関しては、高校生や起業家などを対象にした取り組みが増えているものの、一般市民が参加できるイベントが少ない印象を受けている。年齢層によって教育形態のニーズが異なるため運営は容易ではないと思うが、先端技術や研究の価値を理解してもらうことは、家族や地域に伝播する効果もあるため、対象年齢や資格などが緩いイベント開催についても検討いただきたい。	最先端の企業、大学等の集積を活かして、次代を担う子どもたちが科学技術への夢を育む場など、多世代の人材を育成する機能が重要であると考えております。「科学と遊ぶ幸せな一日」や「Quantum Summer Camp」、「かわさきジュニアベンチャースクール」等、現在実施している人材育成の取組の更なる充実や、研究成果を来訪者に分かりやすく紹介する機能や、ラボでの研究活動の一部見える化など、子どもたちや市民が量子コンピューターなど最先端の科学技術に身近に触れ、学び、興味・関心を抱く環境づくりに努めてまいります。	C
37	様々なイノベーション拠点がある中、国内外の先端の量子関連技術のセミナーが聴けると、こちらのイノベーション拠点に入居する価値があると感じる。	新川崎・創造のもりでは、K2 オープンセミナーやエッジサロン、かわさき科学技術サロン、量子技術に関するセミナーなど、最先端技術に関するイベントを多数開催しておりますが、機能更新を通じて、こうした国内外の先端技術に関する情報発信の強化・充実を図ってまいります。	C

38	本計画案でインキュベータとして多くのスタートアップを誕生させることは、非常に意義深いと感じる。しかし、インキュベータ（孵卵器）という名称のとおり、現状でも稼働率が高いとのことなので、最終的にはスタートアップ企業が巣立っていくことが望ましい場合もあります。そうなれば、必ずしも川崎市内に定着するとは限らない。これは収益計画においてはネガティブである一方で、世界と渡り合う企業が川崎市から次々と生まれ、拠点としての評価が高まるポジティブな面もある。ただし、当然ながら市内で事業を継続していただく施策も必要。現状、市内への移転先として下野毛地区などが示されているが、想定される企業に対する助成制度の内容をより明確化することまでがエコシステムとしての拠点計画ではないか。	新たな施設においては、大学のほか、大企業、中小・スタートアップ企業など、様々な研究段階、規模、成長段階の企業等を受け入れられるバリエーションに富んだ面積のラボの整備を進め、かわさき新産業創造センター（KBIC）で成長したスタートアップ企業の市内定着につながる受け皿となるスペースについても検討してまいります。 また、新川崎・創造のもりへの企業集積を促進するため、入居企業に対する立地誘導・投資促進制度についても検討してまいります。	D
39	物流などで量子技術の活用性の期待が高まっている。産業横断型の量子活用とともに、異分野連携なども含めたコミュニティづくり、活用ノウハウ共有に期待している。	量子コンピューティング技術は、物流、材料開発、創薬、金融、製造など幅広い分野での活用が期待されておりますが、その社会実装に向けては、実社会で活用できるユースケースが不足しているため、実証のモデル事業を実施し活用事例を創出するとともに、共有により量子技術分野への企業参画を促進してまいります。	B
40	エコシステムの強化とも通じるが、特許事務所や税理士、金融会社、VC などの出先も入居すると、入居しているスタートアップのニーズもあり、ウインウインの関係が気付けると思う。税理士、金融会社は、地域の住民をも対象にすることにより、行政サービスも兼ねることができ、一石二鳥である。これらは1階に配置するとより利用が進むのではないかと思う。	新たな施設に入居する企業や機能、その配置については、令和7年度に選定する整備・運営事業者とともに今後検討してまいります。	D

41	全国連携、国際連携の関係性作りを是非ご検討していただきたい。本来、量子への取組は一自治体では到底取り組めないものなので、日本全体の発展に繋がると思う。	量子イノベーションパークの実現に向けて、国の「量子未来社会ビジョン」において位置付けられた全国の量子技術イノベーション拠点等、国内外の拠点・機関等と連携しながら取組を進めてまいります。	C
42	性急に利益のみを追求するのではなく、柔軟な制度設計を検討してほしい。市税を投入する以上、一定の採算性を求めることは理解できるが、企業が成功見込みの不確実性をはらむ以上、大企業の一部門では実施が難しいチャレンジこそスタートアップが担う意味があるとする。ノーベル賞受賞研究を分析した研究でも、資金繰りを優先するあまり拙速なテーマに飛びつくことなく、長期的な視点で研究を続けていたことがわかっている。	量子技術の実用化に向けては、乗り越えるべき様々な技術的課題があると言われており、本格的な実用化までは時間を要すると考えられておりまので、長期的な視点で取組を進めていく必要があると考えております。	C
43	いくら良い環境があっても会費が高額であると参画することが難しくなるので、参画しやすい会費設定を望む。	研究の加速化や成果の実用化の視点から、大企業や中小企業、スタートアップ、大学など多様な主体が集い、交流・連携しやすい環境を整備することが必要と考えております。	D
44	ライフスタイルトランスフォーメーション（LX）については、世帯形成や国際競争力の面からも、若い研究者や海外人材の確保には環境整備が欠かせない。文部科学省が博士号取得者の伸び悩みや海外流出に対して新規事業を開始したが、首都圏の研究機関が労働者や家族のウェルビーイングを計画的に支援する例は多くないように思われる。他自治体に先駆けて川崎市がこの分野の改革を進め、広く発信することは、優秀な人材誘致に大きく貢献するのではないかと。	国内外から優れた人材を誘引する機能として、研究者とその家族が、研究と生活に快適に対応するための滞在環境の整備に取り組むとともに、教育環境の整備についても周辺エリアを含めて検討してまいります。	D

(3) 土地利用・整備の方針に関すること（10件）

No.	意見の要旨	本市の考え方	区分
1	<u>新設のメインエントランス周辺について公園設備との一体感が増してとても素晴らしく感じた。創造のもりを一周できる自然歩道を作っていただけると更によいと思う。リフレッシュ目的としての利用や、米アップル社やメタ社の本社のようにウォーキングをしながらミーティングを行うことで従業員のクリエイティビティや生産性の向上が期待できると思う。</u> （同趣旨他 1 件）	<u>隣接するさいわいふるさと公園の魅力等を活かしつつ、敷地境界を感じさせない一体性のある緑地空間を形成するとともに、創造のもり全体の回遊性を向上させるため、ウォークアブルな動線の設計・配置についても併せて検討いたします。</u>	C
2	<u>現在は研究施設エリアとふるさと公園は完全に分断されており、市民や子どもたちとの間には物理的にも心理的にも結界のようなものが形成されていると感じている。</u>	<u>機能更新にあたっては、K2 タウンキャンパスとさいわいふるさと公園について、敷地境界を感じさせない一体性のある緑地空間の形成を目指し、エリア全体の回遊性向上を図ります。また、施設整備においては、研究成果を市民に分かりやすく紹介する機能の導入、研究活動の見える化など、市民や子どもたちが日常的に最先端の科学技術に触れ、学び、興味・関心を抱く環境づくりに努め、市民にとって心理的にも身近に感じられる場所へと発展させてまいります。</u>	C
3	隣接するさいわい公園についても、合わせて整備することで、地域一帯が洗練された雰囲気となるかと考える。	現在のさいわいふるさと公園の魅力等を活かしながら、他の事例等を参考に、敷地境界を感じさせない一体性のある緑地空間の形成を図ってまいります。	C

4	現在の K2 キャンパスの緑地とその隣のさいわいふるさと公園は、地域住民の散歩などの余暇利用や心身のリフレッシュに利用されており、地域にとってその存在は単なる研究施設以上の価値を発揮している。	地域住民や就業者がリフレッシュできる自然と調和した環境を充実させるため、さいわいふるさと公園と一体性のある緑地空間を形成するとともに、創造のもり全体の回遊性を向上し、散歩などにより心身のリフレッシュ・リラックスにつながる動線的设计・配置についても併せて検討いたします。	D
5	K2 タウンキャンパスの余剰地を活用した増築が、拡張性・柔軟性・可変性を備えた大空間ラボの確保や、経済安全保障に配慮したセキュリティ、交流空間の確保といった必要機能の充足に適さないという点については、より詳細な検証結果や代替案の検討も求められるのではないか。	K2 タウンキャンパスの余剰地を活用した新たな機能導入に向けた検証においては、余剰地が細長い形状となり、大空間のラボ等の整備が困難であることや研究者が日常的に集う効果的な交流空間の設置には不向きであることが分かりました。さらに、隣接する集合住宅への日影への影響から高度利用が困難で、必要機能を十分に導入できないことから、既存施設を解体し、新たな施設の整備を行うことで機能更新の効果の最大化を図るものです。	D
6	既存施設の解体と新施設の整備によって、より高度なイノベーション拠点の形成や、地域に開かれた憩いの空間の創出が可能になる点は期待できる。ただし、解体・再開発による影響やコスト、既存の研究活動や地域住民への影響を十分に考慮し、計画を進めていただきたい。	新川崎・創造のもりの機能更新による効果や影響等について、今後も計画の進捗に合わせて町内会や地域の活動団体等を通じて、地域住民や関係者、利用者の皆様へ丁寧に説明を行いながら取組を進めてまいります。	D

7	現在の K2 キャンパス施設は建設から 25 年になるが、改装すれば十分に使用継続が可能であり、近年重要視されている SDGs にまったく逆行している。民間では、マンションなどの住宅をはじめとして、建設から 40 年から 50 年間、使用を継続している施設が多数ある。本当に最新鋭の施設が必要であれば、現在の K2 キャンパス施設は有効に利用しつつ、殿町などの新規に開発している地区に新設すべきである。	現在の K2 タウンキャンパスは、当初 10 年間の暫定的な土地利用計画のもとで建設されたため、現状では容積率をはじめとする敷地のポテンシャルを十分に活かし切れておらず、また、研究環境・インフラの老朽化、拡張性や交流促進機能の不足等、世界をリードする研究開発拠点へと発展するための機能を充足していないといった課題を有しています。こうしたことから、既存施設を解体し、新たな施設の整備を行うことで機能更新の効果の最大化を図るものです。	D
8	本計画に反対する。現在の K2 キャンパスは広い敷地に 5 つの施設が配置されていて、緑豊かな静かな環境下で空間的な余裕と開放感を有する、他の研究施設とは一線を画す独自性の高い施設である。慶應義塾大学大学院の研究施設として、自由な発想で全く新しい着想を生むためには現在の施設のような環境が適切であり、そうした考え方のもとに現在の K2 キャンパスは設置されたものと考えられる。新設計画の施設は無機質で空疎であり、施設としてありきたりな研究環境であって、他地域の設備との差別化ができない。	新川崎・創造のもりの機能更新においては、大学の研究開発成果・技術シーズの社会実装、事業化を加速する良好な研究環境を整備するとともに、隣接する公園と一体性があり、地域住民にも開放的で緑豊かな憩いの空間が形成された、他の拠点にはない魅力的な環境を整備してまいります。	D

9	研究施設エリアと公園との境界を感じさせないボーダレスな空間の形成を図る計画は好感が持てるが、この内容で果たして長年に渡り形成された結界を超えられるか疑問を感じた。川崎市は公園計画にコストをかけないスタイルがあり、市民の公園計画への期待とは大きなズレを感じている。市長は「賑わいを形成したい」とのコメントをあちこちでされていますが、実際に賑わっている「大和市ゆとりの森」、「横須賀市ソレイユの丘」などを視察したことや参考にされたことはあるのだろうか。いずれも最新の大型複合遊具など設備に十分なコストをかけて整備し大きな賑わいを創出している。市民を優遇しつつ市外の訪問者からは駐車料金や入場料なども徴収してマネタイズ化、収益化にも見事に成功しているように見える。ここであれば先進的な研究整備に合わせて先進的な遊具も併せて設置・用意すれば、マスコミなどにも取り上げられて川崎市の大きなイメージアップにも繋がるのではないかと（先進的な研究整備だけではどこにでもあるので大した話題にもならないかと思う。） 近隣の夢見ヶ崎動物公園の再整備も中途半端な始末で川崎市はどうして同じことができないのかと常々不満を感じており、単純に芝生とカフェを作れば勝手に市民との賑わいが形成されるかといえ、もはやそうではないと思う。	新川崎・創造のもりの機能更新は、次の 100 年を見据えた量子技術等の最先端技術の研究開発拠点の形成を目指すものであり、その中で、施設の整備において現在のふるさと公園の魅力等を活かしつつ、公園の敷地境界を感じさせない一体性のある緑地空間を形成するものです。 ご意見にあるような大型遊具を整備した大型公園を整備し、来訪者を増やし収益化、イメージアップを図るものではありません。	D
---	--	---	---

(4) 導入機能に関すること (123件)

No.	意見の要旨	本市の考え方	区分
1	<u>近隣に飲食店や店舗が非常に少ないため、施設利用者、近隣住民の利便性の観点からカフェ、レストラン、コンビニエンスストア等の商業機能の導入・充実を希望する。</u> (同趣旨他31件)	<u>新川崎・創造のもりのエントランスにふさわしい、地域に開かれた賑わいと憩いの空間を形成するため、低層部へカフェやレストラン、売店を整備し、就業者だけでなく、来訪者、地域住民の利便性の向上に取り組んでまいります。</u>	B
2	<u>新川崎・創造のもりは、JR 新川崎駅や鹿島田駅から遠いことから、新川崎駅南側への新たな改札口の設置を希望する。併せて新川崎駅と創造のもりを結ぶこ線橋を新設していただき、創造のもりへのアクセス改善、地域の利便性向上を希望する。</u> (同趣旨他26件)	<u>JR 新川崎駅利用者の更なる安全性の確保や利便性の向上を図るため、駅南側への改札口の新設や駅施設の改良に向けては、鉄道事業者に対してこれまでも継続して要望しているところではございますが、新川崎・創造のもりの機能更新に向けて、引き続き要望するとともに、シェアモビリティの導入等、周辺駅からの新川崎・創造のもりへの交通アクセスの改善に向けてソフト対策も含めて検討してまいります。</u>	D
3	<u>JR 新川崎駅への湘南新宿ラインの快速の停車、相鉄線の停車、グリーンラインの延伸等について、鉄道事業者等と進めていただき、周辺エリアからの一層のアクセス向上を希望する。</u> 特に、慶應大学の日吉キャンパスや、湘南藤沢キャンパスと直結することによる往来が活発化することが期待される。 (同趣旨他8件)	<u>新たな施設においては、近隣の学校との連携による、子どもたちが科学技術への夢を育む取組の充実や、創造のもりでしか体験できない学びの機会について提供してまいります。</u>	D
4	<u>地域の子どもたちが最先端の科学技術・研究開発に興味を持ってくれる意義深い取組だと思う。小中高生の人材育成について期待したい。</u> (同趣旨他5件)	<u>新たな施設においては、近隣の学校との連携による、子どもたちが科学技術への夢を育む取組の充実や、創造のもりでしか体験できない学びの機会について提供してまいります。</u>	B

5	シェアモビリティの導入や周辺企業との送迎バスの共同運行などのアクセス改善や日差しや雨風を防ぐ道路整備等、アクセス環境の改善を希望する。 (同趣旨他 2 件)	企業等の立地促進や、外部からの来訪障壁の低減、交流促進を図るため、創造のもりへの交通アクセスのさらなる向上は重要な課題であると認識しており、周辺駅からの日常的なアクセス改善に向けて、シェアモビリティの導入や、立地企業等と連携した自動運転移動サービスの導入等について検討してまいります。	B
6	川崎駅方面からのアクセスも良いとはいえないので、周辺の道路整備を含めた移動手段の検討をお願いしたい。	いただいた御意見を参考に、シェアモビリティの導入等交通アクセスの改善に向けて検討してまいります。	C
7	国内外から高度人材を呼び込むには、羽田空港とのアクセスが不便である。国際カンファレンス等の誘致も視野に入れ、空港との直通バスが求められる。 (同趣旨他 1 件)	羽田空港からの直通バスについては、潜在的な需要や実現可能性を精査した上で、検討してまいります。	D
8	他の拠点にない豊富な最新の研究設備が導入されるとよい。	大学や大企業、スタートアップなどの多様な主体が集い、連携しやすい、多様な研究ニーズに対応可能な柔軟性のある研究環境を構築してまいります。	C
9	少量生産ができるようなレンタル製造スペースがあるとスタートアップや中小企業には良いと思う。	入居企業だけでなく外部の中小企業・スタートアップ、学生など誰もが気軽に試作・製作が可能な、デジタル工作機械等を備えたオープンファクトリーを整備してまいります。	C
10	ラウンジやコミュニケーションスペース、カンファレンススペースの設置など、オープンイノベーションを活性化する交流・コミュニティ機能の充実、イノベーションの促進に不可欠と考える。高度人材を惹きつける魅力ある環境の整備については是非推進していただきたい。	施設に入居する企業・大学等に加え、外部の人材やアイデアを呼び込むため、起業を目指す若い世代の人材の支援や、支援者・パートナーとの出会いの機会を提供するためのコワーキングスペース・コラボレーションスペース等を設置し、オープンイノベーションを活性化する仕掛けづくりを行ってまいります。	B

11	せっかくの産官学連携の施設だと思いますので、是非日常的な交流が生まれる仕組みや場所を組み込んでいただきたい。	コミュニケーションスペースや共用スペースなど、施設内に入居者や来訪者のカジュアルな会話が生まれる場所を設け、研究者同士のコミュニケーションを促進する工夫を取り入れるとともに、非日常的な交流を創出するイベントの実施等、連携を促す仕掛けづくりを行ってまいります。	B
12	「お節介スタッフ」や「市内企業コーディネータ」は大変心強く、興味深い試みだと思う。提案されれば参画するものの、自発的に手をあげにくい方や、共創パートナーを探していても声をかけるのをためらう方も多く見受けられる。このようなマッチング活動は、むしろ多少“お節介”な支援があるほうが進みやすいと感じる。プロジェクト発足までの経緯や過程など踏まえてコンテンツ化・共有化していただけると、単なる研究技術紹介に留まらず、研究者・URAなどにとっても有益性が高い情報で、市民も身近に感じられると考える。	コワーキングスペースにコミュニケーションマネージャーを配置し、拠点内の研究者・技術者同士のマッチング、ネットワーキングの機会を提供してまいります。	C
13	インターナショナルスクールの立地誘導は、新川崎・創造のもりへの優秀な海外人材集積と、それに伴う国内人材の惹きつけによる拠点価値向上や、若い人材との交流による活性化だけにとどまらず、川崎市全体の都市イメージや魅力向上にも波及する効果が期待できるので、ぜひ良質なインターナショナルスクールの川崎市内への立地を実現させてほしい。 (同趣旨他 1 件)	海外からの研究者を誘引し、多様な人材、高度人材の集積を図るとともに、研究者・起業家の予備軍となる若い人材が集い、施設の活用や研究者・技術者との交流を行うなど、拠点の価値を高め、活気を生み出すための仕掛けをとして、周辺エリアを含めた市内へのインターナショナルスクールの立地誘導や近隣のインターナショナルスクールとの連携について検討してまいります。	B

14	近隣住民も気軽に利用できる憩いの場・交流の場になることを期待している。 (同趣旨他 2 件)	機能更新においては、隣接するさいわいふるさと公園と一体性がある緑豊かな憩いの空間形成と、カフェ・レストランなど商業機能の導入による賑わいを生み出す、地域に開かれた拠点づくりを目指してまいります。	B
15	新川崎エリアは滞在機能が弱いと感じていたもので、滞在機能の導入は素晴らしいアイデア。研究には短期滞在も長期滞在も想定されるので、多様なタイプの部屋を確保するのがよいと思う。研究者は徹夜で研究することもある。 (同趣旨他 2 件)	国内外から優れた人材を誘引するためには、研究と生活に快適に対応できる滞在環境の整備が必要であると考えています。利用者のニーズを把握しながら、短期から中期の滞在に対応した滞在機能を整備してまいります。	B
16	イノベーションの拠点に相応しいように、国際会議等なども開催できるように周辺の宿泊施設（ホテル）機能の強化をしていただきたい。	研究プロジェクトや会議、学会等に参加する研究者・技術者の数日間の宿泊利用等に対応した短期滞在スペースの導入についても検討してまいります。	C
17	大学や企業、行政が主体となる拠点整備のなかで、周辺住民や他の地域コミュニティの相互理解と協力をどのように得るかも重要な課題である。多様な働き方に対して、市内で快適に生活できるよう柔軟な誘導策を講じ地域コミュニティへの導入コストを下げることは、労働環境の向上だけではなく、地域経済やコミュニティへの好循環をもたらせるのではないか。例えば、拠点内に不動産関連のテナントを入居させる、あるいはサービスアパートメントなどの居住施設を整備、英語対応スタッフの常駐化や地元自治会との関係強化など、様々なアプローチが考えられると思う。	国内外から優れた人材を誘引するためには、研究者とその家族が研究と生活に快適に対応できるための滞在環境を整備することが必要であると考えています。 特に海外の研究者を念頭に、世帯用の中期滞在用の居室の整備や生活のサポート環境についても検討してまいります。	C

18	「量子」にあまりピンとこない人が多いと思うので、楽しく体験できたり学べる施設をもうけ、市民に身近に感じてもらえるような仕掛けをお願いしたい。 (同趣旨他 1 件)	「科学とあそぶ幸せな一日」や「Kawasaki Quantum Summer Camp」等の更なる充実を図るとともに、研究成果を来訪者に分かりやすく紹介する機能など、多世代の方が体験し、学ぶことができる仕掛けの導入やイベント等の開催を検討してまいります。	B
19	国内外の高度人材に対して子女の教育環境として望むことをヒアリングし、市立新小倉小学校等の近隣の学校の施設・設備やカリキュラム、学級編成などに反映して頂くことをお願いします。	「科学とあそぶ幸せな一日」や「Kawasaki Quantum Summer Camp」の開催など、これまでも子どもたちが科学技術を学ぶ機会を定期的に提供してまいりましたが、機能更新を通じて、立地企業・大学や、新小倉小学校等の近隣の学校との連携により、こうした取組を強化し、年間を通じた、この場所でしかできない学びの機会の提供を検討してまいります。	D
20	今後中高生が増えていくので、科学に関する本を集めたミニ図書スペースや自習室が整備されるとより活用されるのではないかな。	中高生や大学生など若い世代が集まり、最先端の科学技術の情報に触れ、学べる機能や、デジタル工作機械等を活用した試作を後押しする機能、仕掛け等について検討してまいります。	C
21	住民に対して最先端技術が身近にあることを実感できる施策や機会が一層増えることを願っている。	最先端の科学技術が身近に感じられるイベントとして、これまでも定期的に開催している「科学とあそぶ幸せな一日」のような科学体験教室は、創造のもりでしか体験できない貴重なコンテンツであり、こうした最先端の科学技術に触れる機会を充実させていくとともに、建物の配置や動線の工夫等により、研究施設の一部スペースは外部に見えるような仕掛けについても検討してまいります。	B
22	子どもたちの STEM 教育に寄与する拠点になると嬉しい。 (同趣旨他 2 件)	機能更新を通じて、子どもたちが最先端の科学技術に触れ、学び、体験する機会を充実させることにより、科学技術分野の発展をリードする次世代人材育成の取組を進めてまいります。	C

23	慶應義塾大学などの研究機関との産学官連携により、量子技術やAI・データサイエンス分野の教育プログラムが強化され、次世代の人材が育成されるとともに、地元高校・大学生向けのハッカソンやインターンシップ機会を提供することで、新たな地域文化の創出が期待される。	機能更新を通じて、市内の高校生や大学生を対象とした量子人材育成プログラムや研究室見学等の取組について強化・充実化してまいります。 また、新たな拠点においては、高校生・大学生世代を念頭に、若い世代が集まり、起業に向けた活動やインターンシップの機会の提供、デジタル工作機械等を活用した試作を後押しする機能等の仕掛けについても検討してまいります。	C
24	新川崎を起点として新技術を活用したテストマーケティングシティとなることを期待。 (同趣旨他 1 件)	新川崎・創造のもりを中核とする量子イノベーションパークを実現するため、市内の地域課題の解決に向けた実証フィールドの提供等について取り組んでまいります。また、機能更新においては、施設における研究成果の活用や、実証フィールドとして活用できるような開放的な空間設計についても工夫してまいります。	C
25	子どもが安心して遊べる広場をつくってほしい。	さいわいふるさと公園との一体的な緑豊かな空間の形成など、地域に開かれた機能の導入により、地域住民が気軽に利用・来訪できるエリアの形成を目指してまいります。	D
26	新川崎地区は区民が移動しやすい場所に位置しているため、災害発生時における避難場所としての整備を進めてほしい。 (同趣旨他 1 件)	高度な研究開発機能に加え、滞在機能やアメニティ機能を備え、地域に開かれた拠点を整備することを踏まえ、入居者や来訪者の安全・安心に配慮した防災計画や施設計画について検討してまいります。 なお、避難場所については、創造のもりが研究開発施設であることから、緊急時の安全性やセキュリティに配慮が必要であり、不特定多数の自由な出入りが難しいことから、災害時には、近接する日吉小学校へ誘導することとなっております。	D

27	個人的には有事に役立つ研究もしてほしい。臭いの出ない清潔な簡易トイレ、再生飲料水、クリーンエネルギー、などを備えた大規模な避難場所としての施設。	新たな施設においては、量子技術をはじめとして、半導体や AI などの最先端コンピューティング技術の集積拠点を目指しています。将来、量子コンピューティング技術はエネルギー分野や創薬、素材開発など幅広い分野への活用が期待されています。	D
28	一般的に研究施設に対しては閉鎖的なイメージがあるが、オープンファクトリーやコワーキングスペースが併設され、普段触れることのない科学技術の学習や利用者の交流促進が期待されるなど、多様な機能とその可能性に魅力を感じている。	大学や企業、スタートアップなどの多様な主体が集い、様々な研究ニーズに対応できる、研究開発を加速する良好な研究環境を整備するとともに、外部の人材やアイデアを呼び込むため、コワーキングスペースやオープンファクトリーの整備についても推進してまいります。	B
29	集客がなければ長期稼働は難しい。モノ、サービスがシェアできる空間が必要。特に、広く講義やイベント発表のできる、劇場（シアターホール）が必要。付近の幸区市民館は 2030 年には築 50 年を迎え老朽化が進む。市民活動の中心となる場所に必要になることは明白。人の流入には必要不可欠だと考える。	本計画では、新たな施設において、大規模な講演会やイベント発表等に対応可能な約 1,200 平方メートルの会議室を想定しております。	D
30	施設に開放エリアを作り、先端技術などを展示説明するショーケースや、展示会ができるスペースなどがあると良い。研究者、起業家だけがアクセスできる閉じられた施設だけでなく、市民も立ち寄って新しい技術に触れあえる開放的な場所を作してほしい。 (同趣旨他 3 件)	施設の配置や仕様、動線の工夫等により、セキュリティや経済安全保障に配慮しながら、一部スペースは見学者等に技術を見せる工夫を図った設え等について検討してまいります。また、コワーキングスペース等において、研究成果を発信する展示スペースの設置等についても検討してまいります。	B

31	会員企業が共有して自然に交流できるワークスペースや、企業同士が交流できる企画などにより、方向性が一致する会員企業同士で連携できる機能があると、参画する価値が高まる。	入居者や来訪者が自由に交流するコミュニケーションスペースやオープンスペースを、動線の結節点となる施設の低層部や各フロアに配置するなど、日常的な交流や異分野とのコラボレーションを促進します。また、コワーキングスペースにおいても、若い研究者や技術者が自然発生的に自分のアイデアを発表し、組織の垣根を越えて集まった仲間とディスカッションできる場所を提供してまいります。	B
32	COI-NEXT においては、プロジェクトに参画する女性研究者の比率が評価対象となっていたと思う。したがって、女性が働きやすい環境づくりは社会的需要を満たすだけでなく、拠点そのものの評価を高める要素でもある。一般論として、育児が女性のキャリア形成を阻害しやすいといわれているため、保育園や小学校、小児科・婦人科など育児支援施設や制度の拡充をぜひ検討いただきたい。	国内外から最先端の研究開発をリードする高度人材を誘致するため、良好な研究環境や滞在環境を整備するとともに、近隣施設の利用状況やニーズ等を踏まえながら、生活環境の充実に向けて必要なアメニティ機能等を民間事業者とともに検討してまいります。	D
33	施設内にも乳幼児親子や小学生～高校生がひとりでも気軽に利用できるフリースペースがあるとよい。	施設利用者のニーズを踏まえ、創造のもりに必要となる機能について、民間事業者と協議しながら検討してまいります。	D
34	緑地と一体化したオープンなアクセスを提供する構想に大変魅力を感じる。	地域に開かれた、さいわいふるさと公園との一体的な緑地の配置や、自然との調和に配慮した緑地環境の構築、回遊性の向上に向けた動線の整備について検討してまいります。	B
35	オープンイノベーション戦略と経済安全保障を意識したクローズ戦略とを組み合わせた、オープン・クローズ戦略とあわせて非常にバランスよく研究開発に必要な機能を備えているように思われる。	量子・AI・半導体技術等の先端コンピューティング技術は、経済安全保障上の重要性が高いことから、オープン・クローズ戦略を効果的に活用することが、研究開発を行う上で必要となります。具体的なセキュリティ機能については、企業、大学等の意見を踏まえ、民間事業者と協議しながら検討してまいります。	B

36	宿泊施設や会議・イベントスペースは、創造のもり入居企業や機関の利用にあたり優遇してほしい（金額、予約優先など）。	滞在機能や会議室の詳細な運営方法については、民間事業者とともに今後検討してまいります。	D
37	これまでの環境技術分野の実績に量子技術を活用することで、エネルギー最適化シミュレーションによる CO₂削減やグリーンテクノロジーの研究促進など、環境負荷の少ない先端技術の研究・実装が進むことが期待される。しかし、量子技術や AI の開発には膨大なエネルギーが必要とされるため、再生可能エネルギーの活用や「脱炭素」「環境負荷低減」を意識した研究拠点の形成が重要。	量子コンピューターは古典コンピューターに比べてエネルギー効率がよく、環境負荷の低減が期待できることから、量子コンピューティング技術の実用化に向けて関係者と連携しながら取り組んでまいります。 また、機能更新においては、サステナビリティ・トランスフォーメーション（SX）に貢献する研究開発拠点を目指すことから、施設計画においても、GX の視点を導入し、環境負荷の少ない施設の整備を検討してまいります。	C

(5) 施設計画・運営方針関すること (30件)

No.	意見の要旨	本市の考え方	区分
1	<u>新規企業等の誘致に伴い、高度な専門知識を持つ人材や研究者が流入することで、質の高い雇用機会が創出されます。また、川崎市内の大学や教育機関との連携により、次世代の人材育成や産業基盤の強化が図られることが期待される。</u> (同趣旨他 1 件)	<u>機能更新を通じて、創造のもりに国内外から最先端技術の研究開発を行う企業と高度人材を誘致し、新たな雇用を創出するとともに、創造のもりに集積する企業・大学等と市内学校等との連携による次世代人材の育成の取組を強化してまいります。</u>	B
2	新設計画の施設の必要性や使用見込みの検討において、現実の実態を入念に調査して反映しているか疑問である。市の説明資料では<u>KBIC、NANOBIC、AIRBIC の近隣施設の稼働率はほぼ 100%とされているが、入居している部分を対象とした稼働率で、実態としては多くの利用率の低い会議室があるのではないか。そのため、工事期間中に K2 キャンパスの研究室を近接施設に移動することが可能と考えているのではないのか。利用率の低い無機質で空疎な施設の存在は、地域の不活性化や衰退につながることを懸念される。</u>	<u>KBIC 本館、NANOBIC、AIRBIC の入居率はほぼ 100%となっており、また、これらの施設の会議室についても多くの方に利用されているため、会議室を K2 タウンキャンパスの研究室へ転用する予定ではございません。</u> <u>なお、K2 タウンキャンパスの移転先は、既存施設 (KBIC 本館、NANOBIC、AIRBIC) に入居する企業等が入居期限を迎えて退去した後の居室と、KBIC 敷地内において一時的な受け皿としての機能を果たす小規模プレハブラボを想定しています。</u>	D
3	市内には、建物や設備・什器の保守管理、衛生管理、修繕、植栽維持管理に長けた企業が多数存在すると思われます。施設計画等においては、企業育成の観点からも、こうした市内企業を積極的に活用する方針を検討いただきたい。 (同趣旨他 1 件)	新たな施設は、民間事業者により整備・運営される施設となりますので、民間事業者と連携しながら施設の管理・運営方針等についても協議・検討してまいります。 また、施設計画においては、新川崎・創造のもりや市内の企業、大学等の技術、研究開発の成果の活用・導入についても検討してまいります。	D
4	入り口側の大きな 2 本のシンボルツリーや道沿いの桜は綺麗なので、残してほしい。 (同趣旨他 1 件)	民間事業者の提案をもとに、地域に開かれた開放的な憩いの緑地空間の形成について検討してまいります。	D

5	本計画が実現することで、量子コンピューターや AI 技術を活用するスタートアップ企業、研究機関、大学研究室などの誘致により、地域経済が活性化するとともに、国内外の企業や投資家、VC 等の関心を引き、新たな投資が流入することが期待される。	新川崎・創造のもりに、量子・AI・半導体等の最先端コンピューティング分野の企業、大学、研究機関等を国内外から誘致するとともに、創造のもりに立地する企業等の成長や研究成果の社会実装を加速させるため、ベンチャーキャピタル等からの投資を促進する仕掛けづくりについても検討してまいります。	B
6	新川崎・創造のもりの強みである量子技術やスタートアップ支援機能を、市内の他のイノベーション拠点と連携させ、エコシステムを形成するという視点到に賛同する。特に、既存施設の指定管理者との連携や、効果的なマネジメント拠点の設置による適切な運営体制の確立が、今後の成功の鍵となると考える。	新川崎・創造のもりの持つ量子技術やスタートアップの集積・輩出機能と市内のイノベーション拠点との連携によるエコシステム形成の視点を踏まえ、K B I C等の既存施設の指定管理者との連携やマネジメント拠点の設置等、適切な運営体制を検討してまいります。	B
7	新たな施設がラボ機能だけでなく、アメニティ機能や商業機能も含む複合施設となる点については、多様な関係者が集まりやすくなり、イノベーション創出の促進につながることを期待される。そのためにも、様々な企業体との会話等により、新川崎・創造のもり全体の視点を持って運営方針を検討するという方針は重要だと考える。	民間事業者により新たに整備・運営される施設は、企業・大学等が入居するラボ機能が中心となるものの、アメニティ機能、商業機能も含まれる複合的な施設となることから、本市の十分な関与のもと、新川崎・創造のもり全体の総括的な視野を有した運営方針を検討してまいります。	B
8	有望な入居者が集まる要因は「立地（利便性）」「費用（賃料）」そして、「キーテナントの存在」である。機能更新後の施設に有望な入居者を集めるためには、キーテナントをあらかじめ呼び込む必要があると思う。	国内外からトップレベルの企業や研究者・技術者を創造のもりに集積させるため、民間事業者とともに魅力ある大型プロジェクトや中核企業等の立地誘導に取り組んでまいります。	C
9	新たなまちの拠点として、イベントの開催などを通じソフト面でも地域に開かれた利用を期待したい。	民間事業者やK B I Cと連携し、就業者や来街者、周辺住民の利用を高める公共空間の活用やイベントスペースを使ったイベント開催等、ソフト面でも地域に開かれた運営を行ってまいります。	B

10	施設を利用する人、公園を利用する地域住民や管理活動をする人、どちらかの一方通行ではなくお互いに関われるような仕組みや空間づくりを期待している。	さいわいふるさと公園との一体的な緑地の配置や回遊性の向上に向けた動線の整備を行うとともに、施設利用者や公園利用者が相互に関われるような仕掛けづくりやイベントの実施等についても検討してまいります。	C
11	どんな世代の人でも気兼ねなく利用しやすい施設・空間であってほしい。	創造のもりに立地する企業、大学、研究機関だけでなく、地元住民や大学生・高校生、子どもたちなど全ての世代の方々が様々な使い方、関わり方ができるような賑わいと活気のある施設や空間形成を目指し、民間事業者と連携しながら整備計画や運営方針等を検討してまいります。	C
12	2025 年問題として、AI 利活用に伴う電力消費量の増加が大きな課題となっている。量子コンピューターは環境負荷低減に寄与するが、現時点では大型 HPC の導入が不可欠な場面も続く見通しであり。川崎市は水素燃料拠点の整備なども通じて GX に取り組んでおられるので、具体的にどの程度 CO2 排出を削減しながら先端技術を実装するのか、ロードマップを提示することで一層の説得力が生まれると考える。	量子コンピューターは古典コンピューターに比べてエネルギー効率が高く、環境負荷の低減が期待できることから、量子コンピューティング技術の実用化に向けて関係者と連携しながら取り組んでまいります。	D
13	研究の重要な拠点として、さまざまなコラボレーションが起きると良いと思う。そのためには、コラボレーションが促進されるように、滞在時間も楽しくなるような広く開かれた空間が必要と感じている。休めるような広場も重要であり、カフェや買い物ができる空間も必須と思う。	多様な世代や属性の方が創造のもりを利用できるよう開かれた緑地空間を形成するとともに、建物の低層部には就業者がリラックスでき、地域住民も立ち寄りたくなるカフェ・レストランを配置するなど、誰もが気軽に利用し交流できる開かれた拠点形成を目指してまいります。	B
14	子どもの多い地域でもあり、広場は残していただきたい。	機能更新においては、さいわいふるさと公園の広場などはそのまま残しながら、公園の魅力等を活かしつつ、敷地境界を感じさせない一体性のある緑地空間を形成してまいります。	B

15	量子イノベーションパーク構想により国際化が進むと想定されるが、国際的な場所として受け入れるためには、英語表記等による駅からまでの明確に誘導できる仕組みや、歩道の交通整理などが必要と考える。	国内外の最先端企業・高度人材を誘致するため、多言語・ピクトグラム等を用いた案内図の設置や、その視認性を確保することにより、国籍や年齢、文化、身体状況など個性や違いに関わらず、だれもが利用しやすいユニバーサルデザインの視点に配慮した整備を行ってまいります。	C
16	歩いているだけで楽しい場所ができれば嬉しい。	創造のもりの回遊性を高める、地域に開かれた、居心地の良いウォークアブルな空間設計とオープンスペースの整備について検討してまいります。	B
17	壁面緑化や、広場、地域との共存共栄研究施設の整備はとても素晴らしい事だと感じた。	創造のもりの機能更新においては、環境性能に配慮した施設整備と地域に開かれた賑わいと憩いの空間の形成に取り組んでまいります。	B
18	線路側の歩道は人通りも少なく草木も多いため、昼間でも通行に不安を感じるレベルなので、改善していただければと思う。	創造のもりエリア全体や駅からの動線において、誰もが安全にアクセスしやすく、利用しやすい環境の整備について検討してまいります。	C
19	最大 45 メートルの高さになるとのことだが、大体マンションの何階くらいの高さになり、実際に日当たりの影響がどのくらいになるのか知りたい。場合によっては高さの制限を求める。	新川崎地区地区計画において、当地区で建築可能な建物の高さが最大 45mまでに制限されております。 実際に建築される建物の高さは地区計画に基づく民間事業者の提案内容により異なりますが、周辺の集合住宅等への日影や眺望等に配慮した施設計画となるよう、民間事業者と連携しながら検討してまいります。	D

20	高度人材を惹きつけ国内外から優れた人材を誘引するためには、また拠点の魅力を向上させる賑わいと憩いの場とするには、施設計画にあたっては建築デザインも魅力あるものにすることが重要と考える。川崎市民が誇りを持てるような素敵な建物となるように外観の意匠設計にも力点を置いていただくことをお願いしたい。	研究開発施設として最先端の研究活動が行えるラボ環境を整備するとともに、新川崎都市景観形成地区の基準に則った外観デザインについて民間事業者と連携しながら検討してまいります。	D
21	幸区は緑被率が低いので、地区の緑の保全をすすめていただきたい。	新川崎地区地区計画で定められている緑化率を満たしていくとともに、緑化率以上に緑を感じられる緑視率の向上に向けた緑の配置等の工夫について検討してまいります。	D
22	パースの表現が美しく、完成後の施設利用の様子がイメージしやすい。	新川崎・創造のもりの機能更新について、市民に分かりやすくそのイメージを持っていただくため、文字情報だけでなくパース等のイラストを用いながら引き続き情報発信していきます。	B
23	花や植物をたくさん植えて欲しい。	創造のもりの機能更新においては、ふるさと公園と緑と調和した、自然との触れ合いが楽しめる一体的な緑地空間の形成を目指してまいります。	B
24	近隣の工事車両と思われる車両が線路側の道路に駐停車車しており、交互交通を行う状況となっている。駐車車両の数も多く、さらに周辺企業の通勤バスの往来もあるため、かなり危険な状況。かわさき新産業創造センターの来訪車が入構する際にも障害になっている。こちらは、定期的な取り締まりもしくは、工事発注者の待機場所確保・入構時間変更などの対策案が考えられる。	警察や関係機関との関係を図りながら、路上駐車違反の低減に向けて検討してまいります。	D

25	学問エリア、商業エリア、自然エリアの複合機能を備えた大規模な施設になってもらいたい。	創造のもりの機能更新を通じて、研究機能をはじめ、商業機能、滞在機能等を導入するとともに、さいわいふるさと公園の自然と調和した一体的な緑地を形成するなど、多様な方々を対象として、様々な関わり方、使われ方、楽しみ方等の接点を持てる魅力的で活気のある複合的な拠点を目指してまいります。	C
26	オープンファクトリーはあくまでイメージ図であり、実際にあのようなガラス張りの施設が建設されるわけではないと理解しているが、現実にと近い設計にされた場合、夏季や冬季の空調費用の増加、日光におけるサンプルや資料の損傷、機密保持のためのカーテン設置などで景観が損なわれる可能性もある。こうした課題への配慮も設計段階で検討してほしい。	記載のとおり、パースは具体的な機能がイメージしやすいように、居室の中が見えるような形で描いております。 施設計画においては、景観に配慮しながら、良好な研究環境を整備するとともに、G Xの視点を導入し、環境負荷の少ない施設となるよう、先進的な環境技術の導入や屋上緑化、壁面緑化等について検討してまいります。	D
27	49,000 m ² の巨大な施設が計画通りに利用された場合は、周辺道路や地域住民生活への影響が懸念される。研究施設他への物品の搬入は、施設東側に線路との間の道路において、交通量の増加だけでなく、現在でも頻繁に発生しているトラック等の長時間駐車が増加が憂慮される。また、2,000～5,000 m ² という膨大な部屋数と推定される滞在施設には、国内外から不特定多数の研究者が宿泊するため、地域住民の生活への多様な影響が危惧される。	本施設は主に研究開発施設であることから、周辺道路へ影響を及ぼすほどの大幅な交通量の増加は発生しない見込みです。なお、K B I CやK 2タウンキャンパス等の既存の施設の就業者の大半は公共交通機関で通勤している状況です。 また、国内外から集積を目指す高度人材の滞在機能についても、地域と調和した環境づくりに向けて、滞在時のサポート等について検討してまいります。	D

(6) その他 (6 件)

No.	意見の要旨	本市の考え方	区分
1	新川崎が技術的に優れていることを初めて知った。	本市のなかで、新川崎地区には研究開発に取り組む企業が多数集積しており、これらの企業等の研究成果から新たな技術や産業の種が生み出されております。こうした成果や活動がこれまで以上に市民の皆様に広く認知されるよう、積極的な情報発信に取り組んでまいります。	E
2	県内で川崎市は非常に活発に活動している地域と認識している。		E
3	パッケージデザインの仕事に携わっているので、商業機能として出店されたお店などで地元にあざわかれることができたらと考えている。幸区さらには川崎市の発展に期待している。このような意見を言える場をもうけていただけてありがたい。	新川崎・創造のものの機能更新については、商業機能も新たに導入いたしますので、市内で事業を営む方にも様々な形で関わっていただければと考えております。	E
4	建物の老朽度合のことを考えると、この拠点の更新よりも先に老朽化した小学校の改築や体育館への冷房設備の設置をするべきではないのか。イノベーションよりも前に安全を保障するためにお金を使うべきではないのか。熱中症対策をしろと言っている中で設置がされていないのはおかしくないのか。	学校施設の改修等については、今回の意見募集の趣旨範囲とは異なります。	E
5	現状の貿易赤字を、早期に貿易黒字転換が必要。具体的な輸出増加の案件モデルを設定し早期の輸出増加計画を立案し、お手数ですが追記してほしい。例えば、水素や水素関連技術の輸出や、半導体関連技術の輸出の計画である。	輸出増加の計画については、今回の意見募集の趣旨範囲とは異なります。	E

6	以前、新川崎に関するパブリックコメントにおいては、利害関係者のコメントばかりだとして委員会で指摘されていた。私は直接の利害関係者ではないが、議事録を拝見した際、その対応にやや疑問を感じた。確かに同時期に行われた他のパブリックコメントの応募件数と比較すれば、数倍以上のコメントがあったなど当然そのような受け止めになる面はあると思う。しかし、パブリックコメントの性質上、意見者が偏ることも一定程度想定されているはずである。そもそも、パブリックコメントによって大幅な計画方針転換がなされた例はあったのだろうか。事務局の業務負担を考慮されているのであれば理解できますが、意見者の素性や利害関係を疑い、意見を排除したり議論されなかったりするよりも、有効そうな意見を拾い上げて議論される方が、発展性があると思う。	新川崎・創造のもりの機能更新については、直接の利害関係者だけでなく、広く市民の皆様に周知し、パブリックコメントにおいても様々な立場からの御意見をいただき、計画の推進の参考とさせていただきたいと考えております。	E
---	---	---	---



新川崎・創造のものの機能更新に向けた
イノベーション拠点整備基本計画 概要版

～量子イノベーションパークの実現及びK²タウンキャンパスの機能強化に向けて～

令和7(2025)年3月

川崎市

01 取組の背景・目的 本編p.2-5

- 令和5(2023)年8月、本市と慶應義塾は新川崎・創造のもり地区の機能更新に向けて協力・連携協定を締結し、次の100年を見据えた我が国の成長をけん引する拠点として、更なる発展を遂げることを目指した協議・検討の取組を開始しました。
- また、令和6年(2024)年4月には「新川崎・創造のもりの機能更新に関する基本的な考え方」を策定し、川崎市が目指す新川崎・創造のもりを中核とした「量子イノベーションパーク」と慶應義塾が目指す「世界に伍する研究開発拠点」を一体的な視点で検討を進め、K²タウンキャンパスの機能更新を通じ、新川崎・創造のもり全体の機能更新を推進し、先端企業・大学等が集積し、研究開発を加速する良好な研究環境機能や高度人材を惹きつけ、国内外から優れた人材を誘引する機能、地域に開かれた憩いの空間等の6つの機能の導入について、整理しました。
- こうした基本的な考え方に基づく、新川崎・創造のもりの機能更新を具体的・着実に実現するため、今般、「新川崎・創造のもりの機能更新に向けたイノベーション拠点整備基本計画」を取りまとめ、今後の事業実施に向けた取組を推進するものです。

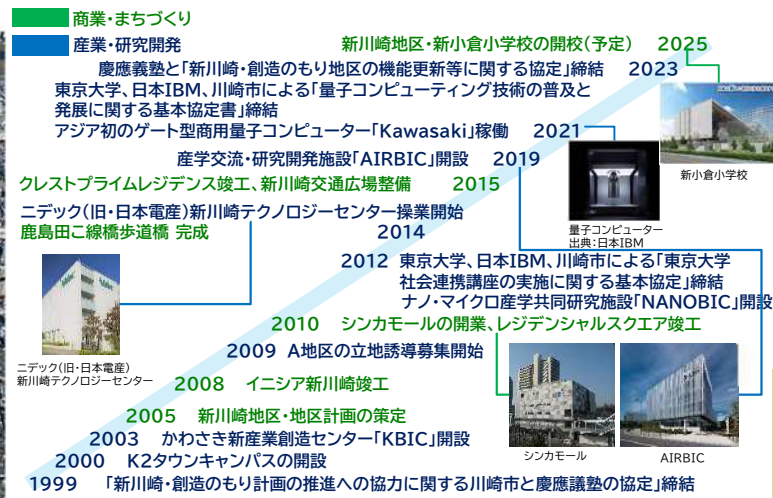
02 地区の概況・成果 本編p.6-23

2-1 新川崎地区の概況

- 新川崎地区は旧国鉄の操車場跡地を中心としたエリア(33.2ha)で、平成17(2005)年に新川崎地区・地区計画を策定し、整備・誘導を推進しており、研究開発企業やものづくり企業の立地が進み、本市を代表する産業集積地へと発展しており、住宅や交通インフラの整備も大幅に進展しています。
- 新川崎・創造のもりは、D地区に位置し、産学官の連携による新しい科学・技術や産業を創造する研究開発拠点の形成と次代を担う子どもたちが科学・技術への夢を育む場づくりを目指し、段階的な施設整備を推進しています。



新川崎・創造のもりの事業スキーム



K²タウンキャンパス

土地所有者:川崎市
借地権者・建物所有者:まちづくり公社
維持管理:まちづくり公社
入居:慶應義塾大学(まちづくり公社と賃貸借契約)
借地権者:一般財団法人川崎市まちづくり公社 (事業用定期借地権契約)
底地権:川崎市

かわさき新産業創造センター (KBIC、NANOBIIC、AIRBICの一部)

土地・建物所有者:川崎市
指定管理者:かわさき新産業創造センター共同事業体 (指定期間5年間:令和5(2023)年度~令和9(2027)年度)
入居:ベンチャー企業・大学等(市から利用許可)

底地権:川崎市

【さいわいふるさと公園】

- さいわいふるさと公園(18,149㎡)は、緑豊かで様々な活動や憩いの場として利用できる都市公園(近隣公園)として平成22(2010)年に開設
- 4つのグループが協力し、「さいわいふるさと公園管理運営協議会」をつくり、維持管理や花植え作業等の活動を実施

K²タウンキャンパス

平成12(2000)年~	慶應義塾大学の約20の研究プロジェクトが入居
KBIC 平成15(2003)年~	ものづくり支援機能を備えた新産業支援施設
NANOBIIC 平成24(2012)年~	ナノ・マイクロ技術の産学官共同研究施設
AIRBIC 平成31(2019)年~	官民連携整備のオープンイノベーション拠点

2-2 これまでの成果

2

○これまで様々な立地企業が成長・発展しており、国内外で注目される幅広い分野の研究開発型スタートアップ企業を輩出しています。

株式会社LexxPluss

KBIC卒業



出典：株式会社LexxPlussHP

- 自動搬送ロボットによる物流自動化システムを開発
- 設立約5年で従業員約50名に成長し、市内に本社・研究拠点を拡張移転

Heartseed 株式会社

AIRBIC



出典：Heartseed 株式会社HP

- iPS細胞を用いた重症心不全の抜本的治療法を開発
- 令和6(2024)年7月、東京証券取引所グロース市場に上場

株式会社Veritas In Silico

NANOBIIC



出典：株式会社Veritas In Silico

- mRNA上の部分構造を標的とする新しい概念の創薬システムを確立
- 令和6(2024)年2月、入居中企業で初めて東京証券取引所グロース市場に上場

LQUOM 株式会社

KBIC本館



出典：LQUOM 株式会社

- 量子通信システム、量子中継器の開発と製品化に取り組む、横浜国立大学発のスタートアップ

○先端分野での企業・大学の研究開発の実用化・実証に向けたオープンイノベーション型のプロジェクトが複数展開していることが大きな特徴の一つです。

ナノ・マイクロ技術

慶應義塾大学、早稲田大学、東京科学大学、東京大学の4大学のナノマイクロ分野の先端研究拠点



量子インターネット通信

量子インターネットの産学官連携研究開発コンソーシアムが汎用量子通信ネットワークのテストベッド環境を構築



次世代半導体パッケージ開発

基板、装置、材料メーカー、次世代半導体パッケージの技術変化に応じた評価技術、基板、材料、装置を開発



出典：(株)レゾナックHP

○次世代を担う人材の育成や、企業・大学の連携を生み出すイベントを多数開催

科学とあそぶ幸せな一日



小中学生向け科学体験イベント

かわさきジュニアベンチャースクール



小中学生向けアントレプレナーシップ醸成プログラム

Kawasaki Quantum Summer Camp



高校生向け量子コンピューター人材育成プログラム

K2 OPEN SEMINAR



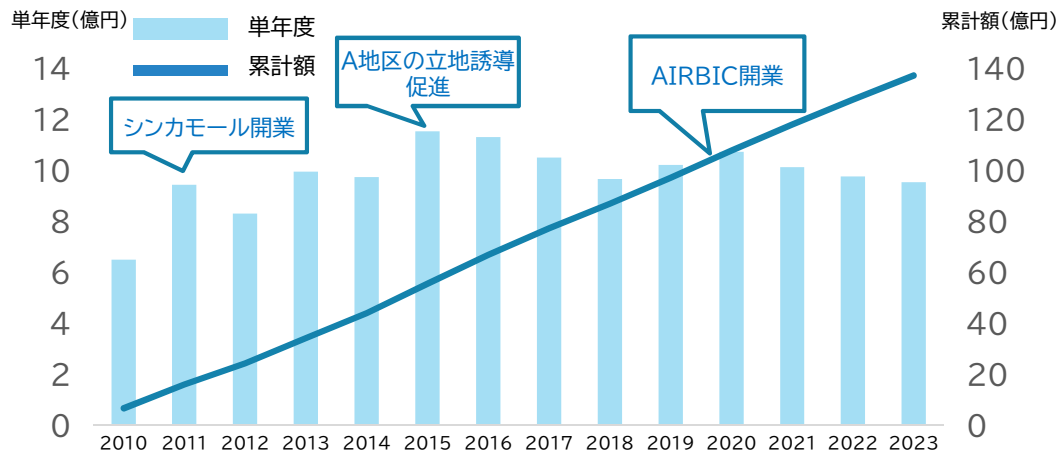
地域の企業等を対象に慶應義塾大学の先端的研究開発の成果を還元

○新川崎地区の拠点整備を通じ、市税収入の推計額や、立地企業の成長に伴う雇用人数等から、本市への高い還元効果がもたらされていると考えられます。

- 地区内の法人市民税・固定資産税・事業所税の推計額は、平成22(2010)年から令和5(2023)年までの累計で約142億円
- 支援実績は、資金調達の累計額、IPO、M&Aの成果も着実に創出し、地区内の事業所数・従業者数も大きく増加

地区内の法人課税の概算税收金額(推計)

累計額：約142億円(個人市民税を加えて累計額は約238億円)



創造のもりでの支援実績

7社

IPOまたはポジティブなM&A
KBIC開設からの累計

252億円+

資金調達の累計額
直近10年間の実績※令和6(2024)年3月時点

6社

Jスタートアップ
NEXTユニコーン企業数
令和6年10月時点

9社+

10億円以上の資金調達達成
企業数 ※令和6(2024)年3月時点

14社

慶應発スタートアップ数(累計)

108社+

卒業企業数
※令和6(2024)年3月時点

地区内の従業者数の推移

	平成21(2009)年度		平成24(2012)年度		平成28(2016)年度		令和3(2021)年度	
	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数
A~D地区	15	152	14	194	43	1,159	82	1,690
E、F地区	4	85	15	2,189	5	466	10	962
合計	19	237	29	2,383	48	1,625	92	2,652

経済センサス調査から作成

2-3 「量子イノベーションパーク」実現に向けた取組

3

- 世界各国において、量子コンピューターの実用化に向けた国家戦略の策定や巨額の投資を行う動きが活発になるなど、開発競争が激化しています。
- また、量子コンピューターの実用化に伴う社会的・経済的インパクトや、経済安全保障上の重要性から、量子技術の重要性・競争性が高まっています。
- 川崎市では、新川崎・創造のもり地区が世界の他の拠点と比較しても高い優位性を持つ量子コンピューティング技術を活かし、同地区を中核とする市内全域での量子分野におけるイノベーションの創出を図る「量子イノベーションパーク」の取組を推進します。

量子コンピューティング技術とは

- ・「量子力学」の法則を利用して、従来のコンピューターでは膨大な時間を要する複雑で高度な計算を、短時間で解くことを可能とする技術
- ・電力消費が極めて小さいことが特徴であり、将来、材料開発、創薬、金融、AIなど幅広い分野で活用され、革新的な成果を生み出すと期待

量子イノベーションパークとは

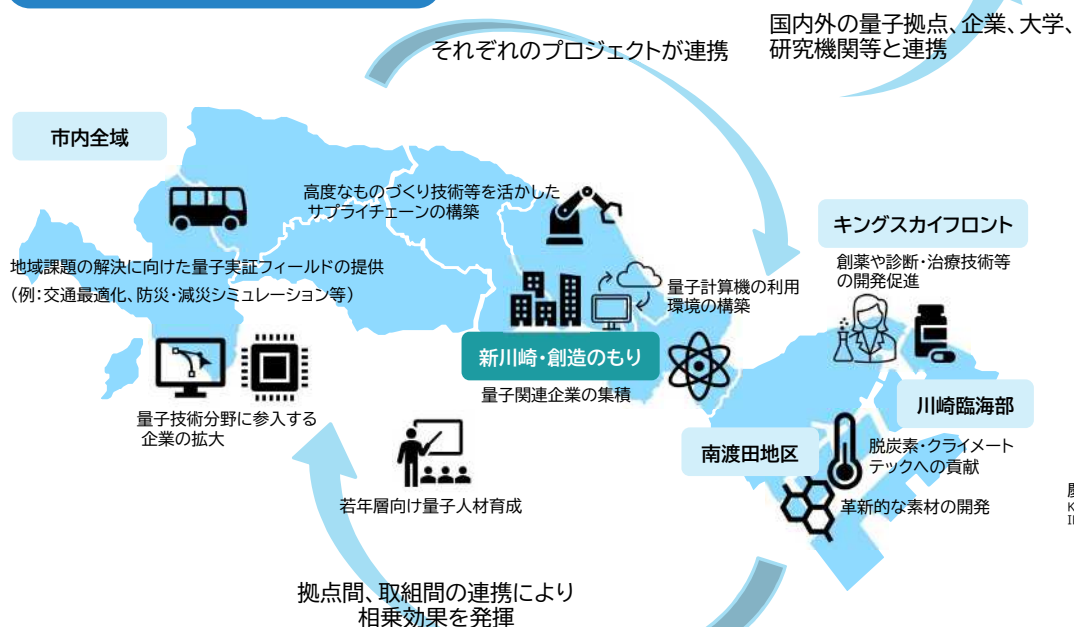
量子技術を核としたイノベーションの創出に向けた多様な研究・実証・教育プロジェクトが、新川崎・創造のもりを中核として、様々な企業・研究機関等において市内全域で展開される姿を言い、それぞれのプロジェクトが相互に連携、影響を及ぼしあうことで、世界の量子イノベーションを先導するエコシステムが形成されることを目指すものです。



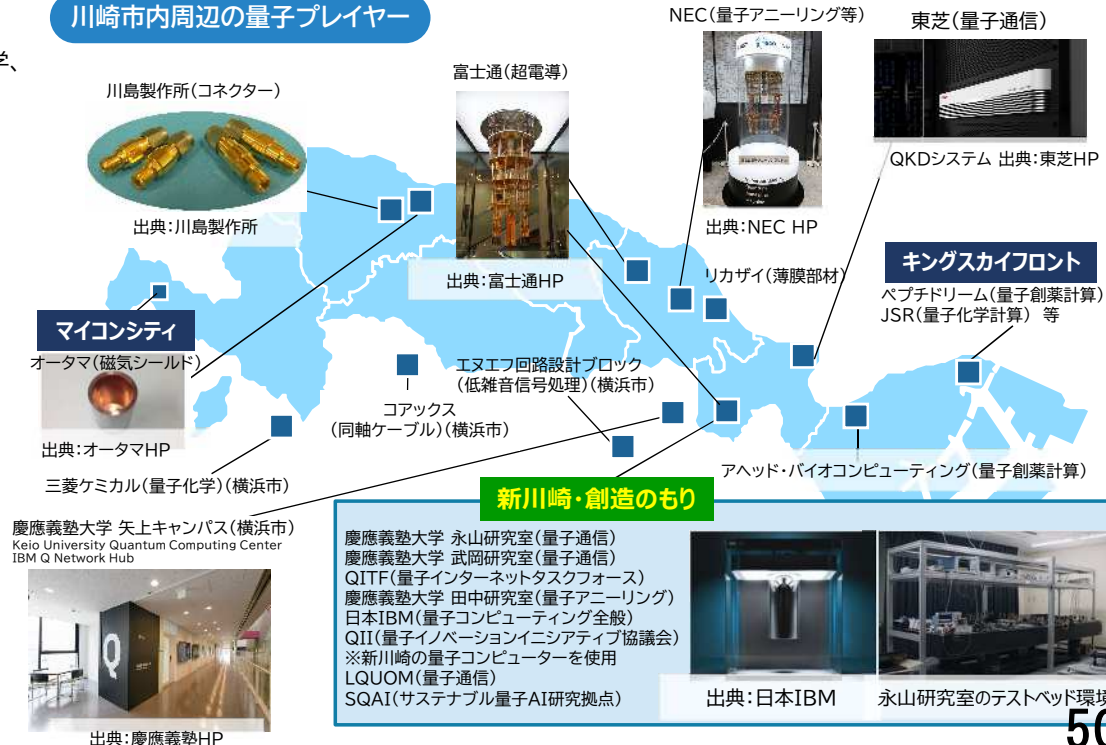
新川崎・創造のもりで稼働する国内最高性能のゲート型量子コンピューター
IBM Quantum System One「Kawasaki」

- 中核となる新川崎・創造のもりでの量子関連企業の集積や量子人材育成の取組に加え、市内ものづくり企業の高度な技術等を活かした量子サプライチェーンの構築、量子コンピューターを活用した臨海部での創薬や脱炭素、クライメートテックの研究開発の促進、市内の地域課題の解決に向けた量子実証フィールドの提供など、拠点間、プロジェクト間の連携により相乗効果を発揮し、市内全域での量子イノベーションパークの実現に向けた取組を推進します。
- 川崎市内及び市内周辺には、量子コンピューターのハードウェア開発から、ハードウェアの周辺部材、量子コンピューターのユーザー企業、量子インターネット通信などの幅広い分野の企業・大学が集積しており、量子イノベーションパークの実現に繋がる高いポテンシャルを有しています。

量子イノベーションパークのイメージ



川崎市内周辺の量子プレイヤー



3-1 機能更新の基本方針

- 令和5(2023)年8月慶應義塾と川崎市が「新川崎・創造のもり地区の機能更新等に関する協定」を締結し、連携協力して「新川崎・創造のもりの機能更新に関する基本的な考え方」(令和6(2024)年4月)を取りまとめました。
- 基本的な考え方での整理を踏まえ、新川崎・創造のもりを中核とした「量子イノベーションパーク」と慶應義塾が目指す「世界に伍する研究開発拠点」は親和性が高く、相互に連携することで相乗効果を発揮するものであることから、一体的な視点で検討を進め、新川崎・創造のもり全体の機能更新を推進します。

慶應義塾が目指す世界に伍する研究開発拠点

- Society5.0の実現や社会課題の解決に貢献
- 社会実装、事業化が加速する研究開発拠点
- 世界トップレベルの多様な人材
- 学際的、発展性のある拠点
- 連携・交流のエントランスとなる拠点
- 次世代人材を輩出する拠点

親和性・相乗効果

川崎市が目指す創造のもりを中核とした量子イノベーションパーク



慶應義塾 伊藤公平塾長と川崎市 福田紀彦市長

- 量子技術、AI、半導体等の最先端テクノロジーの「知」と「人材」の集積地
- 国内外から高度人材を呼び込む世界最高水準の国際的な研究開発拠点
- 早期の社会実装化を意識した拠点
- オープン・クローズ戦略を効果的に活用できる拠点の形成
- 交流・コミュニティ環境
- 自然と調和した研究環境の構築

3-2 目指す姿

3-2-① 新川崎・創造のもりが目指す姿

- 新川崎・創造のもりに集積する大学・企業等の技術を基盤とし、様々なプロジェクトの推進を通じ、地域課題や社会課題の解決と成長など、川崎市の「サステナビリティ・トランスフォーメーション(SX)」の実現に貢献する研究開発拠点を目指します。

(※)新川崎・創造のもりが目指すサステナビリティ・トランスフォーメーション(SX)とは、DX・GX等の技術やプロジェクトを通じ、地域課題や社会課題の解決を図り、市民生活や企業・社会の活動などがサステナビリティ(持続可能性)を重視したものへと転換することです。

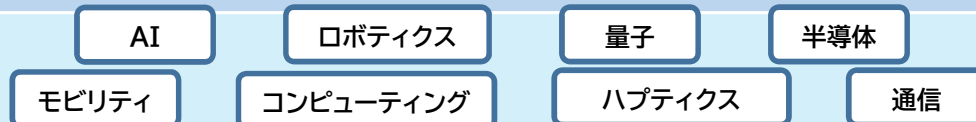
サステナビリティ・トランスフォーメーション
SX・川崎モデルの実現

慶應義塾大学等とともに実現

SXの実現に向けた市民・社会生活や産業構造を変革する様々なプロジェクトの推進

DX デジタル トランスフォーメーション	GX グリーン トランスフォーメーション	QX クオantum トランスフォーメーション	LX ライフスタイル トランスフォーメーション	IX インダストリアル トランスフォーメーション
Society5.0 防災・減災 交通・自動運転 ドローン デジタルツイン 生産性向上	脱炭素・カーボンニュートラル 気候変動・適応策 クライメートテック 食料・農業・バイオ 次世代エネルギー ネイチャーポジティブ	次世代コンピューティング 暗号通信 センシング 金融 素材 創薬	ウェルビーイング フレイル予防・健康寿命延伸 次世代エンターテインメント 次世代スタジアム・スポーツ産業 次世代人材育成 リカレント教育	企業の技術革新 新産業の創出 超微細加工 先端半導体

新川崎・創造のもりに集積する
大学・企業等の技術

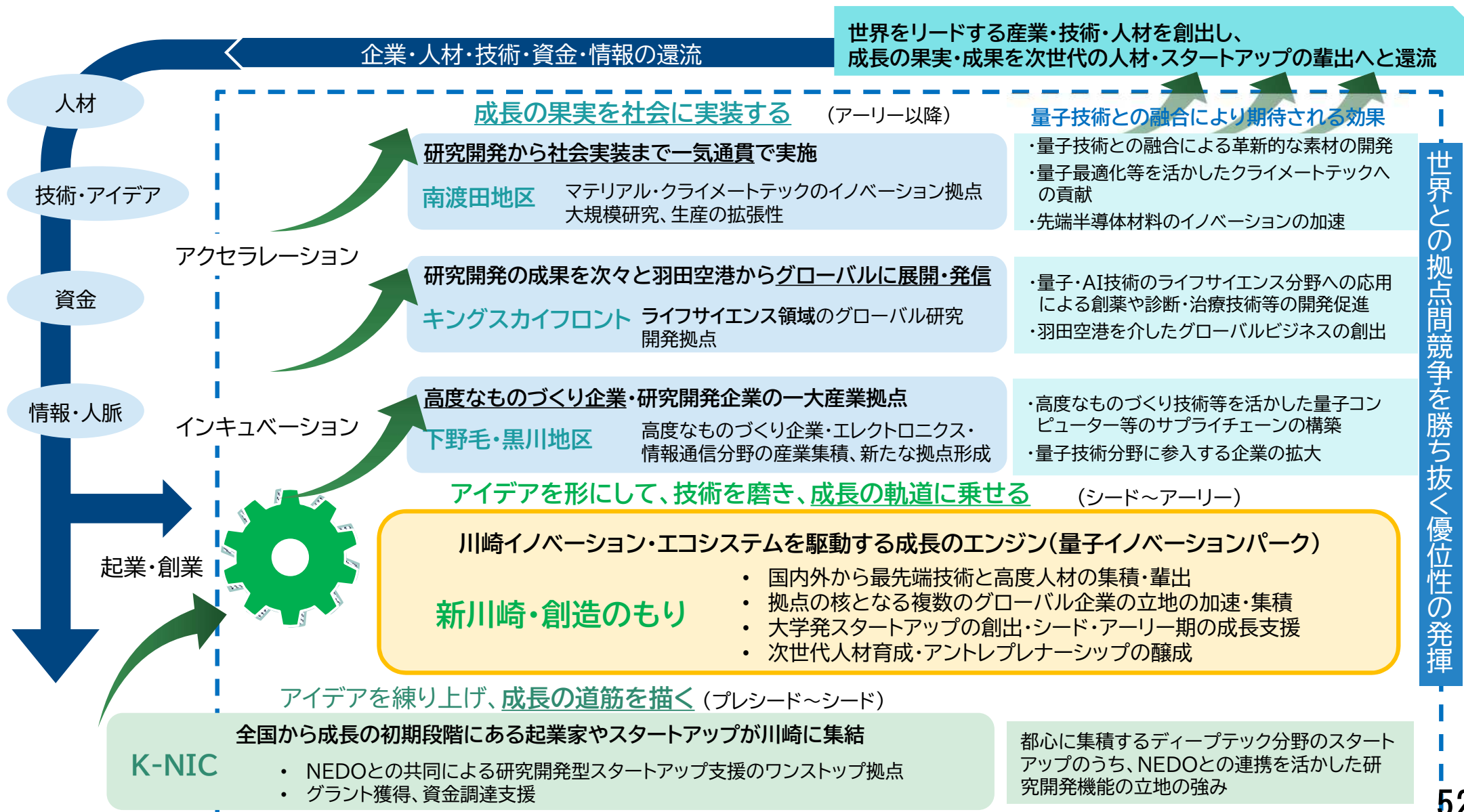


3-2-② 新川崎・創造のもりが成長のエンジンとなるイノベーション・エコシステムの姿

○本市の拠点を持つ価値、強みを活かした、最先端技術とスタートアップのイノベーション・エコシステムの形成を目指します。

○まず、K-NICに全国の起業家が集まり成長の道筋を描き、「新川崎・創造のもり」において成長の軌道に乗せ、その後、キングスカイフロントや南渡田地区等において成長の果実を社会実装し、グローバルビジネスへと発展させます。

○その成長の成果・資産を次世代の人材・スタートアップの輩出へと還流させ、次々とイノベーションを生み出す持続可能なエコシステムを実現します。



3-2-③ 機能更新において必要と考えられる機能

○「新川崎・創造のモリの機能更新に関する基本的な考え方」では、機能更新において必要な機能を次のとおり整理しました。

視点	必要と考えられる機能	導入に向けた配慮事項
実研究の加速化・の優れた人材集積	(1) 先端企業・大学等が集積し、研究開発を加速する良好な研究環境機能	● 大空間ラボスペースの整備 ● バリエーションと柔軟性、可変性のあるラボの整備 ● 安定的で信頼性の高い研究・事業インフラの確保
	(2) 経済安全保障に配慮した研究を支えるセキュリティ機能	● 日常動線を適切に分離し、セキュリティを確保 ● セキュリティラインを設定
の開を拠点基盤とする	(3) オープンイノベーションを活性化する交流・コミュニティ機能	● ラウンジやコミュニケーションスペースを動線の結節点に配置 ● カンファレンススペースを配置
	(4) 高度人材を惹きつけ、国内外から優れた人材を誘引する機能	● 魅力ある大型プロジェクトや中核企業等の立地誘導 ● 研究者やその家族の滞在環境、サポート環境の検討 ● 誰もがアクセスしやすく、利用しやすい環境の整備
る開を拠点基盤とする	(5) 次世代を担う子どもたちが科学技術への夢を育む場など、多世代の人材を育成する機能	● 市民や地域に開かれ、子どもたちの科学技術への夢を育む環境の整備
	(6) 地域に開かれた憩いの空間	● 新川崎・創造のモリのエントランスにふさわしい賑わいと憩いの空間 ● さいわいふるさと公園との一体的な緑地、回遊性の向上 ● 低層部へのカフェや売店の設置、オープンスペースの整備

3-2-④ 新川崎・創造のモリのエコシステムを形成する要素のイメージ

○新川崎・創造のモリのエコシステムでは、「多様な人材が交流し、相互に成長・支援する場」、「技術やアイデアが生まれ、磨かれ、実現する場」、「資金や支援が人材を育て、技術を伸ばす場」の形成を通じ、次のような活動が活発に展開されるイメージの実現を目指します。

多様な人材が交流し、相互に成長・支援する場	技術やアイデアが生まれ、磨かれ、実現する場	資金や支援が人材を育て、技術を伸ばす場
①外部の人材・企業が 気軽に訪れ、交流 ② 滞在スペース を備え、国内外の研究者が短期又は中・長期で創造のモりに滞在、活動 ③ カフェ・緑・公園が一体の開かれた緑地 で、市民や学生、研究者らが日常的に共存・交流 ④ 高校生・大学生等 が研究者・技術者から科学技術について 学び体験できる場 の提供 ⑤若者の科学技術への興味を高める取組や市民向け サイエンスカフェ を定期的に開催 ⑥高校生や大学生が ベンチャー経営者や研究者と気軽に交流 ⑦ 国際感覚と科学技術 を併せ持つ 次世代人材 の育成、周辺学校との交流	① コワーキング ・登記可能オフィススペース ②カフェやレストラン、日常導線で組織を越えて 自然に交流、ディスカッション ③ 加工機械や3Dプリンター 等を活用して 気軽にアイデアを具体化し、試作品を施設で気軽に実証 ④ 学生インターンシップ がコミュニティの一員として企業の研究・試作をサポート ⑤成長を加速する新川崎独自の アクセラレーションプログラム の提供 ⑥ 経済安全保障 に配慮した高度なセキュリティと オープンイノベーション の両立 ⑦ 電力 等のインフラの 安定的な稼働環境	①お節介スタッフが 入居者のネットワーキング を提供 ② 市内企業に精通 したコーディネーターがニーズに応えるパートナーを紹介 ③ 知財、規制、財務等の専門相談 の定期実施 ④ VC 等とのマッチング、 資金調達支援 ⑤スタートアップや研究者と 経営人材とのマッチング ⑥企業出身専門家の 技術、研究開発支援 ⑦ 新川崎地区ネットワーク協議会 の活性化 ⑧メディア等を使い分けた プロモーション

4-1 基本方針を踏まえた施設整備の方針、範囲

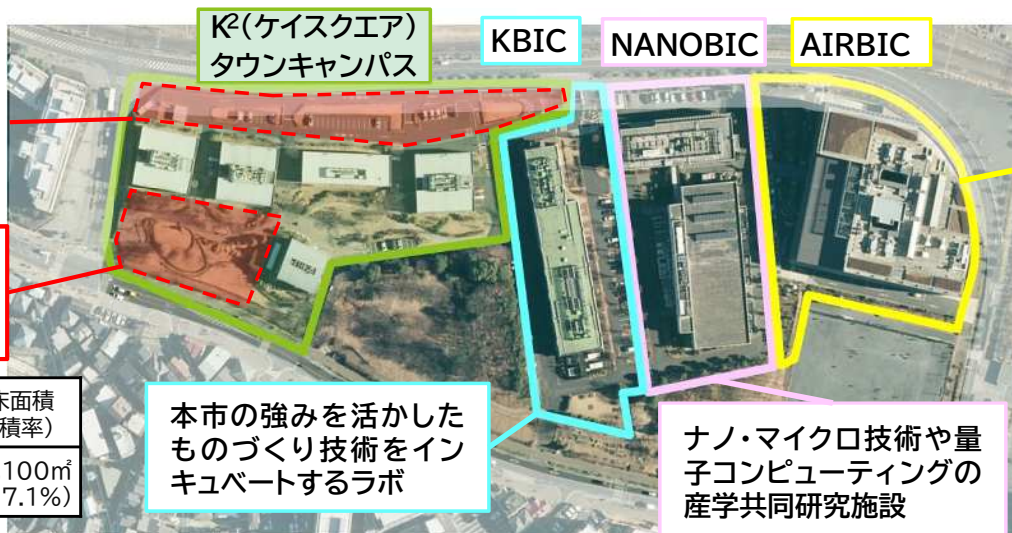
- 創造のモリ既存の施設はインキュベーション施設として高い稼働率を維持しており、既存の居室を転用しての新たな機能の導入は困難な状況です。
- 対象エリアの中心であるK²タウンキャンパスは、建ぺい率・容積率上は新たな施設の整備の余地がありますが、検証の結果、余剰地を活用した増築では、拡張性、柔軟性、可変性のある大空間ラボや、経済安全保障に配慮したセキュリティ、効果的な交流空間等の必要機能を充足し、導入することが困難です。
- こうしたことから、K²タウンキャンパスの既存施設を解体し、K²タウンキャンパスの敷地を対象に新たな施設の整備を行うことで、機能更新の効果の最大化を図り、高度人材が集積するイノベーション拠点の形成や地域に開かれた憩いの空間の形成等の実現を目指します。

・現状は駐車場で自動運転の試験走行路としても利用されており、附置義務に比して余剰スペースがあるが、細長い形状で、大空間のラボ等の整備が困難

・細長い形状となり、研究者が日常的に集う効果的な交流空間の設置には不向き

・現状は緑地であり、利用可能性はあるが、隣接地への日影の影響から、高度利用が困難で、必要機能を十分に導入することが不可

・既存施設との連携・交流には不向きな配置



先端技術を有する大企業、スタートアップ等の交流・連携の拠点

本市の強みを活かしたものづくり技術をインキュベートするラボ

ナノ・マイクロ技術や量子コンピューティングの産学共同研究施設

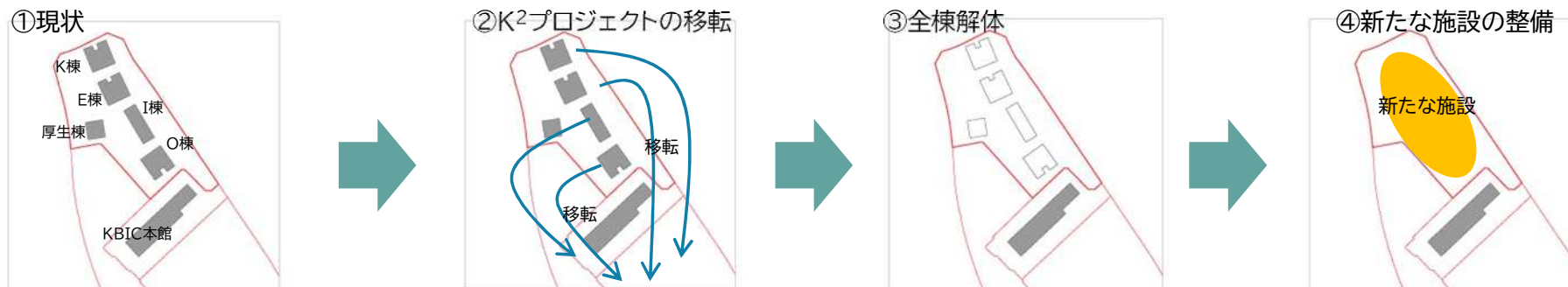
	敷地面積	建築面積 (建ぺい率)	延床面積 (容積率)
K ² タウンキャンパス	16,408㎡	3,170㎡ (19.3%)	6,100㎡ (37.1%)

	延床面積	入居率
KBIC	3,428㎡	99.3%
NANOBIK	4,817㎡	100.0%
AIRBIC	26,694㎡	97.4%

令和6(2024)年10月末現在

施設整備のステップのイメージ

- 既存の鉄骨造2階建ての建物5棟(K・E・I・Oの研究棟4棟、厚生棟1棟)を解体し、新たな施設を整備
- 既存の鉄骨造2階建ての建物5棟の解体と新たな施設を整備を一体的に行い、工期の短縮と事業の効率化を推進
- 現在K²タウンキャンパスで展開されているプロジェクトは、研究活動の維持、影響の最小化を図りながら、事業を遅滞なく進捗させるため、新川崎・創造のモリの敷地を活用しながら順次移転先を確保
- 移転先は、既存施設(KBIC本館、NANOBIK、AIRBIC)と、KBIC敷地内に一時的な受け皿としての機能を果たす小規模プレハブラボの設置を想定



○新たな施設と既存施設との接続によるシームレスな活動拠点確保と、施設間の交流・連携による成長促進機能の強化により、拠点価値の最大化を図ります。



4-3 敷地条件の整理

○新川崎地区地区計画が定められておりますが、必要機能の導入や、地域に開かれた空間の形成、配置プラン・適正規模の整理を行い、その実現に必要な都市計画等の変更を検討します。

項 目	新川崎地区地区計画による条件
所 在 地	川崎市幸区新川崎7番
用途の制限	学校・図書館(その他これらに類するもの)、事務所、集会所、研究所、倉庫(倉庫業を営むものを除く)、公衆便所等公益上必要な建築物、その他これらに付随するもの以外は建築不可
容 積 率	300%
建 ぺ い 率	50%(緩和条項により最大70%まで可)
高 さ の 最 高 限 度	<参考> 建物高さ45m以下 ・K ² 、KBIC本館、NANOBIIC 2階建 ・AIRBIC 5階建 ・(E地区)富士通(株) 6階建
日 影 規 制	4m平面、5h・3h
緑 化 率	敷地面積の25%以上
壁面の位置の制限	制限あり(西側敷地境界線から10mの範囲は建築不可) 実質的な建築可能範囲は、約14,300㎡
そ の 他	新川崎都市景観形成地区

4-4 さいわいふるさと公園との一体的な緑地形成と回遊性の向上

- 研究施設と公園との境界を感じさせない空間の形成を図ります。
- 緑化率以上に緑を感じられる緑視率の向上に向けた緑の配置等の工夫
 - 現在のさいわいふるさと公園の魅力等を活かしつつ、一体性のある緑地空間の形成や回遊性を向上させるための動線の配置等を工夫
 - 実証フィールドや、イベント利用できるように開放的な空間設計も工夫

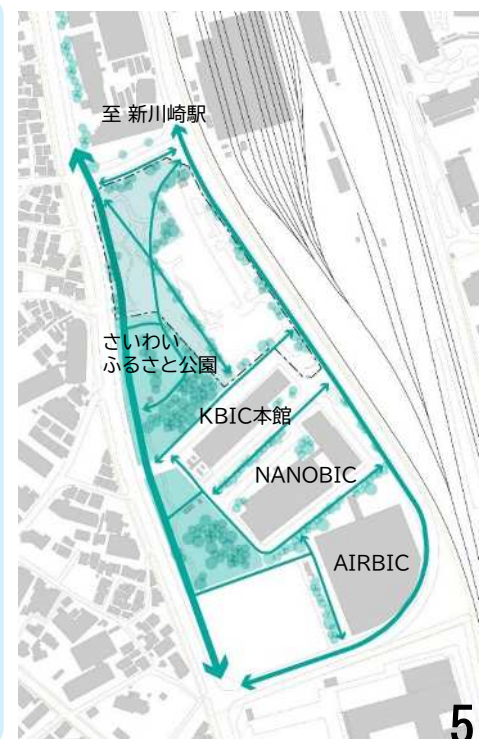
立命館大学いばらきキャンパスの事例

隣接する公園との間には塀がなく、市民開放施設も設置するなど、地域・社会に開かれた空間を整備

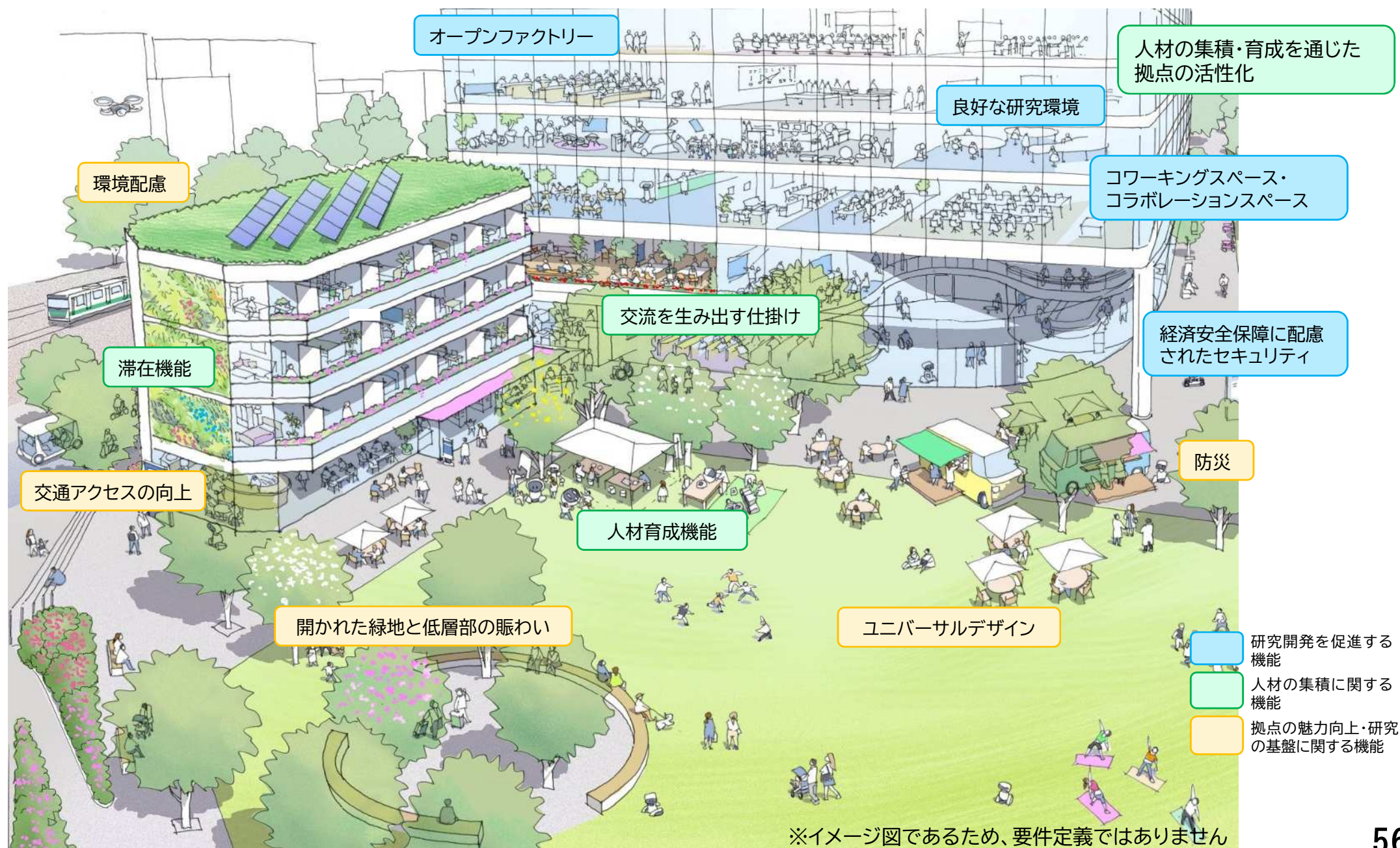


川崎市 キングスカイフロントの事例

隣接する2つの公園を緑の遊歩道でつなぎ、誰もが自由に回遊できる境界のない一体的な緑地空間を形成



○3-2-③で整理した「必要と考えられる機能」について、「研究開発を促進する機能」、「人材の集積に関する機能」、「拠点の魅力向上・研究の基盤に関する機能」の具体化した導入イメージを示します。



5-1-① 研究開発を加速する良好な研究環境

○大学、大企業やスタートアップなど多様な主体が集い、連携しやすい、様々なニーズに対応可能な柔軟性、伸縮性を有する研究環境を構築します。

- 1フロアの床面積を最大限広く確保したラボスペース
- 様々な事業規模等を受け入れられるバリエーションに富んだ面積のラボ
- 将来的な研究環境の変化に備えた電気・通信等のインフラの容量 等

先端的なラボの事例

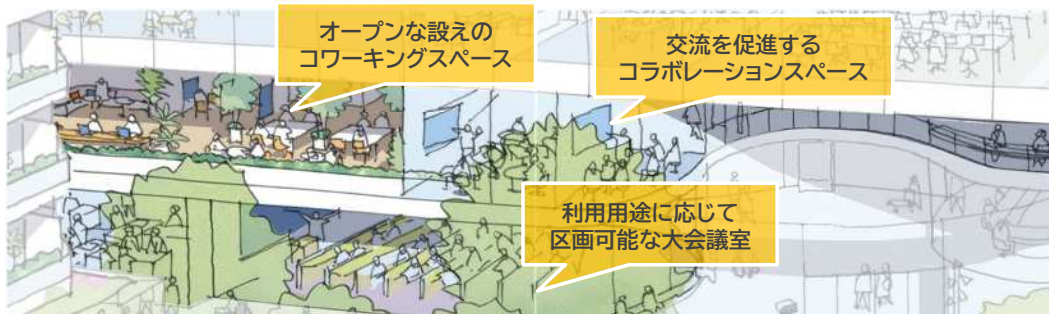


5-1-② コワーキングスペース・コラボレーションスペース

○施設に入居する企業・大学等に加え、外部の人材やアイデアを呼び込むため、起業を目指す若い世代の人材の支援や、支援者・パートナーとの出会いの機会を提供するためのコワーキングスペース等を設置します。

- 異分野融合によるオープンイノベーションを活性化
- 組織の垣根を越えて集まった仲間とディスカッションできる場所
- 拠点内の研究者・技術者同士のマッチング、ネットワーキングの機会を提供

コワーキングスペース・コラボレーションスペースのイメージ

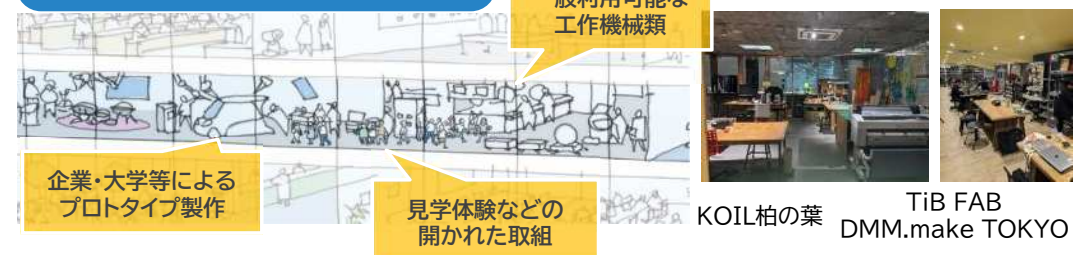


5-1-③ 先端デジタル工作機器を備えたオープンファクトリー

○KBICが備える、ものづくり工房、CAD/CAM室等の機能を再編し、誰もが気軽に試作、製作ができるオープンファクトリーへとリニューアルします。

- 企業、大学の研究用途だけでなく、起業を目指す高校生や大学生が自らのアイデアを形にする場所として、また、地域の方々や子どもたちが気軽にものづくりを体験できる、市民にも開かれた施設を検討
- オープンファクトリーを拠点に企業と高校生・大学生との共同研究にもつなげ、ものづくりを通じた地域課題の解決にもつなげていくことを検討

オープンファクトリーのイメージ



5-1-④ 経済安全保障・セキュリティ・安心安全に配慮した拠点形成

○量子・半導体技術等は経済安全保障上の重要性が高いことから、オープンイノベーションと経済安全保障を意識したクローズ戦略を組み合わせた、オープン・クローズ戦略を効果的に活用できる拠点を目指します。

ハード対策

- 自然災害からの脅威に対応した安定的な電力、通信等のインフラ確保
- 施設・機器へのアクセス管理、建物への入退室管理、監視カメラ、訪問者の管理体制
- オープン・クローズ戦略に基づくセキュリティレベルのゾーニング
- 最先端セキュリティ技術の導入検討と実証(セキュリティロボット、顔認証システム等)

ソフト・サイバーセキュリティ対策

- 研究セキュリティ・インテグリティの強化、セキュリティクリアランス等
- 施設全体の統合ネットワークに対するサイバーセキュリティ対策、データの保護
- 入居企業の情報管理意識醸成に向けた教育・研修制度の実施、人材育成
- インシデント発生時の対応方針の明確化 等

5-2-① オープンイノベーションを活性化する交流を生み出す仕掛け

○入居者や来訪者が自由に交流するコミュニケーションスペースやオープンスペースを、動線の結節点となる施設の低層部や各フロアに配置するなど、日常的な交流や異分野とのコラボレーションを促進します。

交流を生み出す仕掛けの事例



CIC Tokyo

出典:CIC Tokyo

ベンチャーカフェエリアの中心部に上階のオフィススペースに繋がる階段を設け、入居者の交流を促進



STATION Ai

出典:STATION Ai

入居者同士のコミュニケーションが生まれるよう、各階でスロープで繋ぎつなぐ空間を形成



Mitsui LINK-Lab 新木場

職員撮影

施設の1階に誰もが利用できるカフェと屋外テラスを設置し、リフレッシュ環境からコミュニケーションを活性化

5-2-② 滞在機能・スペースの整備

○国内外から優れた人材を誘引する機能の一つとして、研究者とその家族が、研究と生活に快適に対応できるための滞在環境を整備します。

- 短期から中期的な滞在に対応したサービス付きアパートメントを想定
- 単身用に加え、海外の研究者を念頭に、世帯用の中期滞在用の居室も整備
- 研究プロジェクトや学会等に参加する研究者の数日間の宿泊利用等に対応

滞在機能の事例

法人向け賃貸社宅サービス等の事例



共有の食堂やラウンジ、フィットネスルームなどの共用スペースからコミュニケーションを創出

職員撮影



スタートアップ支援拠点「STATION Ai」(名古屋市の事例)



スタートアップ企業の入居スペースに加え、キッチン・調理器具などを備え、家族やグループ利用に配慮したレイアウトの滞在型アパートメントホテルを施設最上階に整備

出典:STATION Ai

5-2-③ 学校との連携等を通じた人材育成機能の充実

○学校との連携等を通じ、子どもたちが科学技術への夢を育み、多世代の人材を育成する機能の強化を検討します。

- 新川崎地区に開校予定の市立新小倉小学校等、近隣の学校との連携により、年間を通じた、この場所でしかできない学びの機会の提供を検討
- 一部スペースは外部に魅せる、学ぶ、体験する機会となる仕掛けも検討
- 若い世代が集まり、起業に向けた活動や、デジタル工作機械等を活用した試作を後押しする機能、仕掛けも検討

人材育成機能のイメージ



科学技術等を学ぶ場



技術等の見える化

出典:資生堂 HP



先端技術体験・社会実証参加

職員撮影



若者世代も集まる起業・交流拠点

出典:渋谷QWS HP

5-2-④ 人材の集積・育成を通じた拠点の価値を高め、活気を生み出す取組

○国内外から多様な人材、高度人材の集積を図るとともに、若い人材が集い、施設の活用や研究者・技術者との交流を行うなど、拠点の価値を高め、活気を生み出すための仕掛けを検討します。

- 他の拠点の事例等を参考に周辺エリアを含めた市内へのインターナショナルスクールの立地誘導や近隣インターナショナルスクールとの連携を検討
- インターナショナルスクールや地域の学校等との連携を通じ、科学技術に特色を持たせたカリキュラムの実施に協力
- 創造のもりで学んだ人材が、将来、研究者や起業家・投資家として、創造のもりの活動を支える役割を果たすことも期待

5-3-① 開かれた緑地と低層部の賑わい

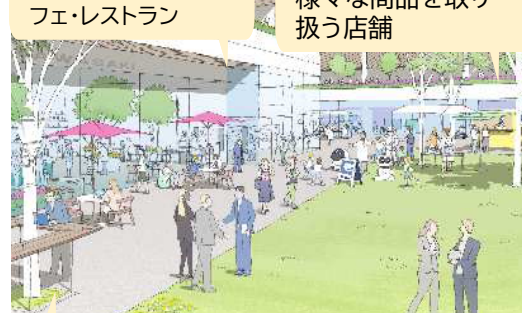
○創造のものの回遊性を高め、居心地の良い空間設計とオープンスペースの整備など、地域に開かれた機能を低層部に配置し、新川崎・創造のもののエントランスにふさわしい賑わいと憩いの空間を形成します。

多様な活動を受け止めるオープンで快適な滞留空間

気分転換に緑に囲まれた空間で仕事ができるスペース

就業者がリラックスでき、地域住民が立ち寄りたくなるカフェ・レストラン

研究活動や生活を支え、豊かにする様々な商品を取り扱う店舗



歩行者目線の1階部分にガラス張りの店舗やラボを配置し、歩いていて楽しくなるような空間を演出

科学体験イベントのほか、キッチンカー、マルシェ、地域の催しなどの開催

5-3-② 外部からの来訪促進に向けた創造のもりへの交通アクセス向上

○企業等の立地促進や、外部からの来訪障壁の低減、交流促進を図るとともに、施設間交流を促進する観点から、アクセスの改善を総合的に検討します。

- 立地企業や外部来訪者の日常的な周辺駅からのアクセス改善の検討
- 利用者の自由度の高い移動手段の導入等の検討
(カーシェアリングポートの新設やシェアサイクルポートの増設 等)
- マイクロモビリティを活用した敷地内の移動、交流を促す仕掛けを検討
(電動キックボード 等)
- 立地企業等と連携した自動運転移動サービスの導入について検討



職員撮影

出典：サンオオタス

5-3-③ 誰もが利用しやすい環境整備(ユニバーサルデザイン・バリアフリー)

○国内外の最先端企業・高度人材を誘致するため、エリア全体のサインの多言語化、ユニバーサルデザインの視点でのエリアごとの配色、サイン計画、外構計画など、誰もがアクセスしやすく、利用しやすい環境を整備します。

- エリア全体での一体性や統一感のあるサイン環境
- 多言語・ピクトグラム等を用いた案内図等の導入
- エリア全体の段差の解消、平坦性の確保や点字ブロックの設置
- 新川崎・創造のもののブランディングにつながるゲートサインの設置検討 等



ユニバーサルデザインに対応した特徴的なストリートファニチャー(みなとみらいほか) 職員撮影



特徴的なゲートサイン(国立競技場) 職員撮影

5-3-④ 防災と災害発生時の対応

○高度な研究開発機能に加え、地域に開かれた拠点を整備することを踏まえ、入居者や来訪者の安全・安心に配慮した防災計画を検討します。

○量子コンピューティング技術等の研究開発は、安定的な稼働が求められるため、施設のインフラの冗長化による事業継続対策等に対応した災害に強い施設を目指します。

5-3-⑤ 環境に配慮された施設計画

○サステナビリティ・トランスフォーメーション(SX)に貢献する研究開発拠点を目指すことから、GXの視点を導入し、環境負荷の少ない施設の整備を検討します。

- 再生可能エネルギーの導入促進
- 大学やスタートアップの研究成果の積極的な活用等の検討
- エネルギー利用の抑制で、脱炭素社会実現に貢献する低環境負荷施設の整備
- 屋上緑化や壁面緑化による建物の環境性の向上と国産木材の積極的利用 等



壁面緑化のイメージ(キングスカイフロント)



NANOBIK木質化の事例



○機能更新による施設整備・運営は民間主体とし、本市は、外部の多様な人材を呼び込むための次の機能を設置・運営し、拠点の活性化を目指します。

- 外部利用者を呼び込み、起業家予備軍を誘引・育成、施設利用者同士の交流を促すためのコワーキングスペース(5-1-2)
- 日常的なミーティングや小規模セミナー開催等に対応した多目的コラボレーションスペース(5-1-2)
- アイデアの具体化・試作を支援するための先端デジタル工作機器を備えたオープンファクトリー(5-1-3)

種別	主な内容	想定面積
コワーキングスペース	コワーキングスペース、登記可能な個室スペース、多目的コラボレーションスペース等	約800～900㎡
オープンファクトリー	レーザーカッター、3Dプリンタ等	約200～300㎡
合計		約1,000～1,200㎡

- 将来の変化の大きさや不確実性等を見据え、社会環境や技術開発のトレンド、支援のニーズに合わせて柔軟に機能や規模を変化させることができることから、必要な面積を、賃借にて設置

※本市が設置・運営を想定するエリア(約1,000～1,200㎡)は、本事業の全体想定整備面積(約49,000㎡)に対して小規模(約2%)であり、買取での区分所有を行うことは整備・取得段階、維持管理段階等の効率性が低く、事業者メリットが低い

5-5 外部資金を活用した拠点運営の検討

○コワーキングスペース、オープンファクトリーは、整備費・運営費の一部に寄付金等の活用による設置、運営を検討します。

- 寄付金等の活用を通じ、本市の負担軽減のほか、外部の支援者が設置・運営に関わっていただくことで、拠点の応援団を集め、エコシステムを構築する呼び水に
- 若い世代の人材や起業を目指す個人と支援者が偶発的に出会い、交流するチャンスの誘発
※デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生拠点整備タイプ)の活用も検討



6-1 施設規模・施設構成・構造

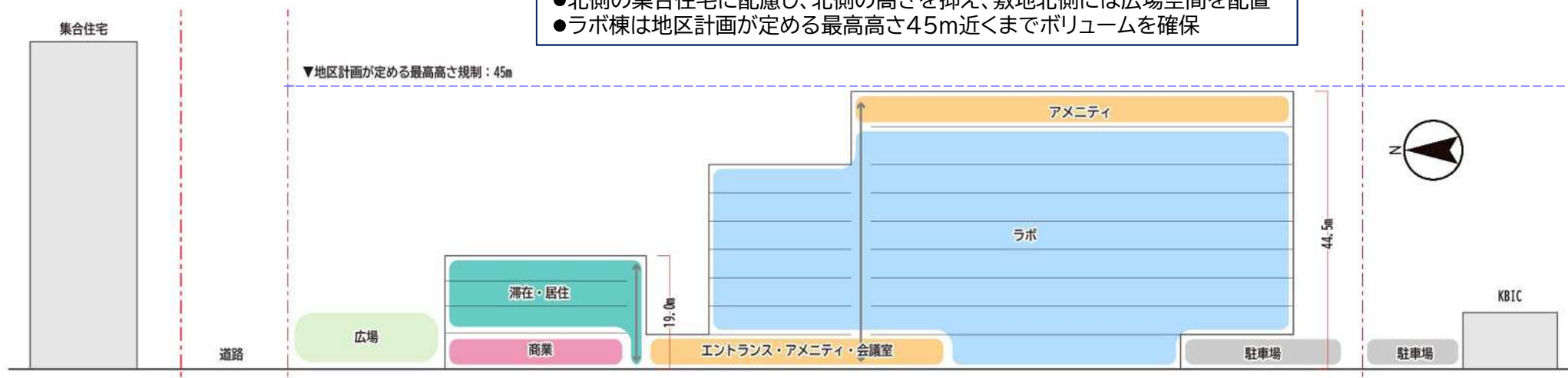
イメージプラン
での施設規模

- 延床面積:約49,000㎡(容積率 約300%)
- 建築面積:約6,400㎡(建ぺい率 約33%)
- 建物高さ:約44.5m(ラボ棟:約44.5m/商業・住宅棟:約19m)

※イメージプランであるため、要件定義ではありません

【施設構成・建物ボリュームの考え方】

- 北側の集合住宅に配慮し、北側の高さを抑え、敷地北側には広場空間を配置
- ラボ棟は地区計画が定める最高高さ45m近くまでボリュームを確保



面積表(概算)

機能	面積
ラボ (コワーキング・オープンファクトリー等を含む)	約37,000~40,000㎡
アメニティ機能(例:交流ラウンジ、フィットネス、教育関連機能、保育園、クリニック等)	約4,000~5,000㎡
会議室	約1,200㎡
滞在機能	約2,000~5,000㎡
商業	約600㎡
合計	約49,000㎡

今後の詳細な事業性の検討により、各機能の面積は増減する見込み

6-2 配置・平面構成

- 公園側の環境に配慮し、建物は線路側に寄せて配置
- エリア全体の回遊性の向上に向け、新川崎駅～各施設～公園への動線に配慮



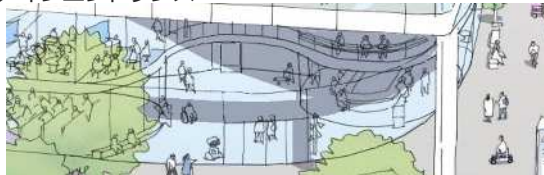
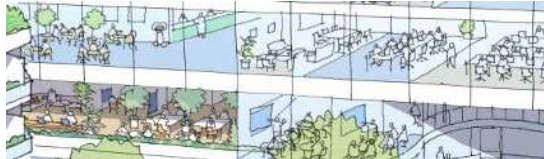
イメージ図であるため、要件定義ではありません

6-3 建物外観イメージ



6-4 諸室構成

15

機能	概要
①共用部	
メインエントランス 	【メインエントランス】 ●施設全体のエントランス空間として配置 ●受付や大会議室のホワイエ等を兼ねる ●配置階:1階/面積:約100~200㎡ 【サブエントランス】 ●セキュリティを考慮した個別アクセスが可能なラボの配置を想定
会議室 	●間仕切りによる分割利用も可能な仕様 ●面積:約1,200㎡
コワーキングスペース・オープンファクトリー 	●コワーキングスペース・オープンファクトリーの他、多目的コラボレーションスペースや展示スペース等を想定 ●面積:約1,000~1,200㎡
その他アメニティ	●研究施設に付加価値をもたらす機能 ●面積:約4,000~5,000㎡
②専有部	
ラボ 	●必要に応じて特殊な仕様が求められる機能導入にも対応できるよう、一部は一定の天井高を確保したフロア ●配置階:各階 ●面積:約37,000㎡~40,000㎡(コワーキング等を含む)
滞在機能 	●企業・大学等の研究者・技術者等を対象とした短期~長期の滞在施設を想定 ●面積:約2,000~5,000㎡
商業 	●就業者、来訪者、地元住民が気軽に利用できるカフェ・レストラン・ショップ ●配置階:1階 ●面積:約600㎡

7-2 事業手法の決定と概算事業費

9-1 経済波及効果

○モデルプランに基づき、供用開始後企業等による研究開発活動が行われた場合の経済波及効果を分析しました。

- 新たな拠点整備に伴う、新たな需要として、①建設投資額 255.8億円、②施設の維持管理に係る費用 2.4億円／年、③企業の研究開発の結果により生じる売上高 207.6億円／年(※)と試算し、本市「平成27(2015)年川崎市産業連関表」を活用し経済波及効果を分析 ※経済センサス活動調査(令和3年)を基に算出

経済波及効果

① 施設の建設に伴う効果	生産誘発額 353.5億円	誘発就業者数 2,457人
② 施設の維持管理に伴う効果(年間)	生産誘発額 3.4億円	誘発就業者数 22人
③ 企業等の研究開発に伴う効果(年間)	生産誘発額 248.8億円	誘発就業者数 3,110人

9-2 新たな拠点整備に伴う雇用創出・税収見込

雇用創出効果

○新たな施設整備に伴う雇用効果として、**新たな施設に722人が雇用され、そのうち433人が市内に在住**すると想定されます。

※類似施設の面積あたりの従業員数から当該施設における従業員数を試算し、「令和2年国勢調査」都市別従業地・通学地の常住地等別データによる「川崎市内の従業者の中で川崎市を常住地とする者の割合」から試算

税収見込

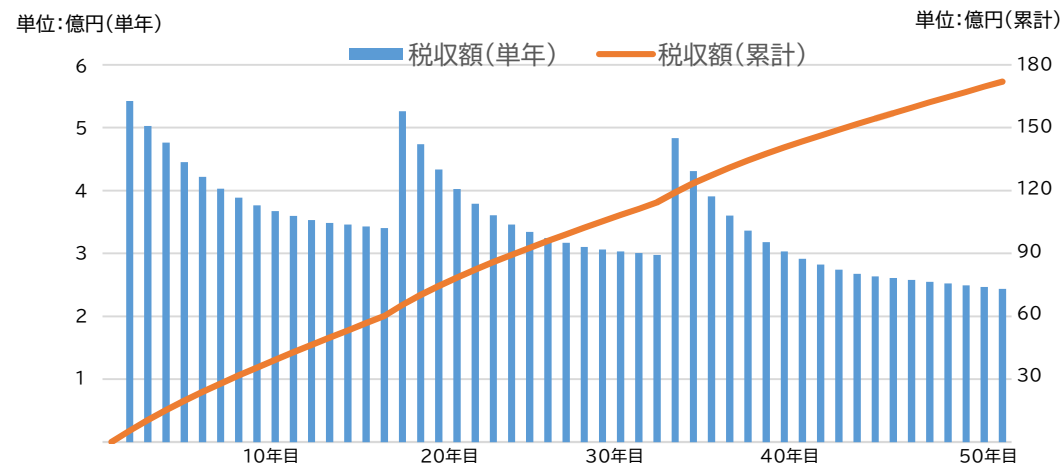
○土地の高度利用による新たな施設整備に伴う見込みとして、**民間事業者による大規模施設整備のほか、最先端企業(大企業・スタートアップ)の入居と、研究開発を担う高度人材の市内集積により新たな税収が見込まれます。**

	10年目	20年目	30年目	40年目	50年目
市税の累計額	約39億円	約79億円	約111億円	約146億円	約172億円

- 法人が納める**4税目(固定資産税、都市計画税、法人市民税、事業所税)**と新たな施設において市内に居住する就業者が納める**個人市民税**の合計

※試算は見込みであり、今後の民間事業者の提案内容、施設の利用条件により異なります。

- こうした効果を早期に発現させるため、税源涵養に資する支援制度も今後検討



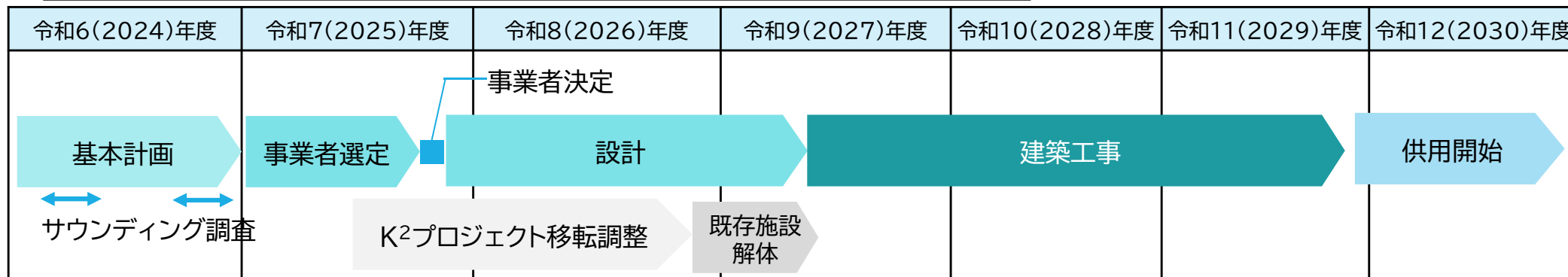
9-3 拠点の実現により期待される効果

○新川崎・創造のモリを持つ量子技術やスタートアップの集積・輩出機能、オープンイノベーションの風土等が駆動力となり、市内の研究開発拠点と連動し、各拠点の技術・ビジネス・人材の成長を加速させ、川崎から次々と世界へ飛躍し世界をリードする産業を創出するイノベーション・エコシステムを形成します。

○本市が世界から選ばれる都市へと成長・発展し続ける「サステナビリティ・トランスフォーメーション(SX)」を実現します。

10-1 事業スケジュール

- 本計画に基づき、サウンディング調査を行いながら、事業者公募のための要求水準等を取りまとめ、令和7(2025)年度に事業者選定を行います。
- 令和7(2025)年度からK²タウンキャンパスの研究プロジェクトの移転調整を進め、令和8(2026)年度に既存施設の解体に着手し、令和9(2027)年度から建築工事に着手する予定です。
- 工事期間については、約2年半かかることが想定され、令和11(2029)年度の工事完成、供用開始を目指しています。



10-2 新たなスキームへの移行

- K²タウンキャンパスの敷地は、現在、市と(一財)川崎市まちづくり公社とが事業用定期借地権契約を設定しており、その契約期間が令和12(2030)年3月までとなっていることから、新たな事業者の選定後、両者合意の上で契約を前倒し解除し、その後、新事業者との定期借地権契約を締結する予定です。
- 既存建物の解体は、新事業者が施設の建築工事と一体的に施工することで、工期の短縮と整備費を圧縮する工夫を取り入れることが可能となります。

スキーム移行のステップ

Step1

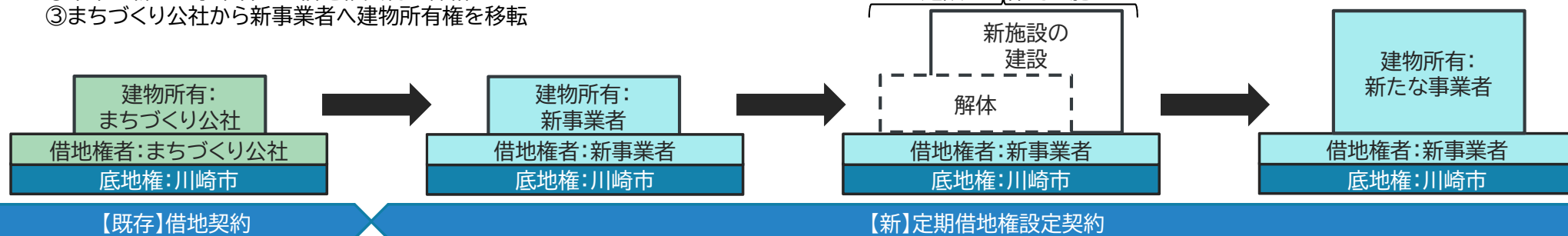
- ①本市とまちづくり公社の借地権契約を両者合意の上で前倒し解除
- ②本市と新たな事業者との借地権契約を締結
- ③まちづくり公社から新事業者へ建物所有権を移転

Step2

新事業者が既存施設の解体と新施設の建設を一体的に施工

Step3

施設の供用開始



10-3 関係法令の整理

- 施設整備にあたっては、地区計画の基準とあわせ、都市計画法等の関連する法令及び条例・基準等を踏まえ、施設内容に応じた整合等を図っていく必要があります。



新川崎・創造のものの機能更新に向けた
イノベーション拠点整備基本計画

～量子イノベーションパークの実現及びK²タウンキャンパスの機能強化に向けて～

令和7(2025)年3月

川崎市

目次 -index-

01 取組の背景・目的 p.2-5

- 1-1 策定趣旨
- 1-2 計画上の位置づけ

02 地区の概況・成果 p.6-23

- 2-1 新川崎地区の概況
- 2-2 これまでの成果
- 2-3 「量子イノベーションパーク」実現に向けた取組

03 基本方針 p.24-35

- 3-1 機能更新の基本方針
- 3-2 目指す姿

04 土地利用・整備の方針 p.36-42

- 4-1 基本方針を踏まえた施設整備の方針、範囲
- 4-2 新川崎・創造のもり全体の機能強化
- 4-3 敷地条件の整理
- 4-4 さいわいふるさと公園との一体的な緑地形成と回遊性の向上

05 導入機能の整理 p.43-59

- 5-1 研究開発を促進する機能
- 5-2 人材の集積に関する機能
- 5-3 拠点の魅力向上・研究の基盤に関する機能
- 5-4 本市が設置・運営するスペース
- 5-5 外部資金を活用した拠点運営の検討

06 施設計画 p.60-67

- 6-1 施設規模・施設構成・構造
- 6-2 配置・平面構成
- 6-3 建物外観イメージ
- 6-4 諸室構成

07 事業手法 p.68-70

- 7-1 事業手法の整理と評価
- 7-2 事業手法の決定と概算事業費

08 運営方針 p.71-72

- 8-1 運営方針

09 期待される効果 p.73-76

- 9-1 経済波及効果
- 9-2 新たな拠点整備に伴う雇用創出・税収見込
- 9-3 拠点の実現により期待される効果

10 その他 p.77-80

- 10-1 事業スケジュール
- 10-2 新たなスキームへの移行
- 10-3 関係法令の整理

01

取組の背景・目的

1-1 策定趣旨

○国内外の社会構造の変化や課題の顕在化に対応するため、新川崎・創造のもりにおいて、次の100年を見据えた、新たな拠点形成を実現し、量子・AI・半導体・Beyond5G等の最先端コンピューティング、DX分野の「知」と「人材」の集積地の形成を目指します。

背景

【科学技術とイノベーションを取り巻く社会情勢】

- 科学技術・イノベーションにおける国際競争の激化が顕著であり、米国や中国など主要な国々では、最先端の研究やその実用化に向けて大規模な投資が行われるとともに、国際情勢の複雑化や社会経済構造の変化を受け、先端技術に関する経済安全保障の重要性も高まっています。
- 我が国では、「経済施策を一体的に講ずることによる安全保障の確保の推進に関する法律(令和4年法律第43号)」を制定し、特に半導体やクラウドプログラムなどの先端技術を特定重要物資として位置づけ、技術の流出防止や安定供給確保の取組が進められています。
- また、国内においては、Society5.0社会や脱炭素社会の実現に向け、産学官が連携してイノベーションを創出し、最先端技術を社会で実用化する取組が加速し、特に、研究開発型スタートアップへの投資が進み、成長環境が整備されつつあります。
- 本市では、ライフサイエンス分野でのキングスカイフロントや、JFEスチール(株)の高炉休止によって生まれる400ヘクタールの土地を活用した新産業拠点の整備など、イノベーション創出のための環境づくりを進めており、これらの拠点を有機的に結び付け、市域全体で取組を加速させることで、連鎖的なイノベーションを生み出す持続可能なエコシステムを構築していく必要があります。

【新川崎地区の概況】

- 新川崎地区では、新川崎・創造のもりにおける平成12(2000)年の慶應義塾大学のK²タウンキャンパスの開設以降、地区全体での研究開発型企業の集積が飛躍的に進展しています。
- 新川崎・創造のもりは、段階的な施設整備を進め、首都圏最大級の研究開発型インキュベーション拠点へと成長しており、令和3(2021)年7月にはアジア初の商用のゲート型量子コンピューターが設置されました。
- 一方、K²タウンキャンパスは、暫定的な土地利用計画のもとで建設されたため、現状では容積率をはじめとする敷地のポテンシャルを十分に活かし切れておらず、世界をリードする研究開発拠点へと発展するための機能を充足していないといった課題を有しています。

1-1 策定趣旨

策定の目的

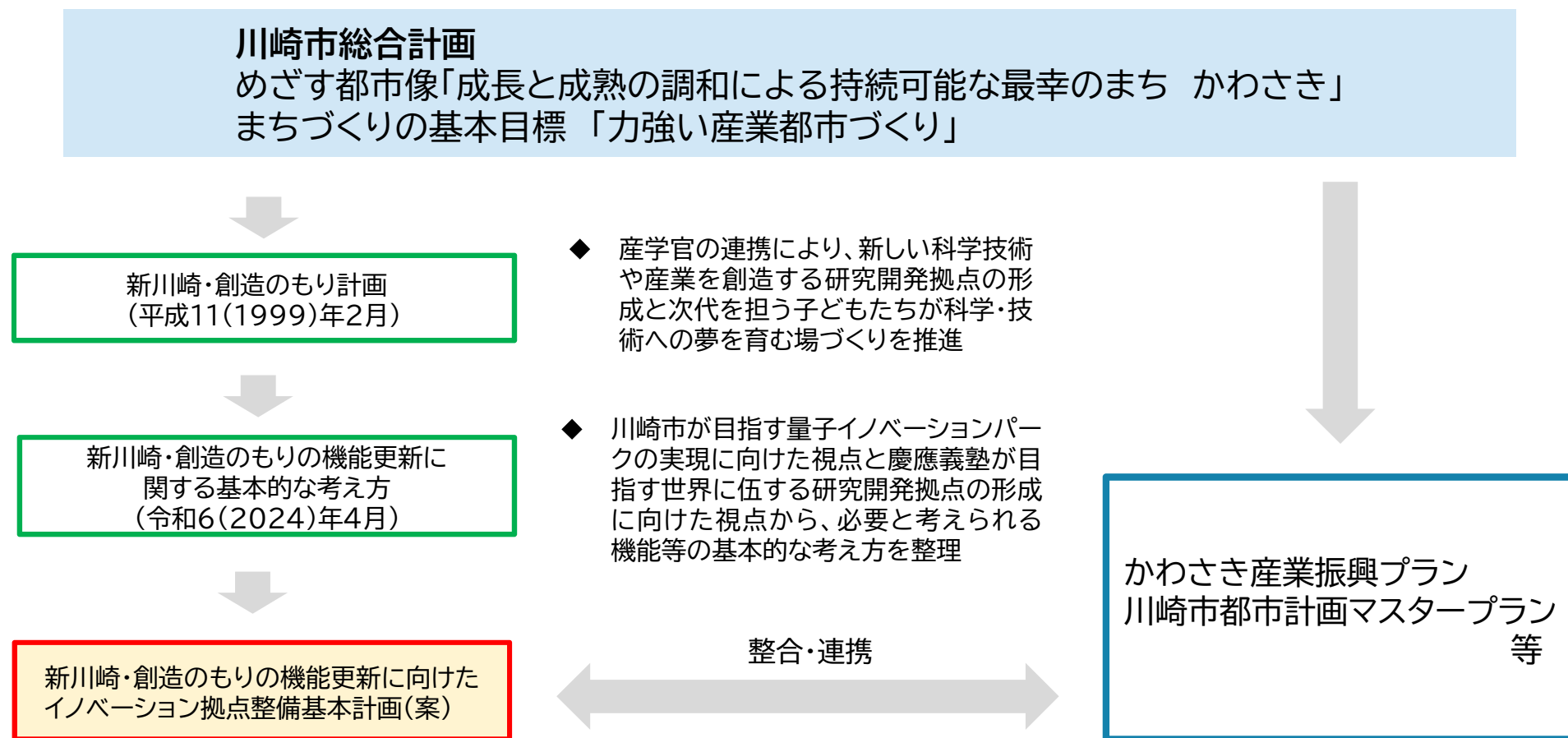
- 令和5(2023)年8月、本市と慶應義塾は新川崎・創造のもりの機能更新に向けて協力・連携協定を締結し、次の100年を見据えた我が国の成長をけん引する拠点として、更なる発展を遂げることを目指した協議・検討の取組を開始しました。
- 上記の協定を踏まえ、令和6(2024)年4月に「新川崎・創造のもりの機能更新に関する基本的な考え方」を策定し、新川崎地区の強みを活かした量子・AI・半導体・Beyond5G等の最先端コンピューティング、DX分野の「知」と「人材」の集積地の形成に向けて、次の6つの必要と考えられる機能を取りまとめました。

- ① 先端企業・大学等が集積し、研究開発を加速する良好な研究環境機能
- ② 経済安全保障に配慮した研究を支えるセキュリティ機能
- ③ オープンイノベーションを活性化する交流・コミュニティ機能
- ④ 高度人材を惹きつけ、国内外から優れた人材を誘引する機能
- ⑤ 次世代を担う子どもたちが科学技術への夢を育む場など、多世代の人材を育成する機能
- ⑥ 地域に開かれた憩いの空間

これらの機能の導入を中心とした機能更新を具体的・着実に実現するため、今般、「新川崎・創造のもりの機能更新に向けたイノベーション拠点整備基本計画(案)」を取りまとめ、今後の事業実施に向けた取組を推進するものです。

1-2 計画上の位置づけ

○本計画は、新川崎・創造のもり計画が目指す「産学官の連携による新しい科学技術や産業を創造する研究開発拠点の形成と、次代を担う子どもたちが科学技術への夢を育む場づくり」を推進し、「かわさき産業振興プラン」や「川崎市都市計画マスタープラン」との整合性を図りながら、令和6(2024)年4月に公表した「新川崎・創造のもりの機能更新に関する基本的な考え方」を踏まえ、機能更新の基本方針や土地利用・整備方針、導入機能を整理し、とりまとめるものです。



02

地区の概況・成果

2-1 新川崎地区の概況 - ①新川崎地区の概況

○新川崎地区は旧国鉄の操車場跡地を中心とした33.2haに及ぶエリアであり、平成17(2005)年に新川崎地区・地区計画を策定し、整備・誘導を推進しています。

- A地区からF地区までの7つの地区区分のもと、ものづくり・研究開発機能の強化を通じた産業の創出・育成及び市民利用機能の整備等を図る地区として都市計画を推進しています。

新川崎地区及び周辺の企業集積状況



2-1 新川崎地区の概況 - ②新川崎地区の拠点の成長の歩み

○平成12(2000)年のK²タウンキャンパス開設以降、新川崎地区は、研究開発企業やものづくり企業の立地が進み、本市を代表する産業集積地へと発展しており、住宅や交通インフラの整備も大幅に進展しています。

- 産業の創出・育成を目指して、企業の立地誘導や研究開発拠点の整備による産業創出・育成機能の導入
- 道路、交通広場等の都市基盤の整備、増加する人口を受け止める教育環境の確保に向けた小学校の新設
- 優れた居住環境の都市型住宅の整備及び生活利便施設の導入

商業・まちづくり

産業・研究開発



新小倉小学校



ニデック(旧・日本電産)
新川崎テクノロジーセンター

慶應義塾と「新川崎・創造のもり地区の機能更新等に関する協定」締結 2023

東京大学、日本IBM、川崎市による「量子コンピューティング技術の普及と発展に関する基本協定書」締結
アジア初のゲート型商用量子コンピューター「Kawasaki」稼働 2021

産学交流・研究開発施設「AIRBIC」開設 2019



量子コンピューター
出典：日本IBM

クレストプライムレジデンス竣工、新川崎交通広場整備 2015

ニデック(旧・日本電産)新川崎テクノロジーセンター操業開始 2014
鹿島田こ線橋歩道橋 完成

2012 東京大学、日本IBM、川崎市による
「東京大学社会連携講座の実施に関する基本協定」締結
ナノ・マイクロ産学共同研究施設「NANOBIIC」開設

2010 シンカモールの開業、レジデンシャルスクエア竣工

2009 A地区の立地誘導募集開始

2008 イニシア新川崎竣工

2005 新川崎地区・地区計画の策定

2003 かわさき新産業創造センター「KBIC」開設

2000 K²タウンキャンパスの開設

1999 「新川崎・創造のもり計画の推進への協力に関する川崎市と慶應義塾の協定」締結



シンカモール



AIRBIC

2-1 新川崎地区の概況 - ③新川崎・創造のもりの概況

○新川崎・創造のもりは、新川崎地区内のD地区に位置し、産学官の連携による新しい科学・技術や産業を創造する研究開発拠点の形成と次代を担う子どもたちが科学・技術への夢を育む場づくりを目指し、段階的な施設整備を推進しています。

- 平成12(2000)年にK²タウンキャンパスを慶應義塾大学と本市の連携・協力のもと開設
- 平成15(2003)年から、かわさき新産業創造センター(KBIC)として、3棟のインキュベーション施設(KBIC本館、NANOBIIC、AIRBIC)を順次開設
- 計100室、ラボ面積8,100㎡の首都圏最大級のインキュベーション拠点へと成長
- 民間事業者による企業向け賃貸ラボ約11,000㎡も整備され、大手企業のオープンイノベーション型ラボも立地



第1期事業(H12(2000)年～)
K²タウンキャンパス



K² 慶應義塾大学の約20 のプロジェクトが入居

- 約400名の研究者・学生が研究に従事
- 分野融合型の先端研究を推進するオープンイノベーション拠点

第2期事業 (H15(2003)年～)
KBIC本館



ものづくり工房付き 新産業支援施設

- 創業支援や成長支援などを行うスタートアップビジネス創出拠点
- CAD・CAM研修室や、工作機械の利用も可能

第3期事業(H24(2012)年～)
NANOBIIC



ナノ・マイクロ技術の 産学官共同研究施設

- 大型クリーンルーム(750㎡)を備え、4大学(慶應・早大・科学大・東大)コンソーシアムの機器を企業等へ開放

第3期・第2段階事業
(H31(2019)年～)AIRBIC



官民連携整備の オープンイノベーション拠点

- インキュベーションラボと民間運営による中長期利用向け研究開発ラボ、レストラン、売店、大会議室などを設置

2-1 新川崎地区の概況 –④新川崎・創造のもりの事業スキーム

○新川崎・創造のもり地区においては、様々な事業推進パートナーの協力のもと企業の成長支援を実施しています。

- K²タウンキャンパスは、市の支援のもと、(一財)川崎市まちづくり公社が建物や設備の整備・維持管理を行い、慶應義塾大学がまちづくり公社と賃貸借契約を締結して施設に入居し、研究・教育活動を実施
- かわさき新産業創造センター(KBIC)は、かわさき新産業創造センター共同事業体が指定管理者として、スタートアップや大学の成長支援を実施しており、開設以来高い入居率で稼働

事業スキーム

K²タウンキャンパス

土地所有者:川崎市
借地権者・建物所有者:まちづくり公社
維持管理:まちづくり公社
入居:慶應義塾大学(まちづくり公社と賃貸借契約)

借地権者:一般財団法人川崎市まちづくり公社
(事業用定期借地権契約)

底地権:川崎市

かわさき新産業創造センター(KBIC) [KBIC本館、NANOBIC、AIRBICの一部]

土地・建物所有者:川崎市
指定管理者:かわさき新産業創造センター共同事業体
(指定期間5年間:令和5(2023)年度~令和9(2027)年度)
入居:スタートアップ・大学等(市から利用許可)

建物所有者:川崎市

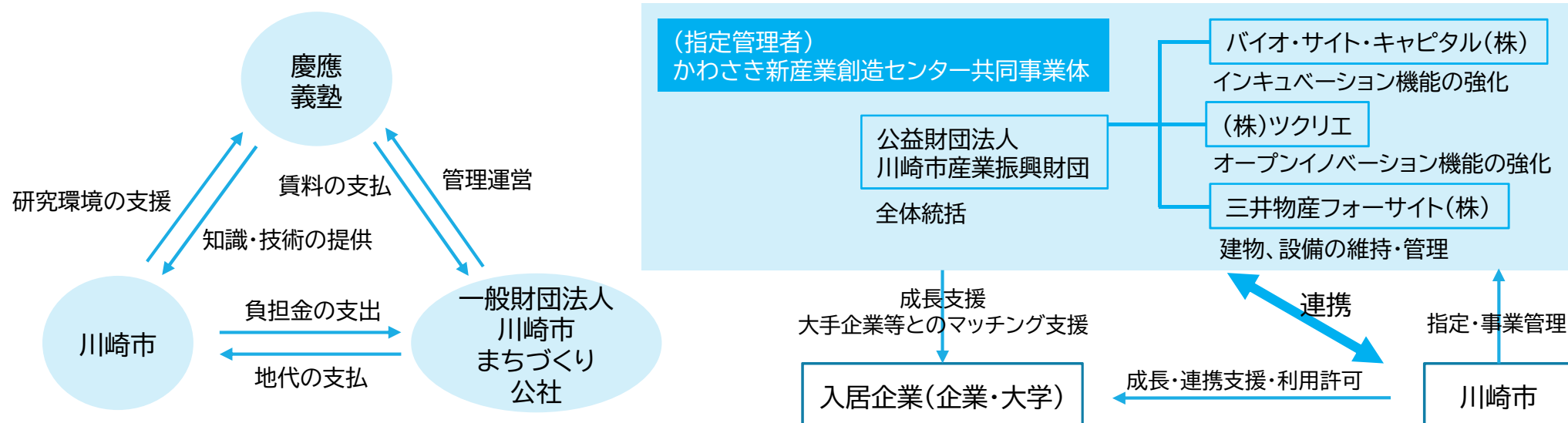
底地権:川崎市

AIRBIC

土地所有者:川崎市
借地権者:大和ハウス工業(株)
建物所有者:大和ハウス工業(株)、川崎市が区分所有
入居:スタートアップ・大企業等

借地権者:大和ハウス工業(株)
(事業用定期借地権契約)

底地権:川崎市



2-1 新川崎地区の概況 -⑤さいわいふるさと公園について

○新川崎・創造のもり内のさいわいふるさと公園は平成22(2010)年に開設され、本市と地域のボランティア団体が連携し、公園の維持管理を実施しています。

- さいわいふるさと公園(18,149㎡)は、緑豊かで様々な活動や憩いの場として利用されるとともに、災害時における周辺市街地の防災性の向上に寄与する都市公園(近隣公園)として平成22(2010)年に開設
- 「ふれあい応援隊」、「さいわい夢ひろば友の会」、「新川崎ふるさとづくりの会」、「小倉わんぱく広場」の4つのグループにより「さいわいふるさと公園管理運営協議会」が設立され、各グループが協力して公園の維持管理や花植え作業等の活動を実施



さいわいふるさと公園の全体マップ



コスモスの花畑



ボランティアの様子

出典:さいわい夢ひろばHP

2-2 これまでの成果 – ①新川崎・創造のもりから世界に羽ばたくスタートアップ

○産学連携や様々な成長支援の取組から、これまで数多くのスタートアップが成長を遂げており、国内外から注目される研究開発型スタートアップを輩出しています。

- 革新的な研究開発の成果と新たなビジネスモデルにより、大きく成長を遂げ、ベンチャーキャピタル(VC)からの資金調達額の増加に伴い従業員数も大幅に増加
- 令和5(2023)年度、令和6(2024)年度と、2年連続でKBIC入居企業が株式上場

株式会社LexxPluss

KBIC卒業



出典:株式会社LexxPlussHP

- 次世代物流センターの実現に向けた自動搬送ロボットによる物流自動化システムを開発
- 1名で起業直後にKBIC入居、設立後約4年で社員約50名へと成長し、KBICを早期に卒業、市内に本社・研究拠点を拡張移転

株式会社イクシス

AIRBIC



出典:株式会社イクシスHP

- 建設現場やプラントなどのインフラにおいて、サイバー空間と現実空間をロボットやAI・AR・3D点群で双方向に連動するシステムを開発
- 現場のDX化を支援する技術をはじめ、ロボット×テクノロジーで社会課題の解決に挑む
- 従業員100名超に成長

株式会社Veritas In Silico

NANOBIIC



出典:株式会社Veritas In Silico

- 低分子医薬品でmRNA上の部分構造を標的とする全く新しい概念の創薬システムを確立
- デジタル技術と創薬技術を統合したプラットフォームにより、製薬会社と連携した創薬事業を展開
- 令和6(2024)年2月、入居中企業で初めて東京証券取引所グロース市場に上場

Heartseed株式会社

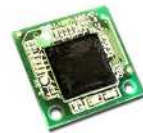
AIRBIC



出典:Heartseed株式会社HP

- 慶應義塾大学医学部発の心筋再生医療の実現化を目指して設立されたバイオベンチャー
- iPS細胞を用いた重症心不全の抜本的治療法を開発
- 令和6(2024)年7月、東京証券取引所グロース市場に上場

モーションリブ株式会社

K²

AbcCore

MOTION LIB

出典:モーションリブ株式会社HP

- 慶應義塾大学で誕生した力触覚制御技術「リアルハプティクス」を搭載したICチップ「AbcCore」の導入・開発支援、デバイス提供を行う
- 幅広い企業との共同研究により、技術の社会実装が進展

LQUOM株式会社

KBIC本館



出典:LQUOM株式会社HP

- 究極の安全性を持つ「量子インターネット」の実現に向けて、量子通信システム、量子中継器および関連技術の開発と製品化に取り組む、横浜国立大学発のスタートアップ
- 同社の通信技術は世界から注目を集め、創業者の新関和哉代表取締役は Forbes「世界を変える30歳未満の30人アジア 2023」に選出

2-2 これまでの成果 –②新川崎・創造のもりにおけるオープンイノベーション型プロジェクト

○新川崎・創造のもりでは、産学連携や産産連携など、先端技術分野での企業・大学の研究開発の実用化・実証に向けたオープンイノベーション型のプロジェクトが複数展開していることが大きな特徴の一つです。

ナノ・マイクロ技術

4大学ナノ・マイクロファブリケーションコンソーシアム

慶應義塾大学、早稲田大学、東京科学大学、東京大学の4大学が連携・協力して新川崎・創造のもり内にナノマイクロ加工・評価機器を備えた先端研究・試作拠点を整備

- クラス10000とクラス100のクリーンルームを備え、ナノ・マイクロ分野の最先端の研究機器の共同利用や研究・教育などの支援により、企業の技術力と研究開発力の向上、産学連携による新産業の創出に取り組む
- ナノマイクロ加工に必要な、成膜→パターンニング→エッチング→評価まで一連の工程に必要な機器が利用可能



NANOBIICイエロールーム

量子インターネット通信

慶應義塾大学 永山翔太准教授のKBICの研究室を中心に、量子インターネットの産学官連携研究開発コンソーシアム QITF(量子インターネットタスクフォース)の活動を展開

- KBICの研究室内に汎用量子通信ネットワークのテストベッド環境を構築
- 実運用を見据え、通信アーキテクチャ等の原理・技術実証にハード・ソフトを統合
- また、KBIC⇄K²タウンキャンパスという近接したエリアでの量子インターネット通信の実証を実施



永山研究室のテストベッド環境

次世代半導体パッケージ開発

AIRBICに立地する(株)レゾナックを中心に基板、装置、材料メーカーが、オープンイノベーションのコンソーシアム(JOINT2)を設立

Jisso Open Innovation Network of Tops 2

- 評価プラットフォームを活用し、次世代半導体パッケージの技術変化に応じた評価技術、基板、材料、装置の開発を行う
- ユーザーに新たな価値をもたらす新しい材料と革新的なプロセスを提案



JOINT2 ADVANCED PACKAGE EVALUATION PLATFORM

出典:(株)レゾナックHP

2-2 これまでの成果 –③人材育成・イノベーションを生み出す仕組みづくり

○新川崎・創造のもりや周辺エリアに集積する先端分野の企業や技術、研究者の知見は大変貴重な地域資源であることから、こうした価値を活かし、次世代を担う人材の育成や、企業・大学の連携を生み出すイベントを多数開催しています。

- 新川崎・創造のもり計画の目標の一つに位置付けている「次代を担う子どもたちが科学・技術への夢を育む場づくり」を実現するため、立地する企業・大学等との連携・協力の下、様々な人材育成プログラムを展開
- 地区内への企業集積の進展と連動し、本市や入居企業等が主催するセミナー、市民向け科学技術啓発イベント等の規模や回数の拡充が図られ、新川崎地区内外の研究者・技術者同士の情報交流や技術交流、市民への情報発信も充実

次世代人材育成の取組

子どもたちが科学技術へ夢を育む場づくりや未来のリーダーの育成を目的に多様な年代に様々なプログラムを展開

科学とあそぶ幸せな一日



小中学生向け夏休み科学体験イベント

- 新川崎に拠点を置く企業や大学が出展し、楽しみながら科学の魅力を学び、未来の科学者の芽を育む
- 平成21(2009)年～
- 【令和6(2024)年実績】
24団体が出展、来場者：約1,500名

かわさきジュニアベンチャースクール



小中学生向けアントレプレナーシップ醸成プログラム

- 挑戦する力や起業家精神を培い、将来の産業界を担い、世界で活躍できる人材を育成
- 令和3(2021)年～
- 【令和6(2024)年実績】
〈実践講座〉参加者：30名
〈体験講座(2回)〉参加者：計32名

Kawasaki Quantum Summer Camp



高校生向け量子コンピューター人材育成プログラム (詳細はコラム①)

- 全国の自治体に先駆けて実施しており、累計約70名の高校生が参加し、卒業生から、量子分野等、理工系の大学への進学者も輩出
- 令和4(2022)年～
- 【令和6(2024)年実績】
開催日数：4日 参加者：23名

学会、各種セミナー等の開催

学会や入居企業・大学等が主催するセミナー、市が主催する科学技術啓発イベント・サイエンスカフェなど、研究者同士の情報交流、技術交流を多数実施

K² OPEN SEMINAR



- 慶應義塾大学の先端的研究開発の成果を産業界等に還元するとともに、新川崎・創造のもりにおける新たな産学連携を振興
- 市内学校等と連携した取組や、産学のマッチングイベントも開始
- 平成14(2002)年～
- 年3回程度開催

かわさき科学技術サロン



- 中小・スタートアップや大企業、大学・研究機関等の研究者・技術者等が互いに顔の見える交流を行い、川崎発のイノベーションを促進
- 平成18(2006)年～累計51回
- 年2回程度開催

先端技術活用支援講座 エッジ茶論



- 研究者、技術者、新規事業担当者が講師と相互交流できるイベント
- 参加者同士での議論も促進し「新鮮な取組である」との反響
- 平成25(2013)年～
- 年5回程度開催

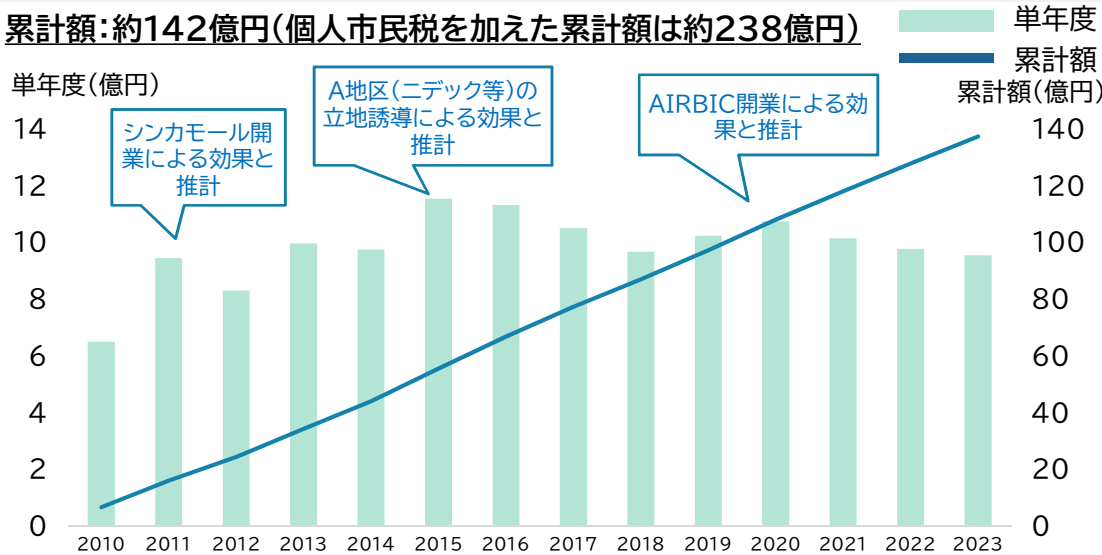
2-2 これまでの成果－④新川崎地区のこれまでの事業効果

○新川崎地区の拠点整備を通じ、市税収入や立地企業の成長に伴う雇用の増加等から、本市への高い還元効果がもたらされていると考えられます。

- 地区内の法人課税(固定資産税・都市計画税・事業所税・法人市民税)の概算金額(推計)は、平成22(2010)年から令和5(2023)年までの累計で約**142億円**の税収効果
- 地区内の人口・事業所数・従業者数は新川崎地区の整備開始以降、大幅に増加しており、平成21(2009)年度と令和3(2021)年度を比較して12年間で**事業所数が約5倍**、**従業者数が約11倍**まで発展
- スタートアップ支援実績の指標である、資金調達額、IPO、M&Aの成果も着実に創出

地区内の法人課税の概算税収金額(推計)

累計額:約**142億円**(個人市民税を加えた累計額は約**238億円**)



創造のもりでの支援実績

KBIC指定管理者・K²タウンキャンパス調べ

7社
IPOまたはポジティブなM&A
KBIC開設からの累計
令和6(2024)年10月時点

252億円+
資金調達の累計額
直近10年間の実績
令和6(2024)年3月時点

6社
Jスタートアップ・
NEXTユニコーン企業数
令和6(2024)年10月時点

9社+
10億円以上の資金調達
達成企業数
直近10年間の実績
令和(2024)年3月時点

14社
慶應K²発スタートアップ数
令和6(2024)年3月時点

108社+
KBIC卒業企業数
令和6(2024)年3月時点

地区内の人口の推移

	H21(2009)	H24(2012)	H28(2016)	R3(2021)	R6(2024)
新川崎	691	1,052	1,058	3,239	3,211
新小倉	0	0	110	2,714	4,660
合計	691	1,052	1,168	5,953	7,871

新川崎:新川崎地区地区計画 A～D地区、新小倉:同E、F地区

地区内の従業者数の推移

	平成21(2009)年度		平成24(2012)年度		平成28(2016)年度		令和3(2021)年度	
	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数
A～D地区	15	152	14	194	43	1,159	82	1,690
E、F地区	4	85	15	2,189	5	466	10	962
合計	19	237	29	2,383	48	1,625	92	2,652

経済センサス調査から作成

川崎市の世帯数・人口

2-3 「量子イノベーションパーク」実現に向けた取組 –①量子コンピューティング技術

- 世界各国において、量子コンピューティング技術に関する国家戦略を策定する動きが顕著であり、量子コンピュータの実用化に向けて巨額の投資を行う動きも活発になるなど、開発競争が激化しています。
- また、量子コンピュータの実用化に伴う社会的・経済的インパクトの大きさに加え、経済安全保障上の重要性から、国家レベルでの量子技術開発の重要性・競争性が高まっています。

量子コンピューティング技術とは

- 量子コンピューティングとは、「量子力学」の法則を利用して、従来のコンピューター(古典コンピューター)では膨大な時間を要する複雑で高度な計算を、短時間で解くことを可能とする技術で、電力消費が極めて小さいことが特徴であり、将来、材料開発、創薬、金融、AIなど幅広い分野で活用され、革新的な成果を生み出すと期待されています。
- しかし、社会が期待する性能を持った大規模な量子コンピュータの実用化には乗り越えるべき様々な技術的課題があると言われています。

世界の動向・経済価値の予測

- 量子コンピューティング技術の実用化に向けて、世界では、国をあげて量子技術の研究開発やその拠点形成に大規模投資を行うなど、量子コンピュータの研究開発をめぐる国際競争が激化しています。
- また、ベンチャーキャピタル(VC)からの巨額な投資や大企業による買収などを通じて、大学発スタートアップも急速に成長しています。
- 令和22(2040)年までに、量子コンピュータが世界全体で最大8,500億ドル(約130兆円)の経済価値を生むと予測されています。(BCG調べ)

各国の量子戦略の策定状況

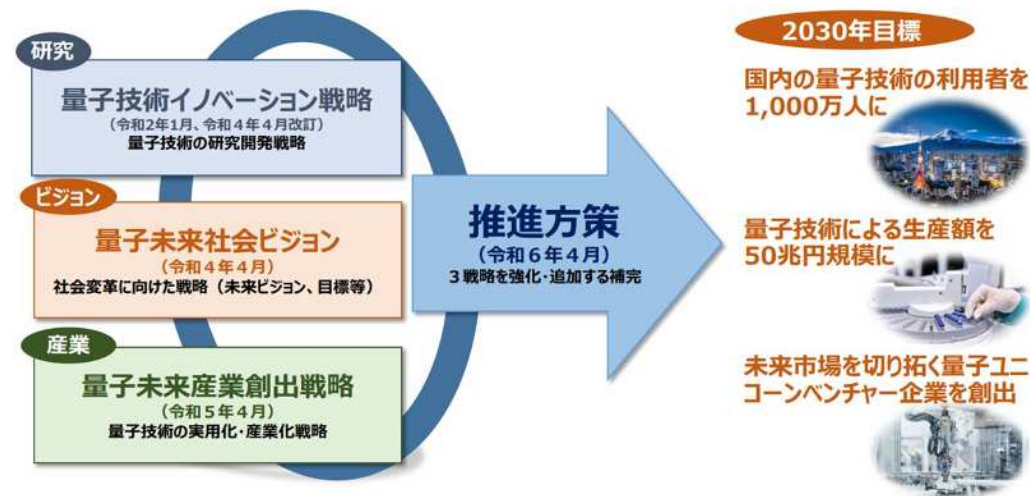


出典：内閣官房・量子技術イノベーション会議「量子産業の創出・発展に向けた推進方策」

2-3 「量子イノベーションパーク」実現に向けた取組 –②国内の状況

我が国の目標・戦略

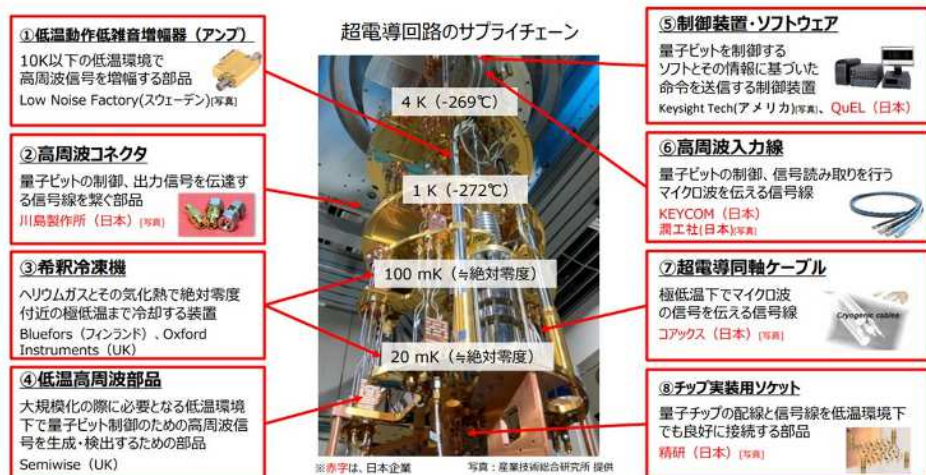
- 国が量子技術に関する戦略を次々と策定(「量子技術イノベーション戦略」(R2.1)、「量子未来社会ビジョン」(R4.4)、「量子未来産業創出戦略」(R5.4)、「量子産業の創出・発展に向けた推進方策」(R6.4))し、世界をリードする量子技術の発展とこれらを支える人材育成に対して、積極的に官民が連携して投資していくことを鮮明に打ち出しています。
- また、量子技術の研究開発に取り組む国内の11 拠点を選定し、研究開発予算や体制の拡充を図っています。
- こうした取組を通じ、令和 12(2030)年に、①国内の量子技術の利用者を 1,000 万人に、②量子技術による生産額を 50 兆円規模に、③未来市場を切り拓く量子ユニコーンベンチャー企業を創出することを目標としています。



内閣府「量子産業の創出・発展に向けた推進方策」

国内における研究開発の状況

量子コンピューターのサプライチェーン構成とプレイヤー



経済産業省「イノベーション創出に向けた先端基盤技術(量子・AI)戦略について」

- 令和3(2021)年7月、新川崎・創造のもりにおいて、アジアで初めてのゲート型商用量子コンピューターIBM Quantum System One「Kawasaki」が設置・稼働を開始
- また、令和5(2023)年3月には、理化学研究所が国産量子コンピューター初号機を開発し、その後、富士通(株)が理化学研究所や大阪大学とともに2号機、3号機を開発・稼働させるなど、国内でも活発な研究開発競争が繰り広げられています。
- 近年、大学発の研究成果から、量子技術スタートアップが誕生しつつありますが、国内では10数社程度と、海外と比較して極めて少ない状況にあるとともに、量子技術分野の人材が圧倒的に不足しているため、産業人材、次世代人材の育成が課題となっています。
- 同時に、経済安全保障の観点から、量子コンピューターを構成する重要部材等のサプライチェーンを構築することが必須であり、高度なものづくり等の技術力を有する企業の重要性が高まっています。

2-3 「量子イノベーションパーク」実現に向けた取組 –③川崎市が目指す量子イノベーションパーク

○川崎市では、新川崎・創造のもり地区が世界の他の拠点と比較しても高い優位性を持つ量子コンピューティング技術を活かし、同地区を中核とする市内全域での量子分野におけるイノベーションの創出を図る「量子イノベーションパーク」の取組を推進します。

量子イノベーションパークとは、量子技術を核としたイノベーションの創出に向けた多様な研究・実証・教育プロジェクトが、新川崎・創造のもりを中核として、様々な企業・研究機関等において市内全域で展開される姿を言い、それぞれのプロジェクトが相互に連携、影響を及ぼしあうことで、世界の量子イノベーションを先導するエコシステムが形成されることを目指すものです。

量子イノベーションパーク実現に向けた取組の契機

- 令和3(2021)年6月、東京大学、日本IBM、川崎市による量子コンピューティング技術の普及と発展に関する基本協定書を締結
- 令和3(2021)年7月、新川崎・創造のもりにアジア初のゲート型商用量子コンピューター「Kawasaki」が設置・稼働を開始し、令和5(2023)年秋には、国の支援を受け、127量子ビットへとアップグレード
- 令和4(2022)年10月、国の長期大型プログラム JST「共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)(量子技術分野)」に、東京大学を代表機関とする拠点[名称:サステナブル量子AI研究拠点(SQAI)]が採択。本市は慶應義塾大学とともに新川崎サテライト拠点として参画し、量子技術を活用したスタートアップの創出や、産学官の連携、市内企業等への産業波及に取り組む

新川崎・創造のもりで稼働する量子計算機

新川崎・創造のもりで稼働する国内最高性能の
ゲート型商用量子コンピューター
IBM Quantum System One「Kawasaki」



出典:日本IBM

SQAI 新川崎サテライトとして、慶應義塾大学田中宗准教授が
新川崎・創造のもりKBICに企業との共同研究の拠点を構築

- 量子シミュレーションが高速に行える計算環境(NVIDIA DGXH100)を提供
- クラウド経由での各種量子コンピュータやシミュレータへのアクセス環境も整備
- 上記活用に関する研究者向けハンズオンセミナーや、市内企業等のマネジメント人材向けの入門編セミナーも実施



市内企業等マネジメント人材向け量子コンピューティング入門編セミナー
を慶應義塾大学の教授陣と連携して2年連続で開催
令和5(2023)～6(2024)年で、約80名が参加

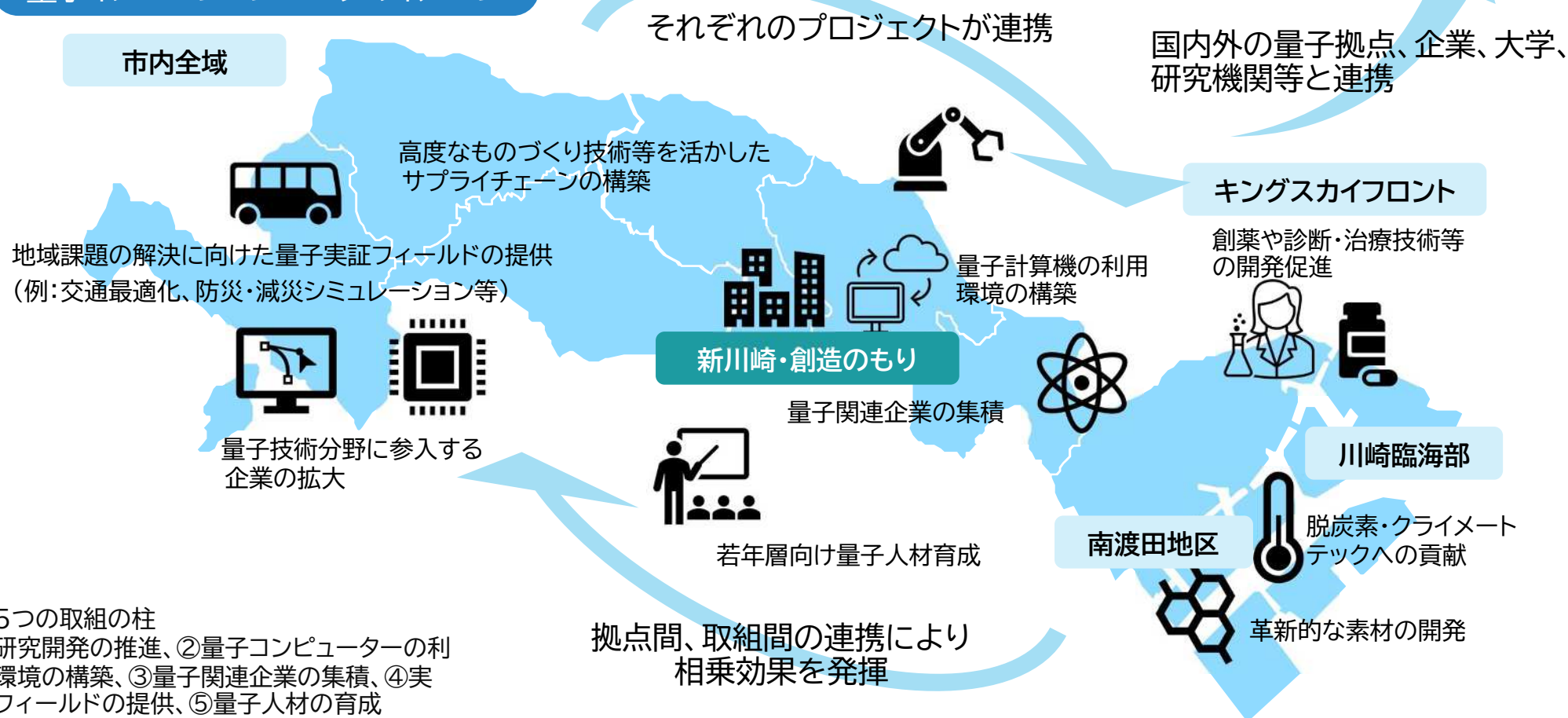


KBICに設置されたNVIDIA
DGX H100

2-3 「量子イノベーションパーク」実現に向けた取組 –③川崎市が目指す量子イノベーションパーク

- 本市では、量子イノベーションパーク実現に向けて、「新川崎・創造のもりの機能更新に関する基本的な考え方」で示した5つの取組の柱※に基づき、創造のもりを中核に市内全域で取り組んでいます。
- 中核となる新川崎・創造のもりでの量子関連企業の集積や量子人材育成の取組に加え、市内ものづくり企業の高度な技術等を活かした量子サプライチェーンの構築、量子コンピューターを活用した臨海部での創薬や脱炭素、クライメートテックの研究開発の促進、市内の地域課題の解決に向けた量子実証フィールドの提供など、拠点間、プロジェクト間の連携により相乗効果を発揮し、市内全域での量子イノベーションパークの実現に向けた取組を推進します。

量子イノベーションパークのイメージ



※5つの取組の柱

①研究開発の推進、②量子コンピューターの利用環境の構築、③量子関連企業の集積、④実証フィールドの提供、⑤量子人材の育成

2-3 「量子イノベーションパーク」実現に向けた取組 - ④川崎市内周辺の量子技術プレイヤー

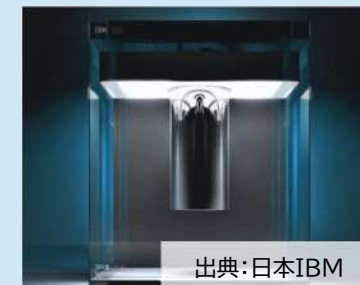
○市内及び市内周辺には、量子コンピューターの研究開発を行う企業だけでなく、ハードウェアの部材を製造する企業や、量子インターネット通信の研究に取り組む企業、量子コンピューターのユーザーとなりうる創薬や素材系の企業など、幅広い量子関連企業・大学が集積しており、量子イノベーションパークの実現につながる高いポテンシャルを有しています。

- 新川崎・創造のもり周辺 : 慶應義塾大学の研究者を中心に企業・大学・スタートアップが立地
- 市内の内陸部 : 量子コンピューターを開発する大手企業と、そのハードウェアの部材を製造する中小企業が立地
- 市内の臨海部 : 量子コンピューティング技術の産業応用先として期待されるバイオやライフサイエンス系の企業が立地



新川崎・創造のもり

慶應義塾大学 永山研究室(量子通信)
 慶應義塾大学 武岡研究室(量子通信)
 QITF(量子インターネットタスクフォース)
 慶應義塾大学 田中研究室(量子アニーリング)
 日本IBM(量子コンピューティング全般)
 QII(量子イノベーションイニシアティブ協議会)
 ※新川崎の量子コンピューターを使用
 LQUOM(量子通信)
 SQAI(サステナブル量子AI研究拠点)



2-3 「量子イノベーションパーク」実現に向けた取組 -⑤市内の量子コンピューター部材のサプライヤー企業

- 市内には量子コンピューターを構成する部材の開発・製造を担う高度なものづくり技術を有する中小企業が複数社あり、本市の優れた中小ものづくり企業の集積を活かせる分野で、他都市に比べて高い競争力を有しています。
- 量子コンピューターの産業化に向けては、量子コンピューターのハード・システムに必要な装置・部品・材料等の安定的かつ強靱なサプライチェーンの構築が必要であり、経済安全保障の観点から国内でのサプライヤー企業の育成・確保を目指す動きも進んでいることから、市内中小企業の参画を促進、支援することが重要です。

量子コンピューターの部材開発等に取り組む市内企業の例

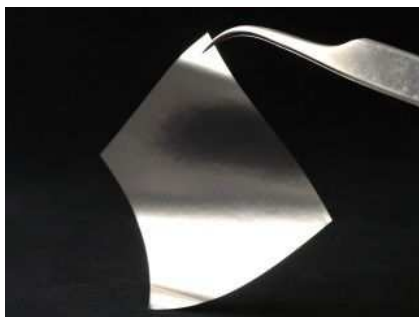
株式会社川島製作所(多摩区)



出典:川島製作所

- 量子ビットの制御、出力信号を伝達する信号線をつなぐ、極低温で使用可能な高周波同軸コネクタを製造
- 極低温下で使える同軸コネクタへの高い評価から、国産の量子コンピューター等に幅広く採用されています。

リカザイ株式会社(中原区)



出典:リカザイHP

- 研究開発用途等で使われる様々な素材の圧延箔を製造・開発
- 超電導素材であるニオブチタンの薄膜製造も得意としており、天体分野や量子コンピューターの部材として期待されています。

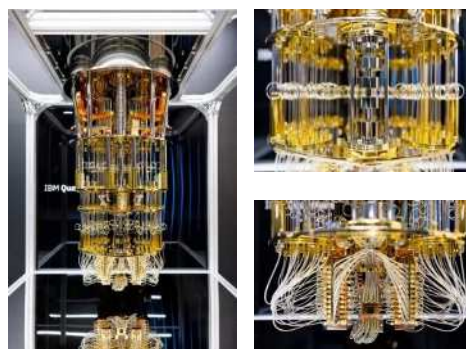
株式会社オータマ(多摩区)



出典:オータマHP

- 量子コンピューターの超電導量子ビットはノイズに非常に弱いことから、約マイナス273℃の極低温環境にも耐えられる専用の磁気シールドが必要とされ、国産の量子コンピューターをはじめ、各所で採用されています。

株式会社ヒラミヤ(高津区)



出典:日本IBM

- 新川崎に設置された量子コンピューターの内部構造を精緻に再現した実物大の模型を、高い金属加工技術と3次元CADのデジタル技術により製作
- 米国IBMからも高い評価を得て、欧州・アジアからも複数台の受注

コラム① 量子人材育成の取組

- 量子コンピューターの実用化や量子産業の創出・発展に向けて、研究者・産業人材ともに不足しており、量子人材の需要は世界的に一貫して増加傾向にあると言われています。
- 本市では、他都市に先駆けて、若者向けや産業界向けの量子人材育成事業に取り組んでいます。

若者向け人材育成プログラム

Kawasaki Quantum Summer Camp

- 量子コンピューターの実機が新川崎・創造のもりに設置されたことを契機として、全国の自治体に先駆けて、量子分野の産業化をけん引する将来の人材を川崎から輩出することを目指し、令和4(2022)年度から開始した市内在住・在学の高校生を対象とする量子人材育成プログラム
- 量子プログラミングやハードウェア技術をはじめとした量子コンピューターの基礎力の習得のほか、実機見学、デザイン思考の講義を実施
- 毎年5日程度のプログラムに、これまで高校生約70名が参加(R4~R6年度)し、大学での量子研究に進む人材も複数輩出
- また、過去の受講者がOB・OGサポーターとして参加し、量子コンピューターに興味を持つメンバー同士の交流・繋がりを生むコミュニティも形成

【主催】川崎市、日本IBM、東京大学



量子技術分野への参画促進

経営者・リーダー向け量子コンピューティングセミナー

- SQAI 新川崎拠点の取組として、量子コンピューティングの実用化・産業応用に向けた最新情報を発信する入門編のセミナーを定期開催(R5~R6)
- 量子コンピューティング領域への企業の参画を促進
- これまでに企業・団体 80名以上が参加
【主催】川崎市、慶應義塾大学



- その他、「かわさき科学技術サロン」での講演や、地域の経済団体と連携したセミナーや量子コンピューターの見学会を開催

研究者・技術者の交流

先端技術活用支援講座「エッジサロン」

- 量子技術分野の最前線で活躍する研究者やスタートアップを招き、最先端の研究開発やビジネス応用の可能性について話題提供するセミナー
- ゲストと参加者の双方向のディスカッションによる交流活性化を目指す



コラム② 量子技術を活用した実証事業について

- 量子コンピューティング技術の社会実装に向けては、実社会で活用できるユースケースが圧倒的に不足しているため、実証事業などを通じた実社会でのテストが不可欠です。
- 量子コンピューターのユースケースとしては、物流、製造、材料開発、創薬、金融、生活サービスなど幅広い分野での活用が期待されており、実現すれば、社会課題の解決に貢献します。
- 本市においても、量子技術の活用事例を創出し、量子イノベーションパークへの参画促進と、量子技術・成果への理解と興味・関心、期待感を醸成するため、様々な企業・大学等と連携し、市内をフィールドとした量子技術の実証に取り組んでいきます。

量子技術を活用した実証事業のイメージ



物流における経路最適化



製造工程の最適化



交通流解析による混雑緩和



災害発生時の避難ルート最適化



従業員のシフト最適化

未来社会における量子技術によって創出される価値

未来社会における量子技術によって創出される価値（量子技術活用イメージ）



出典:量子未来社会ビジョン

実証事業の実施状況の一例

分野	実施機関・企業	内容
物流	住友商事	通販物流事業における従業員の配置最適化
	TOPPAN、シグマアイ	物流業務の効率化に向けた実証実験
工場	ローム、Quanmatic	半導体製造工程の生産効率改善
エネルギー	野村総合研究所	データセンターの電力消費削減に向けた実証
交通	豊田中央研究所、東京大学	都市の信号機制御最適化による渋滞緩和
	NECソリューションズイノバータ	交通流解析の実証実験 ※川崎市内で実施
生活サービス	リクルートコミュニケーションズ	旅行情報サイトにおける表示順序の最適化
	博報堂DYホールディングス	広告・マーケティング領域における活用

※すでに実証が終了している事例も含まれます

03

機能更新の基本方針

3-1 機能更新の基本方針

- 令和5(2023)年8月 慶應義塾と本市が「新川崎・創造のもり地区の機能更新等に関する協定」を締結し、両者及び我が国の持続的な成長、発展に資するため、新川崎・創造のもり地区の機能更新等について、相互に協力して取り組んでいます。
- 基本的な考え方での整理を踏まえ、新川崎・創造のもりを中核とした「量子イノベーションパーク」と慶應義塾が目指す「世界に伍する研究開発拠点」は親和性が高く、相互に連携することで相乗効果を発揮するものであることから、一体的な視点で検討を進め、新川崎・創造のもり全体の機能更新を推進します。

慶應義塾が目指す 世界に伍する研究開発拠点

- **Society5.0の実現や社会課題の解決に貢献する世界最高水準のプロジェクトが複数展開している拠点**
- **大学の研究成果・技術シーズの社会実装、事業化が加速する研究開発拠点**
- **世界トップレベルの多様な人材が惹きつけられ、根付く拠点**
- **学際的、発展性のある拠点**
- **連携・交流のエントランスとなる拠点**
- **科学技術を身近に学ぶ機会が提供され、次世代人材を輩出する拠点**

親和性・相乗効果



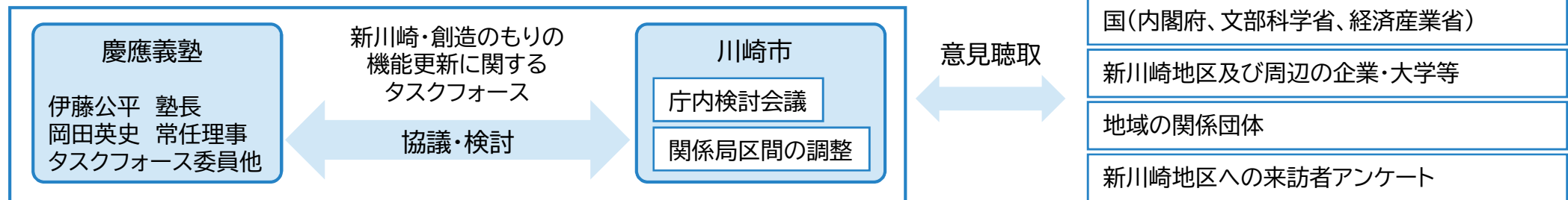
慶應義塾 伊藤公平塾長と川崎市 福田紀彦市長

川崎市が目指す 創造のもりを中核とした量子イノベーションパーク

- 核となる量子技術に加え、AI等最先端のコンピューティング技術、半導体等の最先端テクノロジーの「知」と「人材」の集積地
- **国内外から高度人材を呼び込む世界最高水準の国際的な研究開発拠点**
- 量子と古典の融合技術やソフトウェア、通信など**早期の社会実装化を意識した拠点の形成**
- **オープン・クローズ戦略を効果的に活用できる拠点の形成**
- イノベーションが生み出される**交流・コミュニティ環境**の構築
- イノベーションの源泉となる研究・事業アイデアの創出を促進するリラックスとリフレッシュができる**自然と調和した研究環境**の構築

検討体制

- 川崎市と慶應義塾による新川崎・創造のもりの機能更新に関するタスクフォースを組成し、基本計画策定や機能更新の実現に向けて定期的な協議・検討を進めています。



3-2 目指す姿 –①新川崎・創造のもりが目指す姿

○新川崎・創造のもりに集積する大学・企業等の技術を基盤とし、市民・社会生活や産業構造を変革する様々なプロジェクトの推進を通じ、地域課題や社会課題の解決と成長など、川崎市の都市としての「サステナビリティ・トランスフォーメーション(SX)」の実現に貢献する研究開発拠点を目指します。

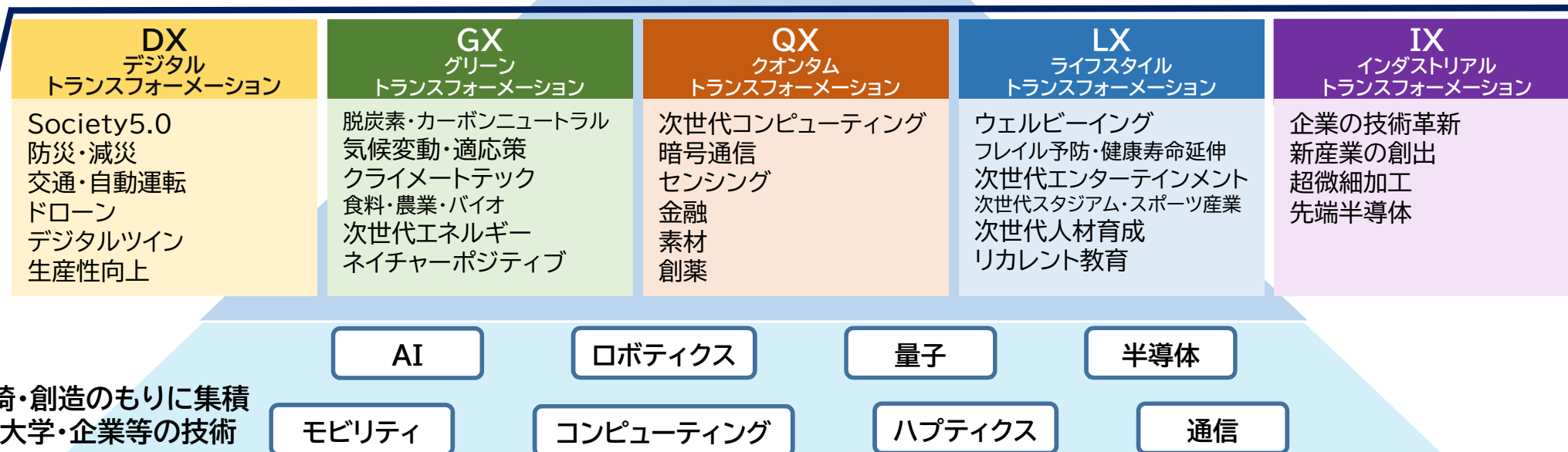
- 本市をフィールドとしたプロジェクトの成果を、アジアの中核都市など、世界に発信・展開し、世界のSXに貢献する研究開発拠点
- 具体的な研究プロジェクトの組成・推進や国費の獲得等に向けて、慶應義塾・川崎市による連携・推進体制を整備

(※)新川崎・創造のもりが目指すサステナビリティ・トランスフォーメーション(SX)とは、DX・GX等の技術やプロジェクトを通じ、地域課題や社会課題の解決を図り、市民生活や企業・社会の活動などがサステナビリティ(持続可能性)を重視したものへと転換することです。

サステナビリティ・トランスフォーメーション
SX・川崎モデルの実現

慶應義塾大学等とともに実現

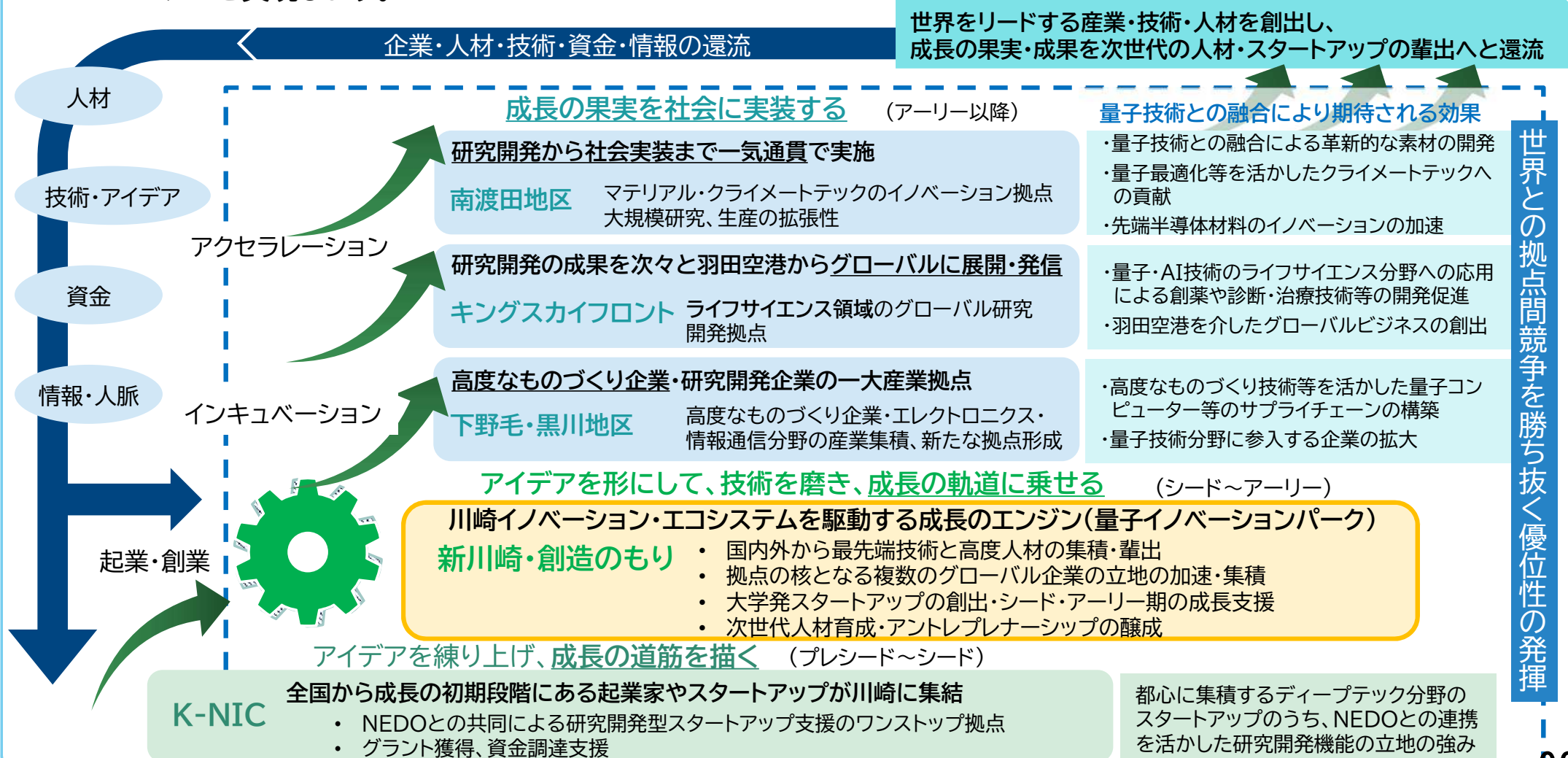
SXの実現に向けた市民・社会生活や産業構造を変革する様々なプロジェクトの推進



新川崎・創造のもりに集積
する大学・企業等の技術

3-2 目指す姿 –②新川崎・創造のもりが成長のエンジンとなるイノベーション・エコシステムの姿

- 本市の拠点が持つ価値、強みを活かした、最先端技術とスタートアップのイノベーション・エコシステムの形成を目指します。
- まず、K-NICに全国の起業家が集まり成長の道筋を描き、「新川崎・創造のもり」において成長の軌道に乗せ、その後、キングスカイフロントや南渡田地区等において成長の果実を社会実装し、グローバルビジネスへと発展させます。
- その成長の成果・資産を次世代の人材・スタートアップの輩出へと還流させ、次々とイノベーションを生み出す持続可能なエコシステムを実現します。



3-2 目指す姿 –③機能更新において必要と考えられる機能

○「新川崎・創造のもりの機能更新に関する基本的な考え方」では、機能更新において必要な機能を整理しました。

視点	必要と考えられる機能	導入に向けた配慮事項
研究の加速化・実用化	(1) 先端企業・大学等が集積し、研究開発を加速する良好な研究環境機能 ○ 様々な研究ニーズに対応可能な柔軟性、拡張性を有する研究スペース ○ 大企業や中小企業、スタートアップ、大学など多様な主体が集い、連携しやすい研究スペース	● 研究の効率性、拡張性、オープンイノベーションを実現するため、1フロアの床面積を最大限大きく確保した、大空間ラボスペースの整備 ● 大学その他、大企業、中小企業・スタートアップなど、多様な研究・プロジェクトに対応できるバリエーションと柔軟性、可変性のあるラボの整備 ● 電源・通信など安定的で信頼性の高い研究・事業インフラの確保
	(2) 経済安全保障に配慮した研究を支えるセキュリティ機能 ○ セキュリティ対策を考慮した研究スペース・交流スペース等の配置と動線設計	● ラボ機能とアメニティ機能の日常動線を適切に分離し、セキュリティを確保 ● 一部のラボスペース等への物理的なアクセスを制限できるセキュリティラインを設定するなど、研究成果や機密情報を適切に保護
優れた人材の集積	(3) オープンイノベーションを活性化する交流・コミュニティ機能 ○ 入居企業同士や来訪者が自由に交流するためのスペースや交流を支援する体制、イベント等	● 入居者や来訪者が自由に交流するラウンジやコミュニケーションスペースを動線の結節点に配置するなど、日常的な交流や異分野とのコラボレーションを創発 ● 利用者動線、セキュリティを踏まえたカンファレンススペースを配置するなど、学会、セミナー、技術発表会、地域との交流等の多様な会議、情報発信への対応に配慮
	(4) 高度人材を惹きつけ、国内外から優れた人材を誘引する機能 ○ 先端的で魅力ある研究開発プロジェクト ○ 研究者とその家族が、研究と生活に快適に対応できる環境	● 国内外の優れた研究者を惹きつける、魅力ある大型プロジェクトや中核企業等の立地誘導 ● 企業、大学等の海外からの研究者等が研究に専念し、円滑に生活環境を構築するため、研究者やその家族の滞在環境、サポート環境の検討 ● エリア全体のサインの多言語化、ユニバーサルデザインの視点でのエリアごとの配色、サイン計画など、誰もがアクセスしやすく、利用しやすい環境の整備
研究開発を支える基盤	(5) 次世代を担う子どもたちが科学技術への夢を育む場など、多世代の人材を育成する機能 ○ 若者向け科学体験イベントの更なる充実 ○ 研究開発等の実践の場を活用した産業人材の育成	● 「科学とあそぶ幸せな一日」や「Quantum Summer Camp」等の更なる充実 ● 研究成果を来訪者に分かりやすく紹介するショーケース機能の検討 ● ラボの一部をガラス張りにするなど、研究活動に支障のない範囲で日常の活動の見える化を工夫し、市民や地域に開かれ、子どもたちの科学技術への夢を育む環境の整備
	(6) 地域に開かれた憩いの空間 ○ 隣接する公園と一体性があり、地域住民にも開放的で緑豊かな空間 ○ カフェなど、緑地空間を楽しみ、憩いの場となる空間	● 新川崎・創造のもりのエントランスにふさわしい賑わいと憩いの空間の形成 ● さいわいふるさと公園との一体的な緑地の配置や、自然との調和に配慮した緑地環境の構築、回遊性の向上に向けた動線の整備 ● 緑地に面した低層部へのカフェや売店の設置、オープンスペースの整備など地域に開かれた機能の配置

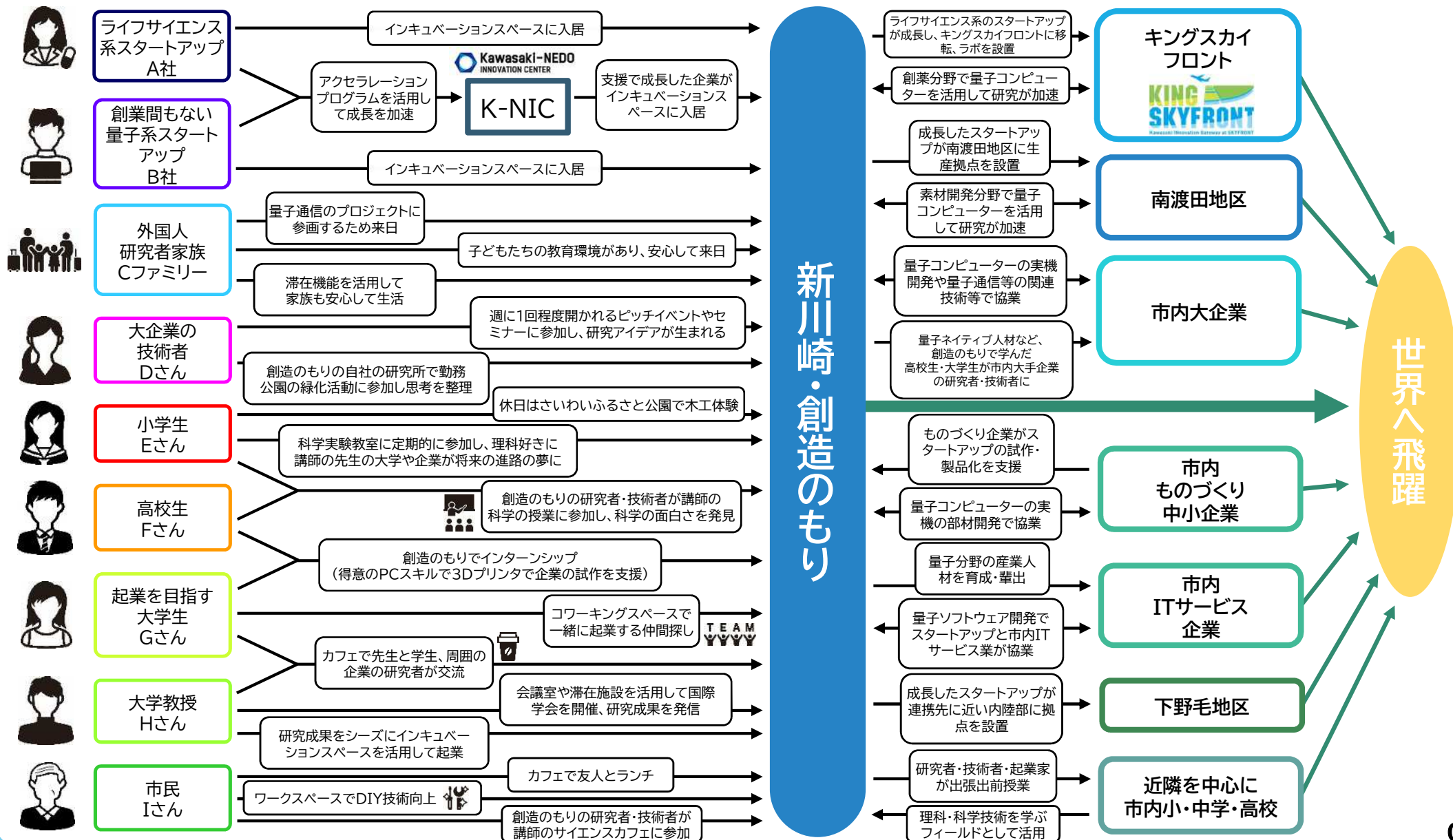
3-2 目指す姿 –④新川崎・創造のもりのエコシステムを形成する要素のイメージ

○新川崎・創造のもりのエコシステムでは、「多様な人材が交流し、相互に成長・支援する場」、「技術やアイデアが生まれ、磨かれ、実現する場」、「資金や支援が人材を育て、技術を伸ばす場」の形成を通じ、次のような活動が活発に展開されるイメージの実現を目指します。

多様な人材が交流し、相互に成長・支援する場	技術やアイデアが生まれ、磨かれ、実現する場	資金や支援が人材を育て、技術を伸ばす場
①外部の人材・企業が気軽に訪れ、交流 ②滞在スペースを備え、国内外の研究者が短期又は中・長期で創造のもりに滞在、活動 ③カフェ・緑・公園が一体の開かれた緑地で、市民や学生、研究者らが日常的に共存・交流 ④高校生・大学生等が研究者・技術者から科学技術について学び体験できる場の提供 ⑤若者の科学技術への興味を高める取組や市民向けサイエンスカフェを定期的に開催 ⑥高校生や大学生がスタートアップ経営者や研究者と気軽に交流 ⑦国際感覚と科学技術を併せ持つ次世代人材の育成、周辺学校との交流 ⑧研究者と地域住民が協働する活動	①コワーキング・登記可能オフィススペース ②カフェやレストラン、日常導線で組織を越えて自然に交流、ディスカッション ③加工機械や3Dプリンター等を活用して気軽にアイデアを具体化し、試作品を施設で気軽に実証 ④学生インターンシップがコミュニティの一員として企業の研究・試作をサポート ⑤成長を加速する新川崎独自のアクセラレーションプログラムの提供 ⑥経済安全保障に配慮した高度なセキュリティとオープンイノベーションの両立 ⑦電力等のインフラの安定的な稼働環境 ⑧クリーンルーム等の特殊施設・設備を適切に管理	①お節介スタッフが入居者のネットワーキングを提供 ②市内企業に精通したコーディネーターがニーズに応えるパートナーを紹介 ③知財、規制、財務等の専門相談の定期実施 ④VC等とのマッチング、資金調達支援 ⑤スタートアップや研究者と経営人材とのマッチング ⑥企業出身専門家の技術、研究開発支援 ⑦新川崎地区ネットワーク協議会の活性化 ⑧メディア等を使い分けたプロモーション ⑨活動がSNS等の発信を通じてグローバルな双方向コミュニケーションの実施

コラム③ 多様な主体が新川崎・創造のもりを活用し、成長するイメージ(ペルソナ)

○機能更新後の創造のもりは、起業家やスタートアップ、大企業に加え、市民や学生の方、外国人の研究者家族など、多様な方々を対象として、様々な関わり方、使われ方、学び方、楽しみ方等の接点を持てる魅力的で活気のある拠点を目指します。



コラム④ 量子技術と従来技術の融合による技術革新と新たな産業創出を実現する拠点づくり

○量子技術の発展に向けて、新川崎・創造のもりにおいて、量子技術に加え、AI・Beyond5G等の従来型技術、その基盤となる半導体等の「知」と「人材」の集積・融合を図り、技術革新と新たな産業創出を実現する拠点形成を目指していきます。

新川崎・創造のもりに集積させる技術領域

コンピューティング

量子コンピューター

量子ソフトウェア

通信・セキュリティ

量子セキュリティ

量子ネットワーク

計測・センシング

量子計測・センシング

量子技術

融合 **+**融合 **+**融合 **+**

従来型技術

AI・ビッグデータ

HPC・スーパーコンピューター

Beyond5G

情報セキュリティ

センサー技術

IoT

医療診断装置

半導体・ものづくり・ロボティクス 等

産業応用・実用化に向けた他拠点等の連携が期待される領域

創薬 医療 素材・化学 バイオ エネルギー モビリティ 金融 宇宙 防災 農業 等

コラム⑤ 川崎市内の研究開発拠点

○本市の特徴として、「かながわサイエンスパーク」や「キングスカイフロント」、南渡田地区など複数の研究開発拠点・産業拠点を有しており、市内には550以上の研究開発機関が集積し、市域全体でイノベーションを創出する基盤が整っています。

○今後は、拠点間の連携・相乗効果を促進し、成長段階や技術領域に応じた企業の支援を行っていく必要があります。



コラム⑥-1 先進事例の整理(ニューヨーク州 アルバニーについて)

○ニューヨーク州アルバニー・ナノテク・コンプレックスは、最先端半導体の研究開発拠点として、世界中の様々な関係者とパートナーシップを構築しながら、関係者がロードマップを共有し、製造装置の利活用や知的財産においても連携しながら、研究開発を加速しています。

- 最先端半導体技術や量子技術といった特定のテーマの下で、IBMなど世界的企業群を中心に研究開発を推進
- 推進体制内でのオープンイノベーションを円滑に進めるため、参画企業・機関の集め方、施設・設備の設置・運営・保守、知財の取扱い等の運営ルール、人材の供給など、目標達成に向けて研究開発事業の推進に資するあらゆる取組を実施

ナノテク・コンプレックスのエコシステムの特徴	
パートナーシップの構築	技術連携先、製造装置メーカー、素材サプライヤーからエンドユーザーまで世界中の様々な関係者との戦略的パートナーシップを構築
ロードマップの共有	共同研究のロードマップをパートナー間で展開・共有することで、各パートナー企業がロードマップを踏まえて、自社の体制や事業を拡大できるようになることが、パートナー企業により主体的な連携意欲を引き出す
運営主体	NY CREATES(ニューヨーク州政府が設立したNPO法人でアルバニー・ナノテク・コンプレックスの施設所有・運営を行う)
教育機関	敷地内に立地する技術系のテック・バレー高校では、生徒たちが研究開発現場を日ごろから目の当たりにし、将来を担う人材育成のための非常に重要な機会となっている
厳格なセキュリティ	IBMトーマス・J・ワトソン研究所はもちろん、公的な機関(NYクリエイイツ)が運営するアルバニー・ナノテク・コンプレックスの施設入退場や、各フロア、各室の入退場は、一時訪問者にも付与されるIDカードで管理され、権限を与えられた人物以外は入れないよう、厳格なセキュリティで管理
知財の共有	知財をライセンス供与することで、さらに多くのパートナーをエコシステムに引き付けることが可能となる
州政府との関わり	研究開発拠点・半導体関連産業の集積に向けた計画策定・運営費の資金援助、インフラ関係の整備



アルバニー・ナノテク・コンプレックス

出典：https://research.ibm.com/labs/albany

総延床面積15万5千㎡
(新川崎・創造のまりの4.4倍)に及ぶ、最先端半導体の研究開発拠点敷地内には企業、ニューヨーク州立工科大学、テック・バレー高校等が立地

巨大なクリーンルームに、半導体製造装置メーカーが装置を持ち込み、協業他社とデータ(知的財産)を共有して最先端半導体の開発を加速



出典：https://research.ibm.com/labs/albany

コラム⑥-2 先進事例の整理(マサチューセッツ州 ボストンについて)

○ボストンのエコシステムにおいては、コンパクトな地域に特徴が異なる「ミニエコシステム」が多層的に集積し、マサチューセッツ工科大学(MIT)、ハーバード大学等からの大学院生等の高度人材の受け皿として、Greentown Labsや、Mass Challengeなどのインキュベーターの誘致を進め、同州のスタートアップ創出施策を強化しています。大学、支援組織は、組織間の信頼関係と連携を重視しており、人的ネットワークによる相互補完関係を構築しています。

サマービル地区 エネルギーやライフサイエンスのハードテックエコシステムが形成

Greentown Labs

- NPOがクライメートテック分野のスタートアップの入居・成長支援を実施
- 2011年の4社から2023年の125社へと集積
- グローバル企業のスポンサーを得て、スタートアップとのマッチングによる協業・投資を実現



【グリーンタウンラボ内部】

※出典: Greentown Labs から<https://greentownlabs.com/>

ケンダル地区 MITが中心となって構築した「地球上で最も革新的な平方マイル」

The Engine Built by MIT

- MITには長期間を要する課題解決技術(タフテック)が存在
- 大学院生やポスドク、特に4割以上の留学生が卒業後もボストンに留まることから、MITとThe Engineがスタートアップの起業支援を行うことで、高度な人材の雇用を生み出し、地域経済の発展に貢献



※出典：在ボストン日本国総領事館 ボストン/ケンブリッジにおけるエコ・システム関連図を加工
<https://www.boston.us.emb-japan.go.jp/files/100523455.pdf>

シーポート地区 倉庫街だった場所にロボティクス・クライメートテックの拠点を形成

Mass Challenge

- NPOによるアクセラレーションプログラムが、クライメートテック等のスタートアップの成長を支援
- グローバル企業のスポンサーを得て、スタートアップとの協業のマッチングと資金調達を行う
- スタートアップが参加する際に費用負担が生じない仕組みで、スポンサー企業を明示して募集するため、協業希望スタートアップにとつてメリット



Mass Challenge



Mass Robotics

Mass Robotics

- ロボット工学やハードウェア関連のスタートアップを支援するNPO
- 州政府や連邦政府にロボット産業の振興と規制提言も行う
- インキュベーターとアクセラレーターの次のステップを、「エスカレーター」と定め商業化前の支援を提供
- プロトタイプ製作、テスト、製品開発に必要な作業スペースや設備を提供し、高校生向けのSTEM教育も実施

コラム⑥-3 先進事例の整理(北海道の半導体エコシステムについて)

○Rapidus株式会社の立地という好機を活かし、半導体の製造、研究、人材育成等が一体となった複合拠点を実現するとともに、食や観光、再生可能エネルギーなど北海道の強みである産業振興と合わせて、北海道経済全体の成長に結びつけていく取組を展開しています。

- Rapidus社の立地に伴い、国内外の研究機関、半導体製造装置メーカーが相次いで立地を表明
- 半導体の製造、研究、人材育成等が一体となった複合拠点を實現し、すべての産業へのDX化を進める「北海道デジタルパーク」を展開する中で、その効果を道央圏のみならず全道への波及を目指しています。

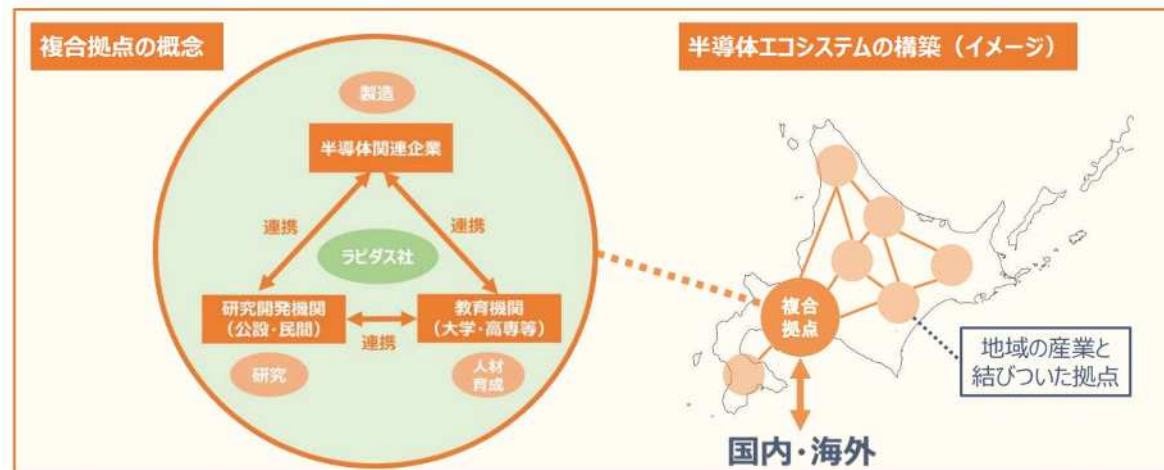
北海道の半導体エコシステムの特徴	
目指す方向性・概要	半導体の製造・研究・人材育成等が一体となった複合拠点を實現し、すべての産業へのDX化を進める「北海道デジタルパーク」を展開
人材育成の取組	北海道半導体人材育成等推進協議会を設置 半導体人材の育成と確保、半導体関連産業の取引活性化を推進
北海道デジタルパークの展開	Rapidus社の立地による次世代半導体技術をトリガーに道内のデジタルインフラを成長基盤として、すべての産業へのDX化を推進
地域を巻き込んだ取組	道内企業でも半導体産業に参加意欲の高い企業が多く、各地に半導体に詳しいコーディネーターを設置し、各地域を巡回 地域の産業と結びつけた複合拠点の構築を目指す
国外の研究者の滞在環境・生活環境の整備	試作ラインの稼働や量産ラインの増設に際しては、100人規模の外国人が一時的に滞在する想定であり、滞在する出張者に対応するため、宿泊機能や商業機能、まちなかの案内板の整備等、生活環境や滞在環境の整備を想定

「北海道半導体・デジタル関連産業振興ビジョン」（令和6（2024）年4月策定）では、令和15（2033）年度に、半導体関連企業の出荷額1兆3,162億円、半導体関連企業の雇用者数12,607人、半導体関連企業による道内総生産への影響額1兆259億円等の目標値を設定



令和7（2025）年のパイロットライン稼働、令和9（2027）年の量産化に向け、国・道・千歳市など各主体がそれぞれの役割のもと連携し、次世代半導体製造拠点の整備事業の成功を目指す

出典：Rapidus（株）HP



複合拠点は道内の半導体関連企業、研究開発機関、教育機関が一体となり構成
道内の各地域の産業と結びつけた地域拠点と有機的につながり半導体エコシステムを構築
出典：北海道 半導体・デジタル関連産業振興ビジョン

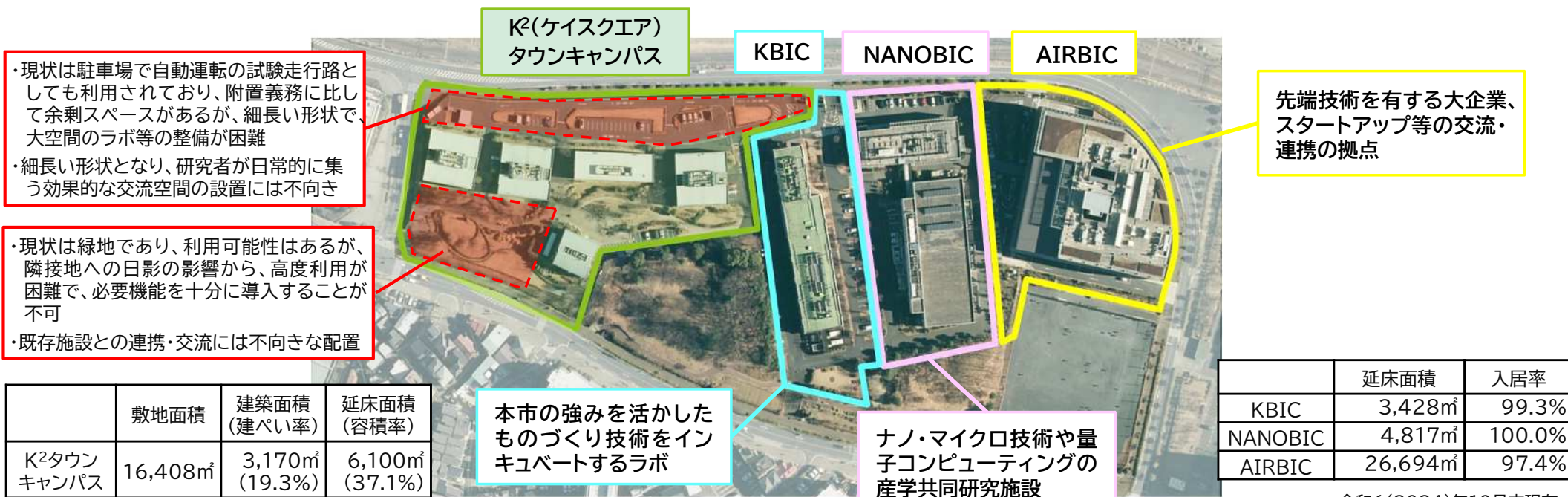
04

土地利用・整備の方針

4-1 基本方針を踏まえた施設整備の方針、範囲

施設整備の方針・範囲

- 創造のもりの既存の施設はインキュベーション施設としてほぼ満床状態の高い稼働率を維持しており、既存の居室を転用しての新たな機能の導入は困難な状況です。
- 機能更新の対象エリアの中心であるK²タウンキャンパスは、現状の建ぺい率が地区計画に基づく上限の50%に対して19.3%、容積率は上限の300%に対して37.1%であり、建ぺい率・容積率上は新たな施設の整備の余地がありますが、検証の結果、隣接地への日影規制の影響や敷地形状などから、余剰地を活用した増築では、今回の機能更新で求められる、研究の拡張性、柔軟性、可変性のある大空間のラボや、経済安全保障に配慮したセキュリティ、効果的な交流空間等の必要機能を十分に充足し、導入することが困難です。
- こうしたことから、創造のもりの機能更新においては、K²タウンキャンパスの既存施設を解体し、K²タウンキャンパスの敷地を対象に新たな施設の整備を行うことで、機能更新の効果の最大化を図り、高度人材が集積するイノベーション拠点の形成や地域に開かれた憩いの空間の形成等の実現を目指します。

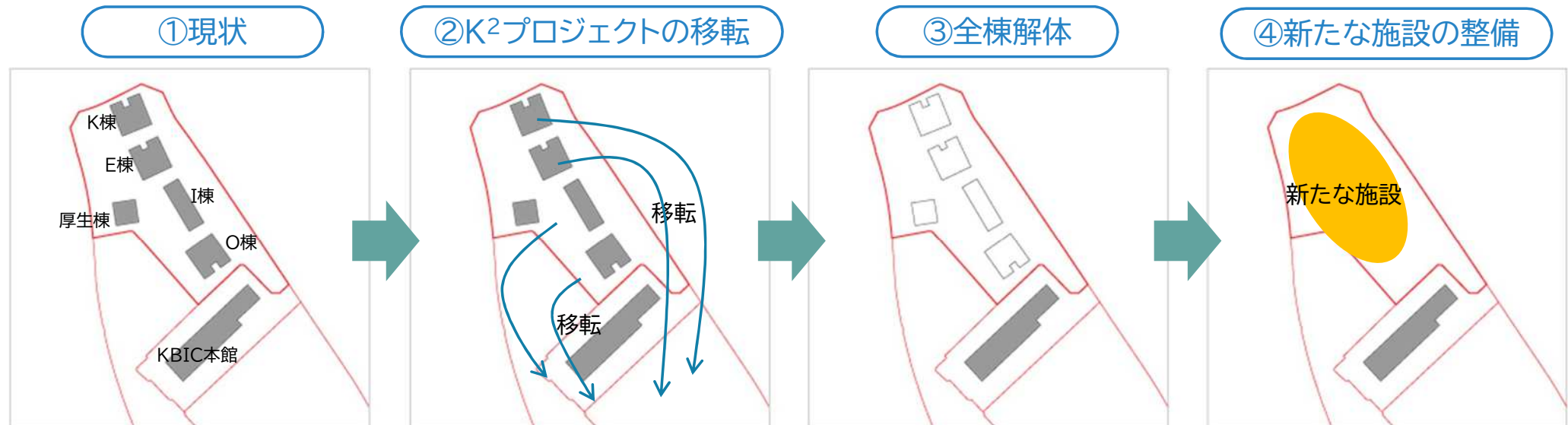


4-1 基本方針を踏まえた施設整備の方針、範囲

○必要な機能の導入について、既存施設の中では導入・充足が難しいことから、K²タウンキャンパス敷地の既存建物を解体し、新たな施設を整備します。

- 新たな施設整備に関して、時機を逸することなく本市が目指すイノベーション・エコシステム形成を可能な限り早期に実現するため、**新たな施設の整備対象エリアを現在のK²タウンキャンパスの敷地に設定**
- K²タウンキャンパス敷地において土地の高度利用を図るため、**既存の鉄骨造2階建ての建物5棟(K・E・I・Oの研究棟4棟、厚生棟1棟)を解体し、新たな施設を整備**
- **既存建物の解体と新たな施設の整備を一体的に行い、工期の短縮と事業の効率化を推進**
- 新棟整備に伴い、現在K²タウンキャンパスで展開されている研究プロジェクトは一時的に移転が必要であり、研究活動の維持、影響の最小化を図りながら、本事業を遅滞なく進捗させるため、**新川崎・創造のもりの敷地を活用しながら順次移転先を確保**
- 移転先は、既存施設(KBIC本館、NANOBIC、AIRBIC)と、KBIC敷地内に一時的な受け皿としての機能を果たす小規模プレハブラボの設置を想定

施設整備のステップのイメージ



4-2 新川崎・創造のもり全体の機能強化

○新たな施設と既存施設(KBIC本館、NANOBIIC、AIRBIC)との接続による新川崎・創造のもり全体でのシームレスな活動拠点の確保と、施設間の交流・連携の活性化による企業の成長促進機能の強化により、新川崎・創造のもり全体での拠点価値の最大化を図ります。

- 新たな施設において、起業初期段階の起業家、研究者の活動場所を設け、アイデアの熟成とものづくりの試作が可能な機能を導入
- また、大学発スタートアップのラボなど、アカデミアのシーズを社会実装につなげるための基盤となるスペースを整備
- 本市が有する既存のインキュベーション施設(KBIC本館、NANOBIIC、AIRBIC)を活用し、練り上げられた研究開発のシーズをもとに事業を成長の軌道に乗せる
- 既存施設で成長した企業が活動スペースを拡張する段階で、新たな施設に移り、安定した環境で研究開発を加速させ、更なる事業拡大につなげる

新川崎・創造のもり

新たな施設

大学・大学発スタートアップ・起業初期

- ・起業前、起業初期の活動場所
- ・大学発スタートアップのラボ
- ・若者がアイデアをカタチにする場所



中核テナント・プロジェクト・成長企業
活動スペースを拡張し、研究開発の加速
とビジネスの拡大

「知」、「技術」、「人材」
の交流

成長

成長

既存施設

インキュベーション

シーズをもとに研究開発を加速、事業を成長の軌道に乗せる

KBIC本館



小～大規模ラボまで備え、研究開発型スタートアップ支援に特化

NANOBIIC



クリーンルームを備えた、次世代コンピューティング分野のスタートアップ支援の強化

AIRBIC



中規模ラボを豊富に揃えた、幅広い技術領域のアーリーステージのスタートアップの活動拠点としての機能

4-3 敷地条件の整理

- 対象エリアは新川崎地区地区計画が定められており、高さ制限や緑化率等の基準が別途規定されていることから、土地利用にあたってはこれらに留意が必要です。
- 必要機能の導入や、地域に開かれた空間の形成、配置プラン・適正規模の整理を行い、その実現に必要な都市計画等の変更について検討します。

- 新川崎地区地区計画(D地区)

項 目	新川崎地区地区計画による条件
所在地	川崎市幸区新川崎7番
用途の制限	学校・図書館(その他これらに類するもの)、事務所、集会所、研究所、倉庫(倉庫業を営むものを除く)、公衆便所等公益上必要な建築物、その他これらに付属するもの以外は建築不可
容積率	300%
建ぺい率	50%(緩和条項により最大70%まで可)
高さの 最高限度	建物高さ45m以下 <参考> ・K ² 、KBIC本館、NANOBIC 2階建 ・AIRBIC 5階建 (E地区)富士通(株) 6階建
日影規制	4m平面、5h・3h
緑化率	敷地面積の25%以上
壁面の位置の 制限	制限あり(西側敷地境界線から10mの範囲は建築不可) 実質的な建築可能範囲は、約14,300㎡
その他	新川崎都市景観形成地区

4-4 さいわいふるさと公園との一体的な緑地形成と回遊性の向上

○研究施設エリアと公園との境界を感じさせないボーダレスな空間の形成を図ります。

- 緑化率以上に緑を感じられる緑視率の向上に向けて、対象敷地内の緑の配置等を工夫
- 現在のさいわいふるさと公園の魅力等を活かしつつ、他の事例等を参考に、敷地境界を感じさせない一体性のある緑地空間を形成
- 回遊性を向上させるための動線の配置等を工夫
- 創造のもりエリアについて、実証フィールドでの活用や、イベント利用できるよう開放的な空間設計も工夫

立命館大学いばらきキャンパスの事例

隣接する公園との間には塀がなく、市民開放施設も設置するなど、地域・社会に開かれた空間を整備し、まちと一体化したキャンパスを形成



出典：UR都市機構HP



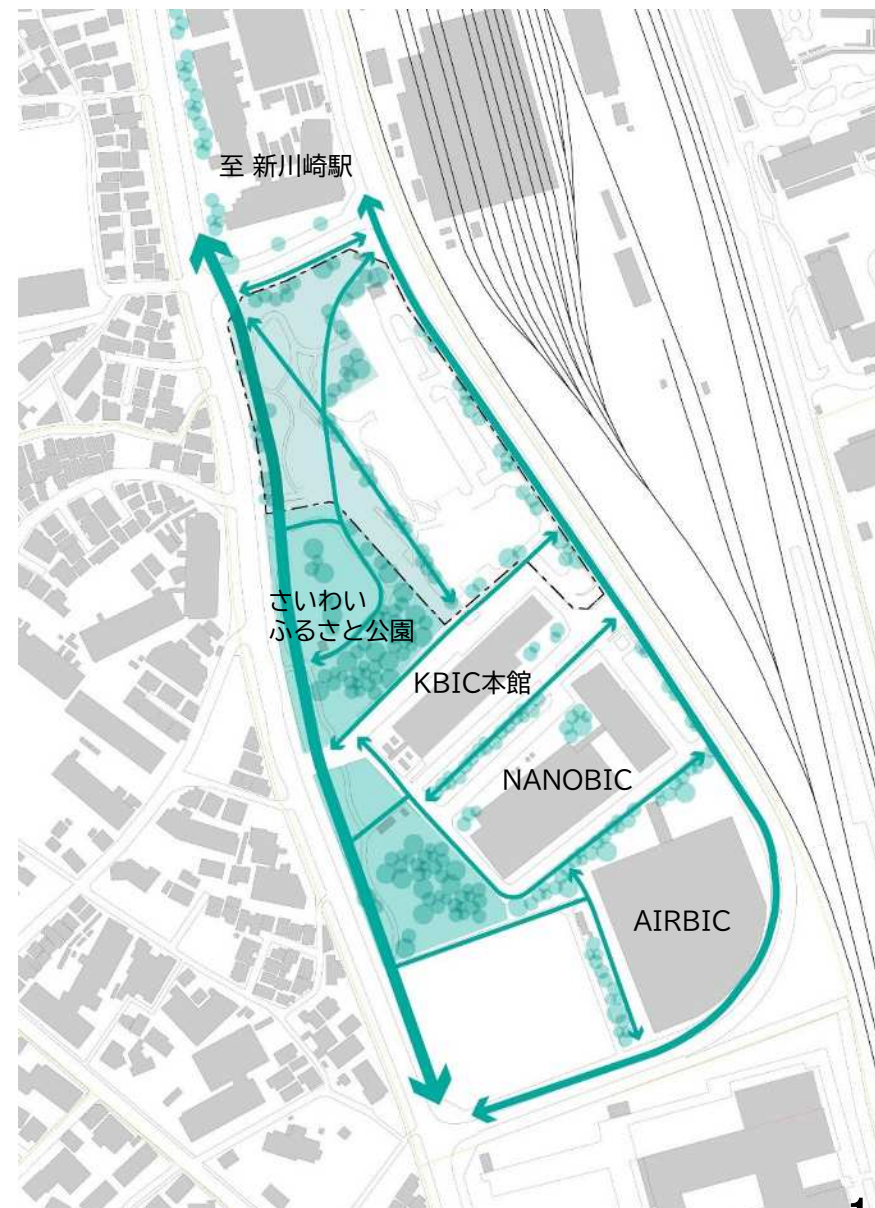
出典：竹中工務店HP

川崎区 キングスカイフロントの事例

隣接する南北2つの街区公園を緑のプロムナード(遊歩道)でつなぎ、誰もが自由に回遊できる官民境界のない一体的な緑地空間を形成



出典：大和ハウス工業HP





コラム⑦ 新川崎地区ネットワーク協議会

- 新川崎地区は、グローバルに活躍する事業会社や新技術・新製品を開発する中小企業・スタートアップ、最先端の研究を行う大学等が立地する地域です。
- こうした新川崎地区の産業集積とポテンシャルを活かし、産学官連携による新たな産業創出をめざすため、平成24(2012)年に地区内の企業や大学等によるネットワーク組織「新川崎地区ネットワーク協議会」を設立しました。
- 本協議会は、現在、「新川崎・創造のもり」を中心に企業92社、大学、関係機関等から構成されています（令和6(2024)年10月現在）。
- 会員企業の研究開発の成果について積極的な情報発信を行うとともに、産学連携、産産連携による新たな技術開発の促進など、新川崎発のイノベーションの創出に向けた活動を行っています。

出合いの機会の創出

- 展示会、ピッチイベント、事業所訪問など様々なスタイルで交流機会を提供
- 新川崎の最先端の研究成果のみならず、様々な分野のトップランナーである研究者・スタートアップ、彼らを支える事業会社や投資家などが集い、ここでしか出会えない人・情報が集積する場を提供し、産学連携、産産連携による新たな技術開発のきっかけを創出



交流促進

- アイデアを持ち寄ったり、情報の交換をしたりと、「顔の見える関係」を作るための場を提供
- 様々な業種が集う場だからこそできる、新たなネットワークづくりを支援



研究支援・事業支援

- 新川崎・創造のもりに集うナノ・マイクロ技術の専門家、高度な技術を有するものづくり企業の集積等の新川崎地区のポテンシャルを最大限に活かし、試作相談会や勉強会などを開催し、新たな挑戦を行うイノベーター達の研究・事業活動を支援

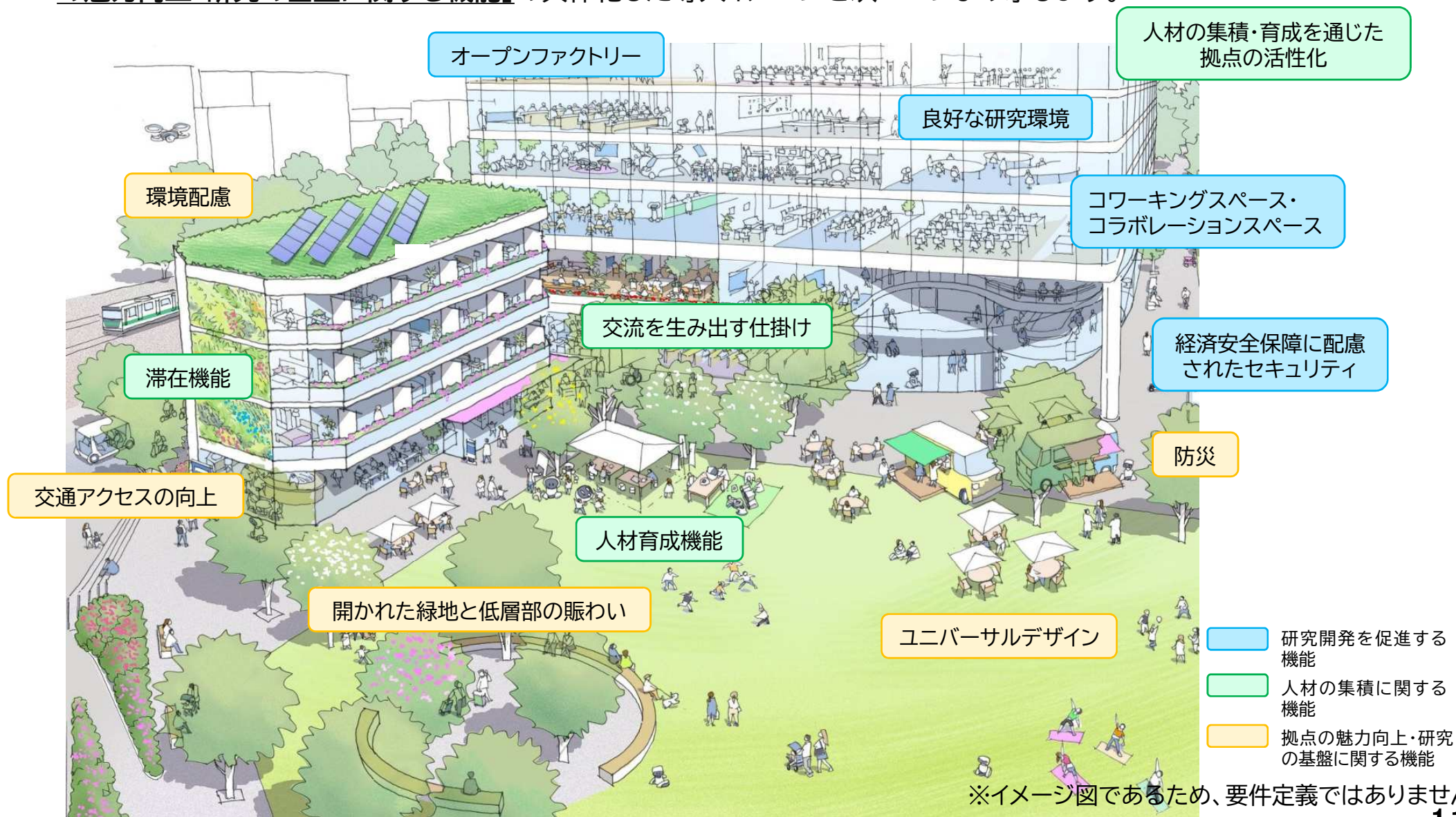


05

導入機能の整理

5 導入機能の整理

〇3-2-③で整理した「必要と考えられる機能」について、「研究開発を促進する機能」、「人材の集積に関する機能」、「拠点の魅力向上・研究の基盤に関する機能」の具体化した導入イメージを次ページより示します。



5-1 研究開発を促進する機能 –①研究開発を加速する良好な研究環境

○大学をはじめ、大企業や中小企業、スタートアップなど多様な主体が集い、連携しやすい、様々な研究ニーズに対応可能な柔軟性、伸縮性を有する研究環境を構築します。

- 研究の効率性、拡張性を実現するため、1フロアの床面積を最大限広く確保したラボスペースの整備
- 多様な研究・プロジェクトに合わせてフレキシブルに対応可能な長スパンによる無柱の大空間を計画
- 大学のほか、大企業、中小企業・スタートアップなど、様々な事業規模、研究段階の企業等を受け入れられるバリエーションに富んだ面積のラボの整備
- 将来的な研究環境の変化に備え、電気・ガス・水道・通信などのインフラの容量や天井高を含めた必要な空間の確保、床の耐荷重等について、コスト面に配慮しつつ将来需要を見据えて計画
- 自然採光を積極的に取り入れるなど、明るく安全な実験環境を構築
- 大型実験機器の設置に対応可能な十分な階高と搬入経路を確保

先端的なラボの事例

沖縄科学技術大学院大学(OIST)



※職員撮影

- 研究の変化等に対応しやすい、オープンでフレキシブルなラボ
- 隣のユニットが見えることで刺激と交流を生み出す

信州大学
国際科学イノベーションセンター



- 一つ屋根の下でのオープンイノベーションを実現する無柱大空間

出典:文部科学省「特色あるラボデザインの事例集」

名古屋大学
ITbMトランスフォーマティブ生命分子研究所



- Mix-labをコンセプトに実験室を二層吹き抜けにして、居室と一体構造化

出典:文部科学省「特色あるラボデザインの事例集」

5-1 研究開発を促進する機能 –②コワーキングスペース・コラボレーションスペース

○施設に入居する企業・大学等に加え、外部の人材やアイデアを呼び込むため、起業を目指す若い世代の人材の支援や、支援者・パートナーとの出会いの機会を提供するためのコワーキングスペース等を設置します。

- コワーキングスペース、多目的コラボレーションスペースを配置し、シード期のスタートアップや大学の若手研究者の活動スペースとすることで、異分野融合によるオープンイノベーションを活性化
- 若い研究者や技術者が自然発生的に自分のアイデアを発表し、組織の垣根を越えて集まった仲間とディスカッションできる場所の提供
- コミュニケーションマネージャーが常駐し、拠点内の研究者・技術者同士のマッチング、ネットワーキングの機会を提供

現在のKBICの機能



KBIC 交流コーナー



AIRBIC会議室

コワーキングスペース・コラボレーションスペースのイメージ



KOIL柏の葉
交流スペース



Tokyo Innovation Base
サロンスペース



川崎キングスカイフロント
コミュニケーションラウンジ

5-1 研究開発を促進する機能 –③先端デジタル工作機器を備えたオープンファクトリー

○KBICが備える、ものづくり工房、CAD／CAM室、試作室の機能を新たな施設へ再編し、デジタル工作機械を備えた、誰もが気軽に試作、製作ができるオープンファクトリーへとリニューアルします。

- 新川崎・創造のもりに入居する企業、大学の研究用途だけでなく、起業を目指す高校生や大学生が自らのアイデアを形にする場所として、また、地域の方々や子どもたちが気軽にものづくりを体験できるイベントを開催するなど、ものづくりに関心のある市民にも開かれた施設を検討
- オープンファクトリーを拠点に企業と高校生・大学生との共同研究にもつなげ、ものづくりを通じた地域課題の解決にもつなげていくことを検討

現在のKBICの機能



KBIC ものづくり工房



KBIC CAD/CAM室

オープンファクトリーのイメージ



KOIL柏の葉
オープンファクトリー



TiB FAB
DMM.make TOKYO



SHIBUYA QWS
PROJECT BASE



出典: SHIBUYA QWS

5-1 研究開発を促進する機能 –④経済安全保障・セキュリティ・安心安全に配慮した拠点形成

○量子・半導体技術等の先端コンピューティング技術は、経済安全保障上の重要性が高いことから、オープンイノベーション戦略と経済安全保障を意識したクローズ戦略とを組み合わせ、オープン・クローズ戦略を効果的に活用できる拠点を目指します。

導入を検討するセキュリティ等の対策の一例

ハード対策

- 施設・機器へのアクセス管理、建物への入退室管理システム、監視カメラ、訪問者の管理体制構築
- オープン・クローズ戦略に基づく建物内のメリハリあるセキュリティレベルのゾーニング
- 最先端セキュリティ技術の導入検討と実証空間としての活用(セキュリティロボット、顔認証システム等)
- 地震や台風などの自然災害からの脅威に対応した安定的な電力、通信等のインフラ確保 等

ソフト・サイバーセキュリティ対策

- 拠点内での研究セキュリティ・インテグリティの強化、セキュリティクリアランス等
- 施設全体の統合ネットワークに対するサイバーセキュリティ対策、データの保護
- 入居企業の情報管理意識醸成に向けた教育・研修制度の実施、研究セキュリティ人材の育成
- 知的財産の管理、セキュリティ評価の専門家の活用
- インシデント発生時の対応方針の明確化 等

セキュリティレベル4
経済安全保障に配慮した
最高レベルの研究空間

セキュリティレベル3
企業専用の特定エリア

セキュリティレベル2
入居企業のオープンエリア

セキュリティレベル1
商業・コワーキング・ラウンジ



企業と大学でネットワーク回線を分離
JSR・慶應義塾医学化学イノベーションセンター
文科省「特色あるラボデザインの事例集」参照



会議室やギャラリー、ラボフロアを階層で
分けて、セキュリティを確保
出典：早稲田大学 リサーチイノベーションセンターHP



ガラス間仕切りで開放性とセキュリティの両立
大阪大学 サイバーメディアセンター本館
文科省「特色あるラボデザインの事例集」参照

5-2 人材の集積に関する機能 –①オープンイノベーションを活性化する交流を生み出す仕掛け

○入居者や来訪者が自由に交流するコミュニケーションスペースやオープンスペースを、動線の結節点となる施設の低層部や各フロアに配置するなど、日常的な交流や異分野とのコラボレーションを促進します。

- コミュニケーションスペースや共用スペースなど、入居者や来訪者のカジュアルな会話が生まれる場所を設けることで、研究者同士のコミュニケーションを促進
- 階段や廊下など意図的に広くするなどの偶然の出会いが生まれる設計や、屋外テラスなどリラックスした交流の仕掛けを導入
- デジタルサイネージ等でイベント情報や入居者情報を表示し、興味を持った者同士のリアルな交流のきっかけを創出

交流を生み出す仕掛けの事例

CIC Tokyo



出典:CIC Tokyo

ベンチャーカフェエリアの中心部に上階のオフィススペースに繋がる階段を設け、入居者の交流を促進

STATION Ai



出典:STATION Ai

入居者同士のコミュニケーションが生まれるよう、各階をスロープで繋ぎ、ひとつながりの空間を形成

湘南アイパーク



出典:湘南アイパーク

オープンスペースを施設内の随所に配置し、カジュアルな打ち合わせのほか、ラボを離れて集中する場所としても活用

Mitsui LINK-Lab 新木場



職員撮影

施設の1階に誰もが利用できるカフェと屋外テラスを設置し、リラックスやリフレッシュの環境からコミュニケーションを活性化

AIRBIC・NANOBIIC デジタルサイネージ



施設内で開催されるセミナー等のイベント情報や入居企業の研究開発の情報をデジタルサイネージで表示し、入居者や来訪者に日々新たな情報を発信

5-2 人材の集積に関する機能 –②滞在機能・スペースの整備について

○国内外から優れた人材を誘引する機能の一つとして、研究者とその家族が、研究と生活に快適に対応できるための滞在環境を整備します。

- 研究者の短期から中期的な滞在に対応した、サービス付きアパートメントを想定
- 単身用に加え、特に海外の研究者を念頭に、世帯用の中期滞在用の居室も整備
- 短期滞在スペースは、研究プロジェクトや会議、学会等に参加する研究者・技術者の数日間の宿泊利用等に対応
- 新川崎・創造のもり地区に加え、周辺の新川崎地区の立地企業の来訪者、外部企業との交流にも貢献

滞在機能の事例

法人向け賃貸社員寮・社宅サービス等の事例

- ・企業の福利厚生として、単身社員向けのサービス付き社員寮・社宅
- ・生活に必要な家具家電を揃えており、必要最低限の準備で生活が可能
- ・共有の食堂やラウンジ、フィットネスルームなどの共用スペースから自然とコミュニケーションを創出



家具・家電付きの居室



食堂(食事サービス付き)



フィットネスルーム



ラウンジ

職員撮影

スタートアップ支援拠点「STATION Ai(愛知県名古屋市)」の事例

- ・スタートアップの入居スペースに加え、キッチン・調理器具などを備え、家族やグループ利用に配慮したレイアウトの滞在型アパートメントホテル(Minn STATION Ai Nagoya)を施設の最上階に整備
- ・全25室で、2名定員の部屋から、最大14名まで宿泊できる部屋までを備え、同フロアにルーフトップテラスや飲食スペース、交流リビングなども併設



出典:STATION Ai

5-2 人材の集積に関する機能 – ③学校との連携等を通じた人材育成機能の充実

○学校との連携等を通じ、子どもたちが科学技術への夢を育み、多世代の人材を育成する機能の強化を検討します。

- 幸区役所と連携した「科学とあそび幸せな一日」や川崎発量子ネイティブ人材の育成を目指した「Kawasaki Quantum Summer Camp」の開催など、これまでも子どもたちが科学技術を学ぶ機会を定期的に提供
- 立地企業・大学や、令和7(2025)年4月に新川崎地区に開校予定の市立新小倉小学校等、近隣の学校との連携により、こうした取組を強化し、年間を通じた、この場所でしかできない学びの機会の提供を検討
- また、施設の配置や仕様、導線の工夫、研究成果を実装する空間の整備により、一部スペースは外部に魅せる、学ぶ、体験する、実証試験に参加する機会となる仕掛けも検討
- さらに、高校生・大学生世代を念頭に、若い世代が集まり、起業に向けた活動や、デジタル工作機械等を活用した試作を後押しする機能、仕掛けも検討

人材育成機能のイメージ

科学技術等を学ぶ場



職員撮影

- ・これまでも定期的に行っている科学体験教室は、創造のもりでしか体験できない貴重なコンテンツ
- ・発見や体験、アイデアの実現など、様々な学びを提供

技術等の見える化



出典：資生堂 HP

- ・セキュリティや経済安全保障に配慮しつつ、見学者等に技術を見せる工夫を図った設えの検討
- ・気軽にふらりと立ち寄り見学等も可能な開かれた場の検討

先端技術体験・社会実証参加



職員撮影

羽田イノベーションシティでは、運搬・警備・コミュニケーションロボット、モビリティ、ARサービス、防災技術などの未来社会を支える様々なスマート技術を導入し、施設利用者に見える化

若者世代も集まる起業・交流拠点



出典：渋谷QWS HP

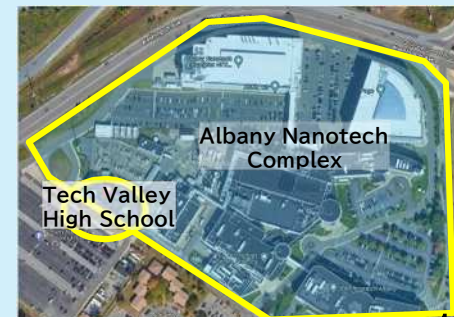
- ・渋谷QWSでは、若者世代を中心に多様な人々が集まり、様々な人と繋がる場を提供
- ・また、3Dプリンタ等を備え、思いを形にすることが可能

次世代人材の育成



出典：Tech Valley High School

アルバニー・ナノテク・コンプレックスの敷地内には、高校(Tech Valley High School)が設置されており、科学技術に特色を持たせた教育プログラムも実施



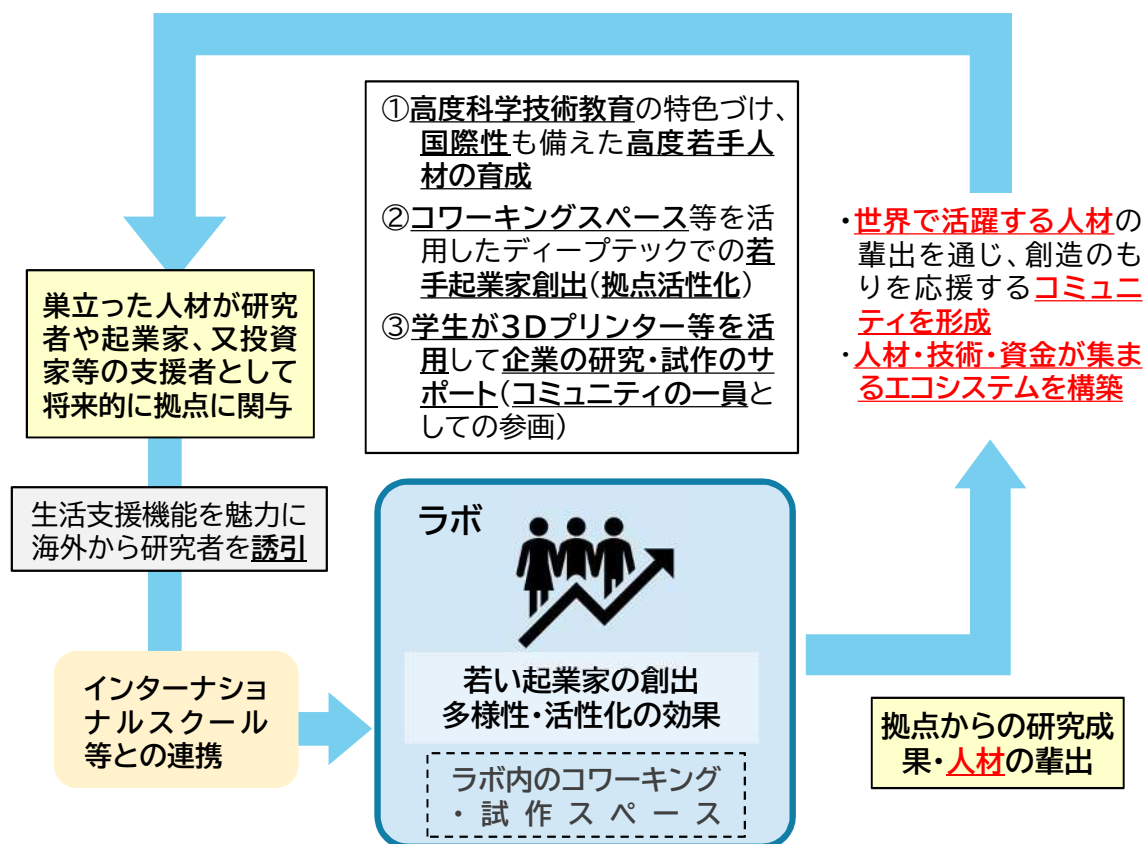
5-2 人材の集積に関する機能 -④人材の集積・育成を通じた拠点の価値を高め、活気を生み出す取組について

○海外からの研究者を誘引し、多様な人材、高度人材の集積を図るとともに、研究者・起業家の予備軍となる若い人材が集い、施設の活用や研究者・技術者との交流を行うなど、拠点の価値を高め、活気を生み出すための仕掛けを検討します。

- 高度人材の集積を目指す研究開発拠点の事例等を参考に周辺エリアを含めた市内へのインターナショナルスクールの立地誘導や近隣のインターナショナルスクールとの連携を検討
- 「5-2-③ 学校との連携等を通じた人材育成機能の充実」の取組とも連動し、インターナショナルスクールや地域の学校等との連携を通じ、科学技術に特色を持たせたカリキュラムの実施に協力することで、創造のもりの特徴を活かした教育プログラムの提供も可能
- 創造のもりで学んだ人材が、将来、研究者や起業家・投資家として、創造のもりの活動を支える役割を果たすことも期待

柏の葉国際キャンパスタウン「Rugby School Japan」の事例

- ・公・民・学連携による国際学術研究都市に向けた街づくり「柏の葉国際キャンパスタウン構想」の実現に向けた取組の一環でインターナショナルスクールを立地誘導
- ・国立大学法人千葉大学柏の葉キャンパス内へ、英国式 Year 7～ Year 13(日本における小学6年生から高校3年生に相当)の男女共学の通学制・寮制選択可能なインターナショナルスクール「Rugby School Japan」を開校



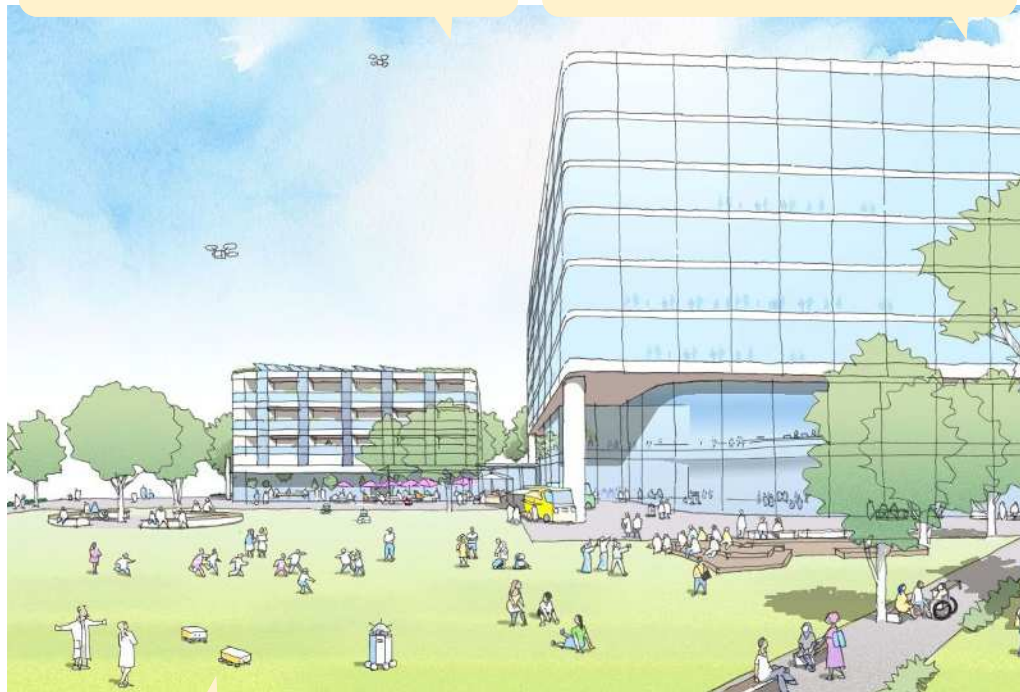
5-3 拠点の魅力向上・研究の基盤に関する機能 – ①開かれた緑地と低層部の賑わい

○創造のものの回遊性を高める、居心地の良いウォーカブルな空間設計とオープンスペースの整備など地域に開かれた機能を低層部に配置し、新川崎・創造のもののエントランスにふさわしい賑わいと憩いの空間を形成します。

- 隣接する公園と一体性があり、地域住民にも開放的で緑豊かな空間
- 緑地に面した低層部へカフェやレストラン、売店を整備し、就業者、来訪者、地域住民の利便性を向上
- その時々に応じて、交流や賑わい、憩い、自然との触れ合いなど様々な活用ができる余白のある広場を設置

多様な活動を受け止めるオープンで快適な滞留空間

気分転換に緑に囲まれた空間で仕事ができるスペース



歩行者目線の1階部分にガラス張りの店舗やラボを配置し、歩いていて楽しくなるような空間を演出

就業者がリラックスでき、地域住民も立ち寄りたくなるカフェ・レストラン

研究活動や生活を支え、豊かにする様々な商品を取り扱う店舗



科学体験イベントのほか、キッチンカー、マルシェ、地域の催しなどの開催

5-3 拠点の魅力向上・研究の基盤に関する機能 ー②外部からの来訪促進に向けた創造のもりへの交通アクセス向上

○企業等の立地促進や、外部からの来訪障壁の低減、交流促進を図るため、交通アクセスのさらなる向上は重要な課題であるとともに、敷地内は複数の棟に別れており、施設間交流を促進する観点から、エリア内の移動を促進する工夫も重要であることから、こうしたアクセスの改善を総合的に検討します。

- 立地企業や外部来訪者の日常的な周辺駅からのアクセス改善について検討
- 利用者の自由度の高い移動手段の導入等の検討(カーシェアリングポートの新設やシェアサイクルポートの増設 等)
- マイクロモビリティを活用した敷地内の移動、交流を促す仕掛けを検討(電動キックボード 等)
- 立地企業等と連携した自動運転移動サービスの導入について検討

創造のもりの位置と導入を検討する交通手段のイメージ



シェアEV



キングスカイフロントでは、供給電力に100%再生可能エネルギー由来電力を使った、EVカーシェアリングの実証実験を実施

シェアサイクル



職員撮影

現状、敷地内にシェアサイクルポートを設置しており慶應義塾大学キャンパスとの行き来や周辺への移動で高い利用頻度

電動キックボード



出典:サンオータス

等々力緑地内では、敷地内での施設間の移動等をサポートするため、電動キックボードの実証実験を実施

5-3 拠点の魅力向上・研究の基盤に関する機能 -③誰もが利用しやすい環境整備(ユニバーサルデザイン・バリアフリー)

○国内外の最先端企業・高度人材を誘致するため、エリア全体のサインの多言語化、ユニバーサルデザインの視点でのエリアごとの配色、サイン計画、外構計画など、誰もがアクセスしやすく、利用しやすい環境を整備します。

- 来訪者を適切に誘導案内することを目的として、新川崎・創造のもり全体での一体性や統一感のあるサイン環境を作り、必要な情報をわかりやすく提供します。
- 多言語・ピクトグラム等を用いた案内図の設置や、その視認性を確保することにより、国籍や年齢、文化、身体状況など個性や違いに関わらず、だれもが利用しやすいユニバーサルデザインの視点を導入
- 車いす利用者や視覚障がい者など、だれもが敷地内を円滑に移動できるよう、エリア全体の段差の解消、平坦性の確保や点字ブロックの設置を行います。
- 新川崎・創造のもりのブランディングにつながるゲートサインの設置を検討します。



フラットな舗装の切り替え・舗装による視覚的な動線計画(姫路大手前通りほか)

ピクトグラムを用いたエリア全体のサインの統一と多言語対応・デジタルサイネージとの併用(川崎市役所ほか)



ユニバーサルデザインに対応した特徴的なストリートファニチャー(みなとみらいほか)

特徴的なゲートサイン(国立競技場ほか)

5-3 拠点の魅力向上・研究の基盤に関する機能 –④防災と災害発生時の対応

- 高度な研究開発機能に加え、滞在機能やアメニティ機能を備え、地域に開かれた拠点を整備することを踏まえ、入居者や来訪者の安全・安心に配慮した防災計画を施設計画と施設運営の両面で検討します。
- 量子コンピューティング技術等の研究開発においては、非常時においても安定的な稼働が求められるため、施設のインフラの冗長化による事業継続対策や、災害発生時における避難の安全性等に対応した災害に強い施設を目指します。

施設計画での防災への配慮

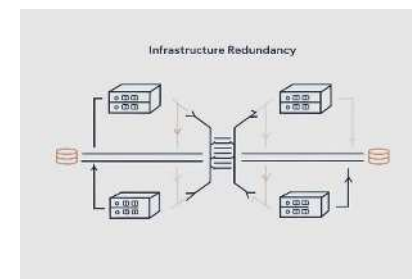
- エントランスや共用部は開かれた空間として整備し、発災時には施設利用者の一時滞在に配慮したスペースとして整備
- 施設利用者が帰宅困難になった際の一時滞在に対応することを想定した備蓄倉庫等の整備

施設運営での防災への配慮

- 当該施設の研究者の帰宅困難者対策として、セキュリティ外の共用部、会議室等を開放



セキュリティの外のスペースを一時滞在空間として開放



施設インフラ冗長化のイメージ

通常利用時のイメージ



大会議室のホワイエを兼ねたエントランス



開放的な共用部

発災時のイメージ



発災時には、施設利用者や訪問者がエントランスのホワイエや共用会議室等に一時滞在



5-3 拠点の魅力向上・研究の基盤に関する機能 – ⑤環境に配慮された施設計画

○サステナビリティ・トランスフォーメーション(SX)に貢献する研究開発拠点を目指すことから、施設計画においても、GXの視点を導入し、環境負荷の少ない施設の整備を検討します。

環境負荷の低減とエネルギー利用の抑制

- 太陽光発電設備(次世代型を含む)等をはじめとした再生可能エネルギーの導入促進
- 新川崎・創造のむのりの大学やスタートアップの研究成果による先進的な環境配慮技術の積極的な活用
- エネルギー利用の抑制で、脱炭素社会実現に貢献する低環境負荷施設の整備

高効率な空調システムと照明計画

- 研究環境に応じた空調システムを適材適所で整備、高効率照明の利用の検討

緑化とヒートアイランド現象対策、木材の積極的利用

- 屋上緑化や壁面緑化による建物の環境性の向上とヒートアイランド現象対策の実施
- 「川崎市建築物等における木材の利用促進に関する方針」に基づき、国産木材の積極的利用を図る

施設整備における環境配慮制度への考慮

- 川崎市建築物環境配慮制度(CASBEE 川崎)を考慮し、環境配慮技術の導入について費用対効果を含めて検討



太陽光発電設備のイメージ



壁面緑化のイメージ(キングスカイフロント)



内装の木質化(NANO BIC)

5-4 本市が設置・運営するスペース

○機能更新による施設整備・運営は民間主体とし、本市は、外部の多様な人材を呼び込むための次の機能を設置・運営し、拠点の活性化への貢献を目指します。

- 入居企業同士の日常的な出会いと交流の場の創出に加えて、外部利用者を呼び込み、起業家予備軍を誘引・育成、施設利用者同士の交流を促すためのコワーキングスペース(5-1-②)
- 日常的なミーティングやセミナー開催等に対応した多目的コラボレーションスペース(5-1-②)
- アイデアの具体化・試作を支援するための先端デジタル工作機器を備えたオープンファクトリー(5-1-③)

種別	主な内容	想定面積
コワーキングスペース	コワーキングスペース、登記可能な個室スペース、多目的コラボレーションスペース等	約800～900㎡
オープンファクトリー	レーザーカッター、3Dプリンタ等	約200～300㎡
合計		約1,000～1,200㎡

- 将来の変化の大きさや不確実性等を見据え、その時代の社会環境や技術開発のトレンド、支援のニーズに合わせて柔軟に機能や規模を変化させることができるという点から、必要な床面積を民間整備事業者から賃借し設置します。
- また、本市が設置・運営を想定するエリア(約1,000～1,200㎡)は、本事業の全体想定整備面積(約49,000㎡)に対して小規模(約2%)であり、買取での区分所有を行うことは整備・取得段階、維持管理段階等の効率性が低く、事業者メリットが低いことなどからも、民間整備事業者から賃借で設置することが適しています。

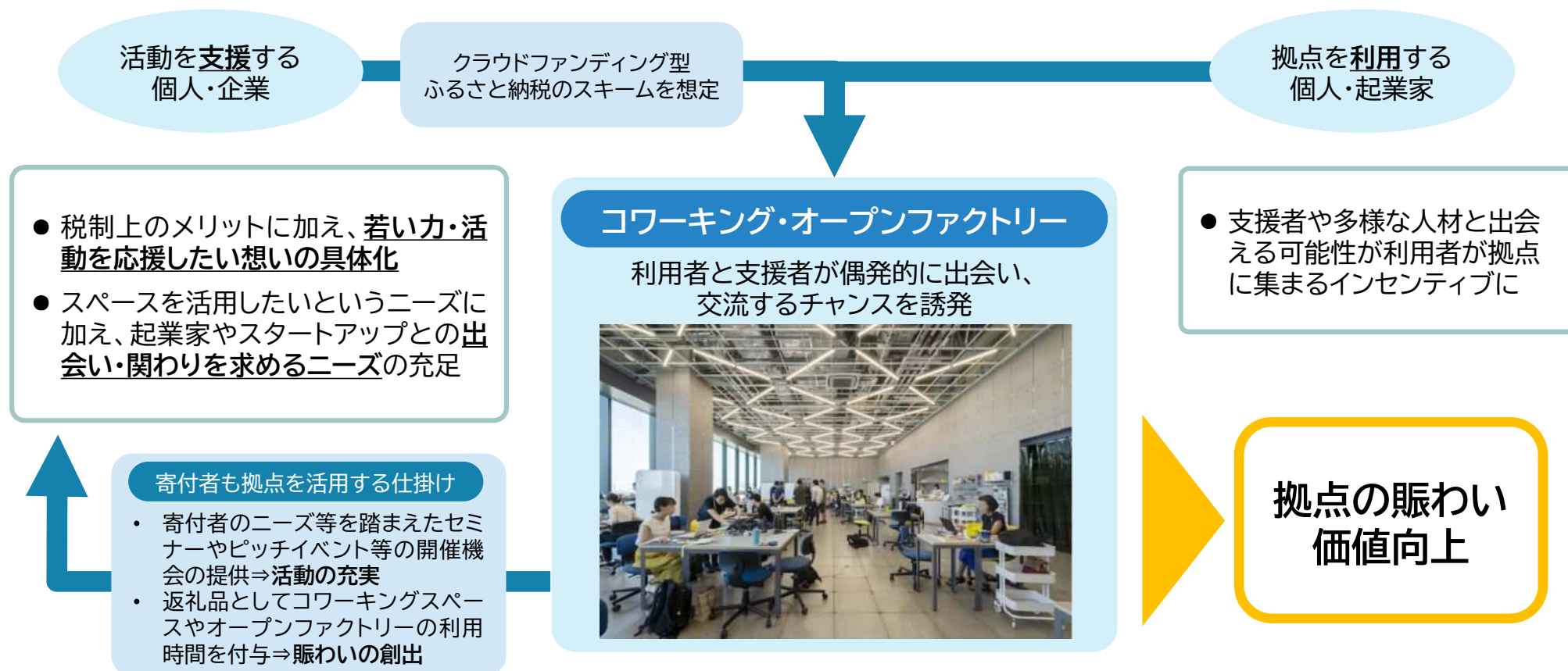
※コワーキングスペース等の設置・運営にあたっては、交付金や外部からの支援の活用も検討(後述のとおり)

5-5 外部資金を活用した拠点運営の検討

○外部利用者呼び込み、起業家予備軍を誘引・育成、施設利用者同士の交流を促すためのコワーキングスペース、アイデアの具体化・試作を支援するための先端デジタル工作機器を備えたオープンファクトリーは、整備費・運営費の一部に寄付金等の活用による設置、運営を検討します。

○他都市の事例から起業家やスタートアップ支援への寄付には一定のニーズ

- 寄付金等の活用を通じ、本市の負担を軽減
- 外部の支援者を募り、設置・運営に関わっていただくことで、拠点の応援団を集め、エコシステムを構築する呼び水に
- 若い世代の人材や起業を目指す個人と支援者が偶発的に出会い、交流するチャンスの誘発
※デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生拠点整備タイプ)の活用も検討



06

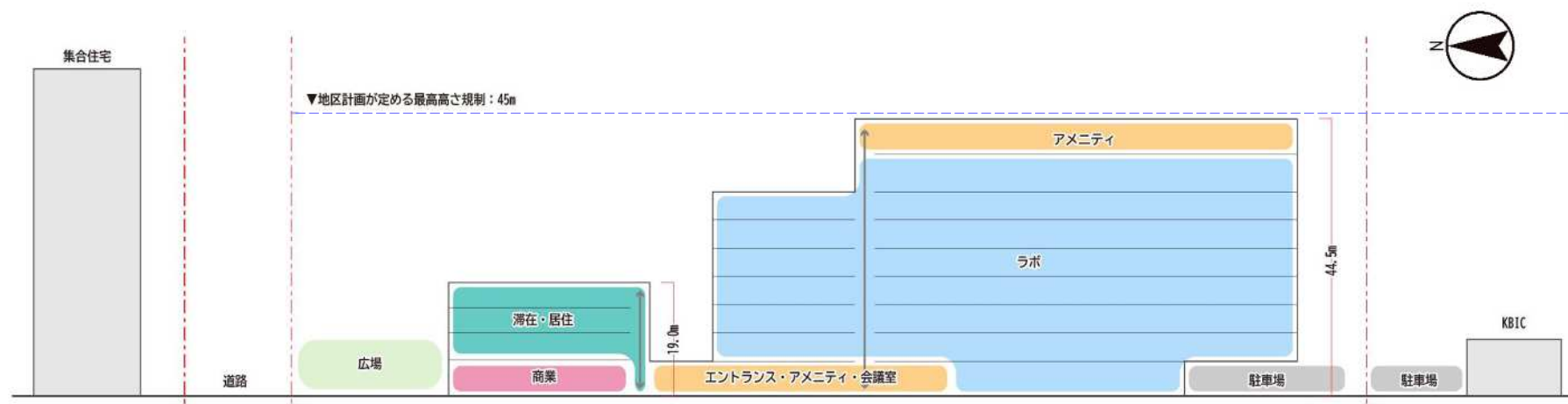
施設計画

6-1 施設規模・施設構成・構造

イメージプラン での施設規模

- 延床面積：約49,000㎡(容積率 約300%)
- 建築面積：約6,400㎡(建ぺい率 約33%)
- 建物高さ：約44.5m(ラボ棟：約44.5m／商業・住宅棟：約19m)

※イメージプランであるため、要件定義ではありません



施設構成・建物ボリュームの考え方

- 開発事業者との対話での意見等も踏まえ、容積を最大消化(300%)するボリュームを想定
- 北側の集合住宅に配慮し、北側の高さを抑える。敷地北側には広場空間を配置
- ラボ棟は地区計画が定める最高高さ45m近くまでボリュームを確保

構造の考え方

- オープンな空間を実現するため、柱間のスパンを大きく確保できる構造形式とする
- 免振層を設ける場合は中間階に設け、振動に配慮が必要なラボ機能は免振層よりも下階に配置する
- 環境負荷低減やCO₂削減につながる構造計画とする

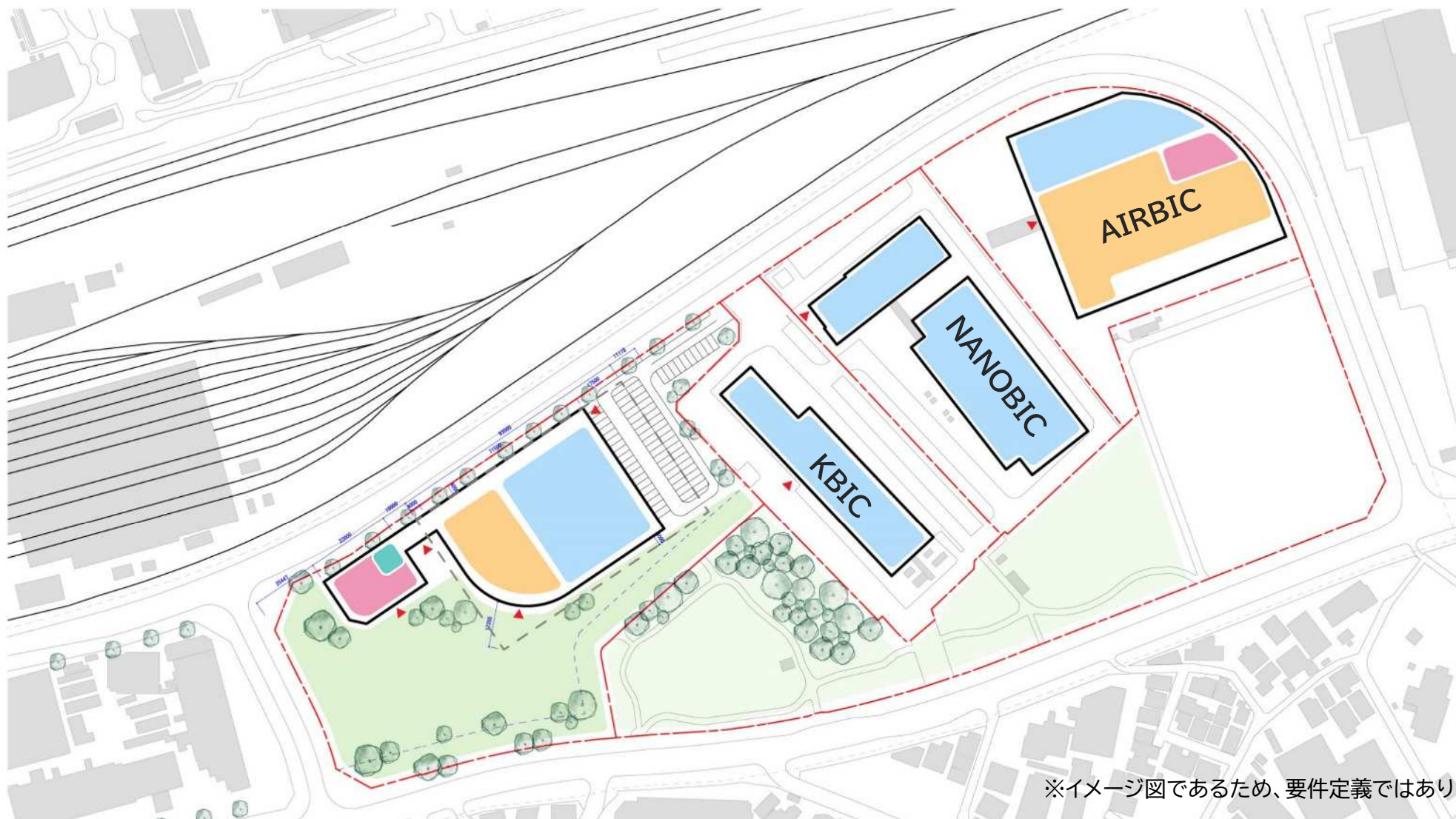
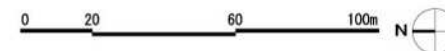
面積表(概算)

機能	面積
ラボ (コワーキング・オープンファクトリー等を含む)	約37,000～40,000㎡
アメニティ機能(例：交流ラウンジ、フィットネス、教育関連機能、保育園、クリニック等)	約4,000～5,000㎡
会議室	約1,200㎡
滞在機能	約2,000～5,000㎡
商業	約600㎡
合計	約49,000㎡

今後の詳細な事業性の検討により、各機能の面積は増減する見込み

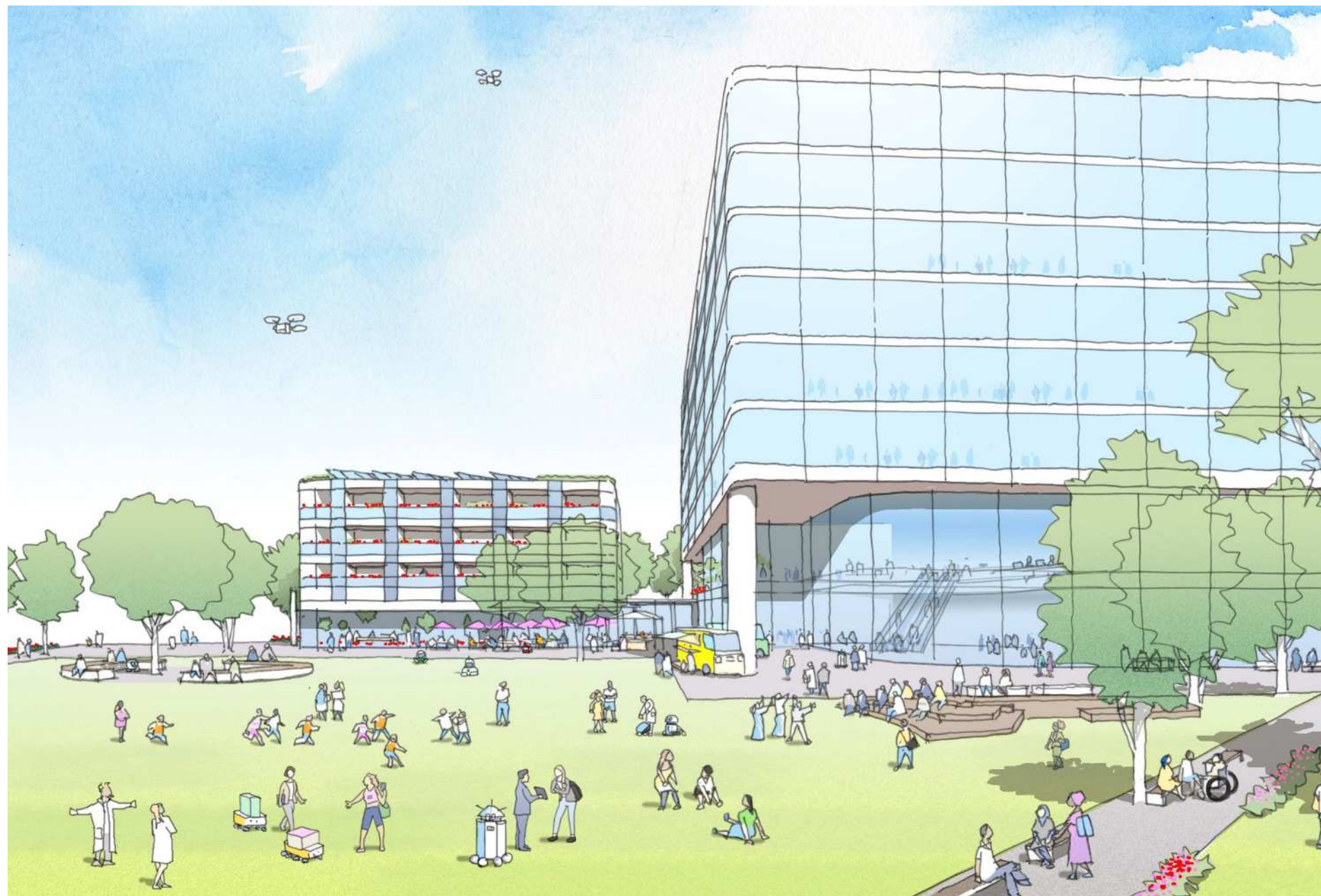
6-2 配置・平面構成

- オープンスペース(既存公園を含む)側の環境に配慮し、建物は線路側に寄せた配置とします。
- エリア全体の回遊性の向上に向けて、対象敷地内の動線のリニューアルをあわせて検討し、新川崎駅～新川崎・創造の通りの各施設～さいわいふるさと公園への動線に配慮します。
- 建物低層部をセットバックしピロティ空間とします。

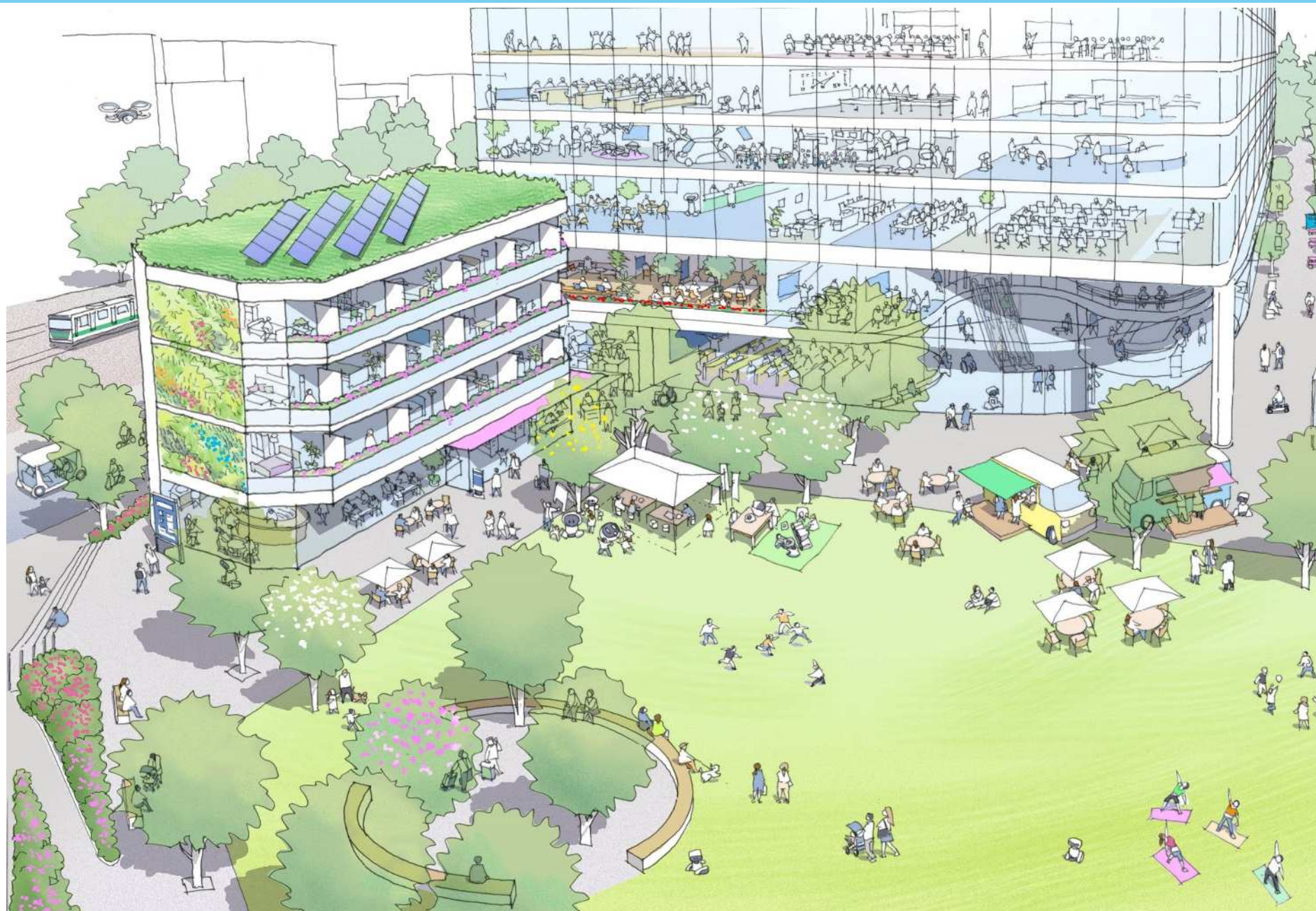


※イメージ図であるため、要件定義ではありません

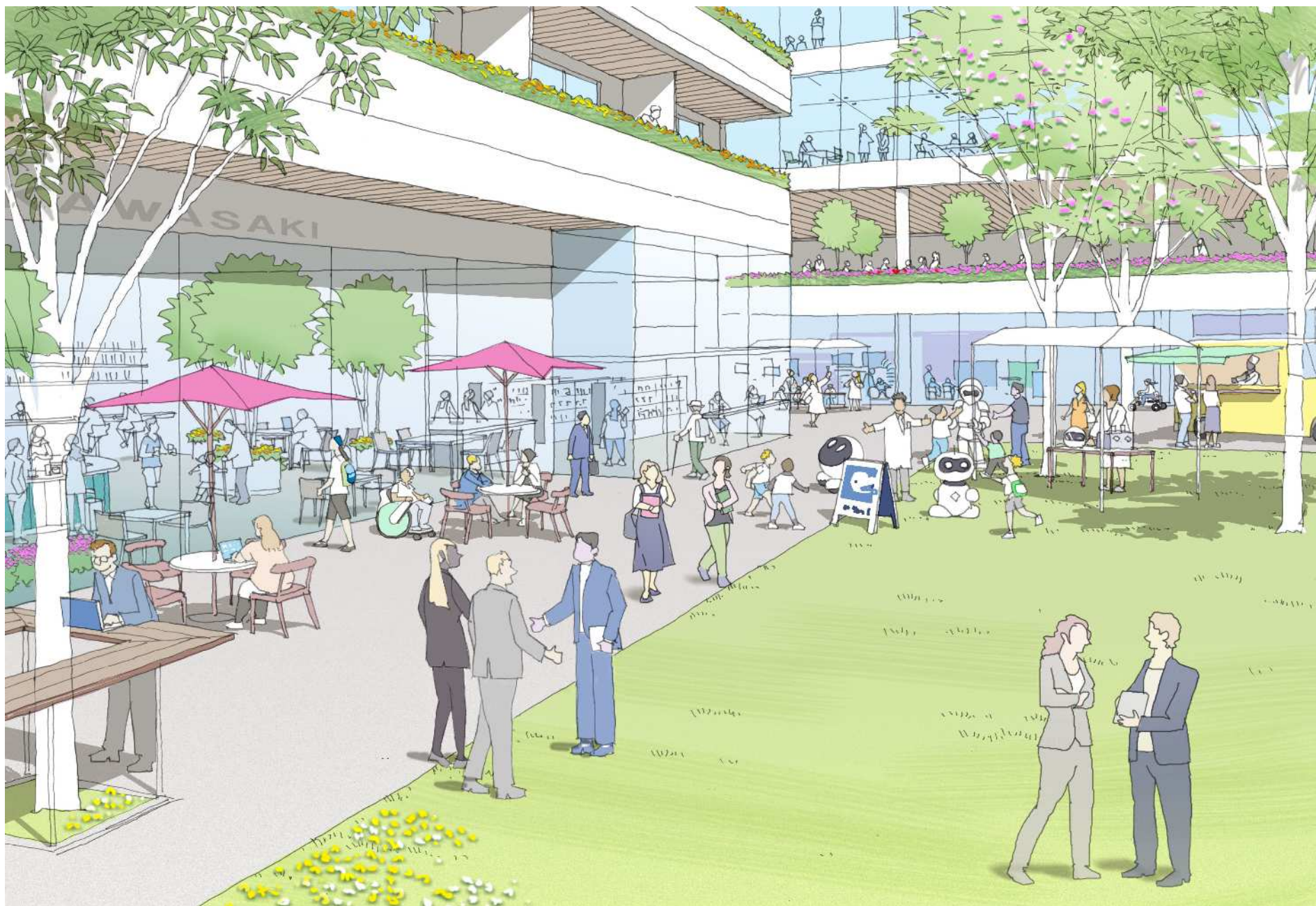
6-3 建物外観イメージ -①オープンスペースのイメージ



6-3 建物外観イメージ - ②諸室構成の全体イメージ

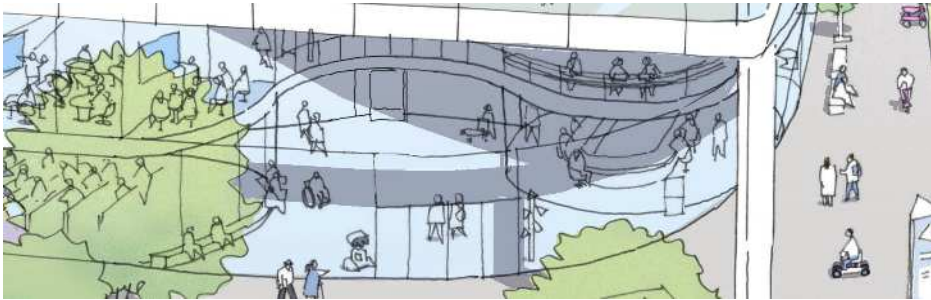
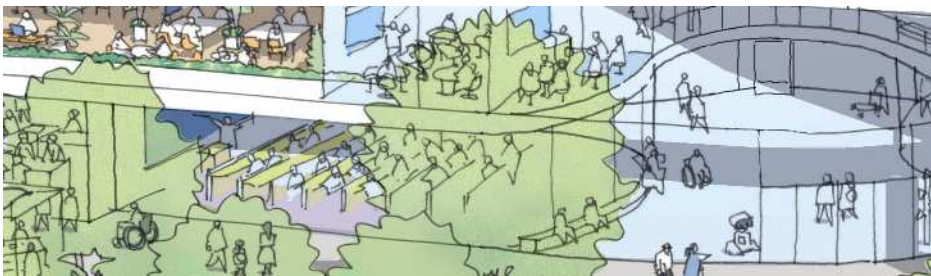
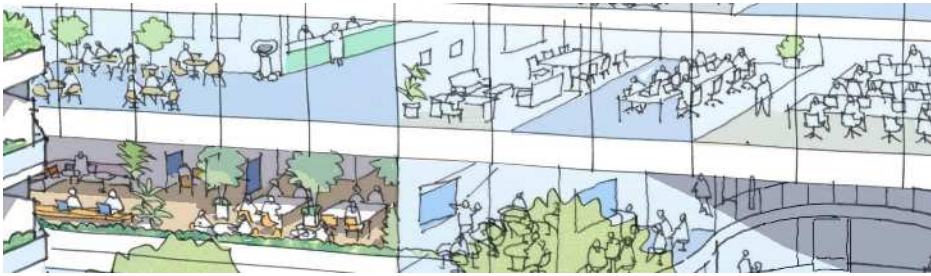


6-3 建物外観イメージ - ③低層部の全体イメージ



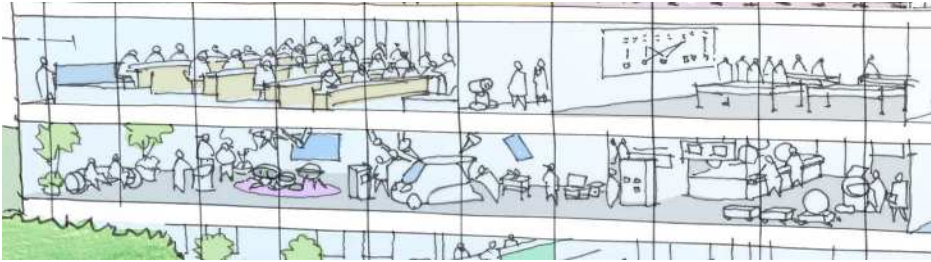
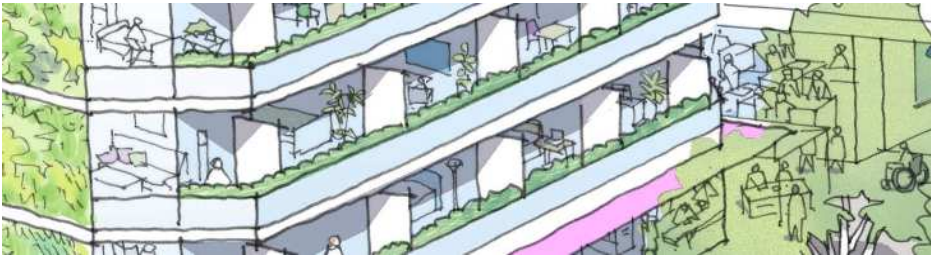
6-4 諸室構成 - ①全体共用部

今後の詳細な事業性の検討により、各機能の面積は増減する見込み

機能	概要
メインエントランス 	【メインエントランス】 ● 施設全体のエントランス空間として配置 ● 受付や大会議室のホワイエ等の機能を兼ねる ● 配置階:1階/面積:約100~200㎡ 【サブエントランス】 ● セキュリティを考慮した個別アクセスが可能なラボの配置を想定
会議室 	● 間仕切りによる分割利用も可能な仕様とする ● 面積:約1,200㎡
コワーキングスペース・オープンファクトリー 	● コワーキングスペース・オープンファクトリーの他、オープンなミーティングスペースや展示スペース等を想定 ● 面積:約1,000~1,200㎡
その他アメニティ	● 研究施設に付加価値をもたらす機能 ● 面積:約4,000~5,000㎡

6-4 諸室構成 - ②専有部

今後の詳細な事業性の検討により、各機能の面積は増減する見込み

機能	概要
ラボ 	● 必要に応じて特殊な仕様が求められる機能導入にも対応できるよう、一部は一定の天井高を確保したフロア ● 配置階：各階 ● 面積：約37,000㎡～40,000㎡ (コワーキング等を含む)
滞在機能 	● 企業・大学等の研究者・技術者等を対象とした短期～長期の滞在施設を想定 ● 面積：約2,000～5,000㎡
商業 	● 就業者、来訪者、地元住民が気軽に利用できるカフェ・レストラン・ショップ ● 配置階：1階 ● 面積：約600㎡

07

事業手法

7-1 事業手法の整理と評価

○本事業においては本市の施設利用面積が小さいため、財政的な負担が少なく、将来的な行政需要に応じた土地利用が可能となる定期借地権方式を採用します。

- 施設全体の中で、本市が設置・運営を検討している面積の割合が低く、公共施設の整備を目的とする、従来方式やPFI手法の導入は馴染むものではありません。
- 「定期借地権方式」と「公有地売却方式」の採用に当たっては、民間事業者の事業性やリスク判断の影響を大きく受けますが、これまでの民間事業者との対話やサウンディング等から、事業者は両方式での参画意向が高い状況です。
- 一方、量子イノベーションパーク実現に向けて、本市がしっかりと本事業に関与する必要があることや、将来的な行政需要に応じた土地利用の可能性も見据えると、現段階で土地を売却する公有地売却方式は適切ではありません。
- 定期借地権方式は、本市の財政負担を抑えながら、本市の一定の関与のもとで民間のノウハウを活かした施設整備が可能であり、同時に、安定的な地代収入と固定資産税等の税収が見込め、本市にとってメリットの高い事業手法です。
- 上記により、事業手法は「定期借地権方式」を採用します。

事業方式	従来方式	PFI(BTO方式)	定期借地権方式	公有地売却方式
概 要	- 設計、施工、維持管理をそれぞれ発注、契約締結 - 資金は市が一括調達	- 民間事業者が施設を建設した後、施設の所有権を市に移管したうえで、施設の運営を行う <u>公共施設を整備することが前提</u>	- 土地は市が所有、借地権を設定し民間事業者に貸付後、民間事業者が設計・施工、維持管理を実施 - 建設費は民間が負担	- 土地を民間に売却 - 市の関与がほぼできなくなる
資金調達	市	民間	民間	民間
建設主体	市	民間	民間	民間
土地所有者	市	市	市 (民間が借地)	民間
建物所有者	市	市	民間	民間
運営主体	市／指定管理者	民間	民間	民間
採用事例	KBIC、NANOBI 川崎市産業振興会館	カルッツかわさき はるひ野小学校	AIRBIC LiSE	-

7-2 事業手法の決定と概算事業費

- 市は、事業者に対して対象敷地に借地権を設定し、土地を貸し付けます。
- 事業者は新たな建物の設計、整備、運営、維持管理を行い、本市や慶應義塾、中核企業、スタートアップ等が入居し、量子イノベーションパークの形成と新たなK²タウンキャンパスの実現に向けて、関係者が協力・連携を行います。

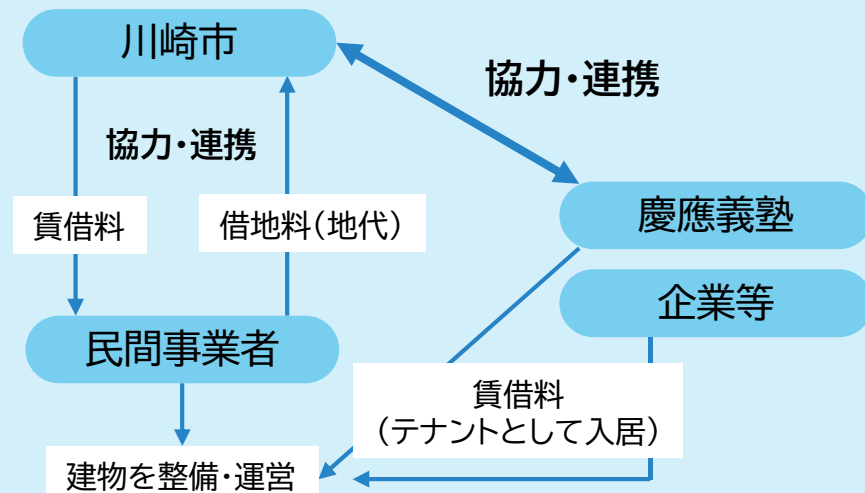
新たな建物(仮称)について

事業手法：民設民営(一部市が賃借し、使用)
 建物規模：最大49,200m²
 建物所有：民間
 維持管理：民間
 運営：民間(一部市が賃借し、使用)
 契約終了：更地返還

借地権者：民間事業者

底地権：川崎市

事業スキームについて



施設整備に係る総事業費の試算(概算)

調査・設計費	約12.5億円
工事費(解体含む)	約242億円
選定業務に係る費用	約0.5億円
合計金額	約255億円

- 本市の負担については、新たな施設内に市が設置するコワーキングスペース等の整備費用、賃借料のほか、企業・大学等の投資促進・立地誘導支援メニュー、K²プロジェクトの一時移転施設の整備費用等を想定
- 国の補助金やクラウドファンディング型ふるさと納税等の活用を検討し、それぞれの支出項目について本市の負担額の軽減を図ります。

※令和6(2024)年4月時点での建設物価等を反映させて算定

08

運営方針

8-1 運営方針

- 民間事業者により新たに整備・運営される施設は、企業・大学等が入居するラボ機能が中心となるものの、アメニティ機能、商業機能も含まれる複合的な施設となることから、本市の十分な関与のもと、新川崎・創造のもり全体の総括的な視野を有した運営方針を検討します。
- 新川崎・創造のもりの持つ量子技術やスタートアップの集積・輩出機能と、市内のイノベーション拠点との連携によるエコシステム形成の視点を踏まえた、既存施設の指定管理者との連携やマネジメント拠点の設置等、適切な運営体制の構築を目指した検討を行います。

運営に関する方針

- 新たに建設される施設は、新川崎・創造のもりの中核的な施設となるため、新川崎・創造のもり全体の機能強化に向けた取組も含めた運営の考え方を導入します。
- 本市が今後検討する立地誘導・投資促進制度を積極的に活用し、民間事業者が本市と連携しながら量子イノベーションを先導する量子・AI・半導体等の先端技術領域の企業・プロジェクトや、そうした技術を活用し新たな技術・サービスを開発する素材・創薬等の企業を国内外から誘致し、早期にプレイヤーの集積を図ります。
- さらに、新川崎・創造のもりが、本市におけるイノベーション・エコシステムの基盤とエンジンとしての役割を担うための機能についても実装します。
- 地区のエリアマネジメントの可能性も含め、本市及びかわさき新産業創造センター(KBIC)が連携し、研究者、来街者、周辺住民の利用を高める公共空間の利活用や、イベントスペース等を活用した積極的なソフト面の活動等について運営を行います。

施設の維持管理に関する方針

- 施設利用者の安全かつ快適な利用環境を提供するため、供用開始から事業期間終了までの間、施設の初期の機能及び性能等を常に発揮し、時代に応じてアップデートしながら最適な状態を維持します。
- ラボ機能を中心として、アメニティ機能、商業機能等を含む複合的な施設という特殊性を踏まえ、建物、設備・什器の保守管理、衛生管理、修繕、植栽維持管理等を適切に実施します。

09

期待される効果

9-1 経済波及効果

○これまでの検討結果等を踏まえ、6章で示したモデルプランを整備し、供用開始後企業等による研究開発活動が行われた場合の経済波及効果を分析しました。

- 新たな拠点整備に伴う、新たな需要として、①建設投資額 255.8億円、②施設の維持管理に係る費用 2.4億円／年、③企業の研究開発の結果により生じる売上高 207.6億円／年(※)と試算し、本市「平成27(2015)年川崎市産業連関表」を活用し経済波及効果を分析

※経済センサス活動調査(令和3年)を基に算出

経済波及効果

① 施設の建設に伴う効果	生産誘発額	353.5億円	誘発就業者数	2,457人
② 施設の維持管理に伴う効果(年間)	生産誘発額	3.4億円	誘発就業者数	22人
③ 企業等の研究開発に伴う効果(年間)	生産誘発額	248.8億円	誘発就業者数	3,110人

項目	対象部門		生産誘発額			誘発就業者数
				粗付加価値誘発額		
					雇用者所得誘発額	
① 建設効果	建設	第1次波及効果	300.5億円	137.9億円	103.4億円	2,113人
		第2次波及効果	53.0億円	35.2億円	11.2億円	344人
		合計	353.5億円	173.1億円	114.6億円	2,457人
② 維持管理効果 (年間)	建設	第1次波及効果	2.9億円	1.3億円	1.0億円	20人
		第2次波及効果	0.5億円	0.3億円	0.1億円	2人
		合計	3.4億円	1.6億円	1.1億円	22人
③ 運営効果 (年間)	情報通信機器	第1次波及効果	225.8億円	85.1億円	44.8億円	2,962人
		第2次波及効果	23.0億円	15.3億円	4.9億円	148人
		合計	248.8億円	100.4億円	49.7億円	3,110人

- 第1次波及効果： 直接効果(ここでは、①建設投資、②維持管理、③入居企業の売上)によって発生する原材料等の中間需要の生産を支えるためには新たな生産が必要となり、この生産を支えるためにまた新たな生産が喚起される。この繰り返しから生み出される生産額を合計したもの
- 第2次波及効果： 直接効果と第1次波及効果により誘発された生産活動を通じて発生した雇用者所得のうち、一部は消費として支出される。この支出によって喚起される生産額を合計したもの

9-2 新たな拠点整備に伴う雇用創出・税収見込

雇用創出効果

○新たな施設整備に伴う効果として、施設に入居する企業等で新たに722人が雇用され、そのうち433人が市内に在住すると想定されます。

※類似施設の面積あたりの就業者数から当該施設における就業者数を試算し、「令和2年国勢調査」都市別従業地・通学地の常住地等別データによる「川崎市内の従業者の中で川崎市を常住地とする者の割合」から試算（施設供用開始3年後に満床となった時点での就業者数）

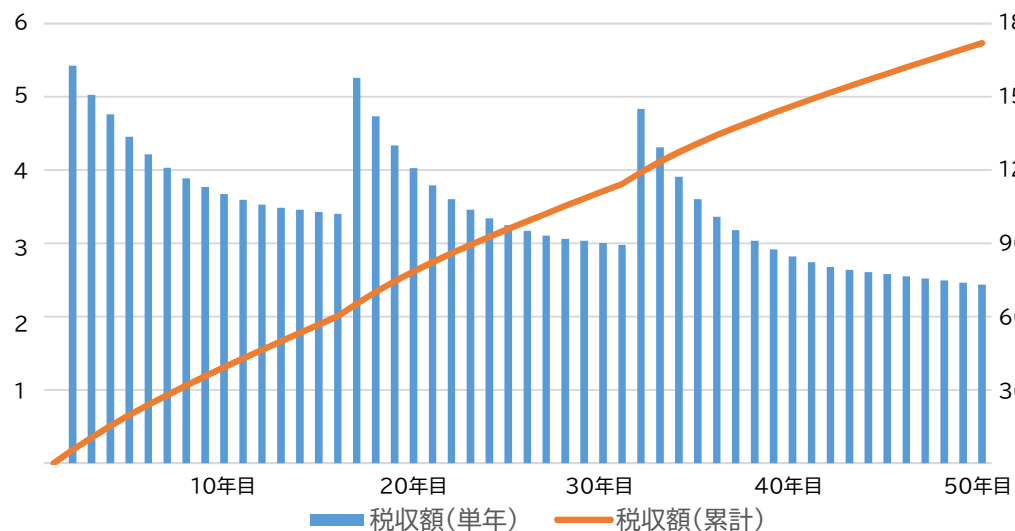
税収見込み

○土地の高度利用による新たな施設整備に伴う見込みとして、民間事業者による大規模施設整備のほか、最先端企業（大企業・スタートアップ）の入居と、研究開発を担う高度人材の市内集積により新たな税収が見込まれます。

	10年目	20年目	30年目	40年目	50年目
市税の累計額	約39億円	約79億円	約111億円	約146億円	約172億円

単位：億円（単年）

単位：億円（累計）



- 法人が納める4税目（固定資産税、都市計画税、法人市民税、事業所税）に加えて、新たな施設の立地に伴い、市内に居住する就業者が納める個人市民税の合計
- 「06 施設計画」で示す施設の面積規模から期待される税収額を試算

※試算は見込みであり、今後の民間事業者の提案内容、施設の利用条件により異なります。

- また、こうした効果を早期に発現させるため、税源涵養に資する支援制度も今後検討

9-3 拠点の実現により期待される効果

- 新川崎・創造のもりの持つ量子技術やスタートアップの集積・輩出機能、オープンイノベーションの風土等が駆動力となり、市内の研究開発・産業拠点と連動し、各拠点の技術・ビジネス・人材の成長を加速させ、川崎から次々と世界へ飛躍し世界をリードする産業を創出するイノベーション・エコシステムを形成します。
- 本市が世界から選ばれる都市へと成長・発展し続ける「サステナビリティ・トランスフォーメーション(SX)」を実現します。

拠点の実現による効果のイメージ

川崎版イノベーション・エコシステムから世界へ飛躍
成長した企業・人材が世界をリード

新川崎・創造のもりの機能更新による イノベーション拠点の実現による効果

- イノベーション・エコシステム形成によるユニコーン企業の創出
- 学生起業家や若手研究者が集い、世界をリードする人材を育成
- 市民生活を変革する研究開発成果の社会実装
- 科学技術や国際色に特色を持たせた教育機会の提供
- 地域のにぎわいや憩いの空間の形成
- 都市ブランドのイメージ向上と市民のシビックプライドの醸成

革新的な研究開発成果から世界を切り開く 新産業・グローバルスタートアップの創出

社会を変革する 成果の創出

- 社会課題の解決と社会の変革に貢献
- 人々の生活を豊かにし、安心安全な社会を実現する成果を生み出す

グローバル ビジネス

- 研究開発の成果をビジネスへと昇華させ、我が国の成長をけん引する新たな産業とグローバルスタートアップを創出

世界をリードする 人材輩出

- 世界トップの研究人材、ビジネスリーダーをこの地に集積させるとともに、我が国の将来の成長をリードする人材を育成する

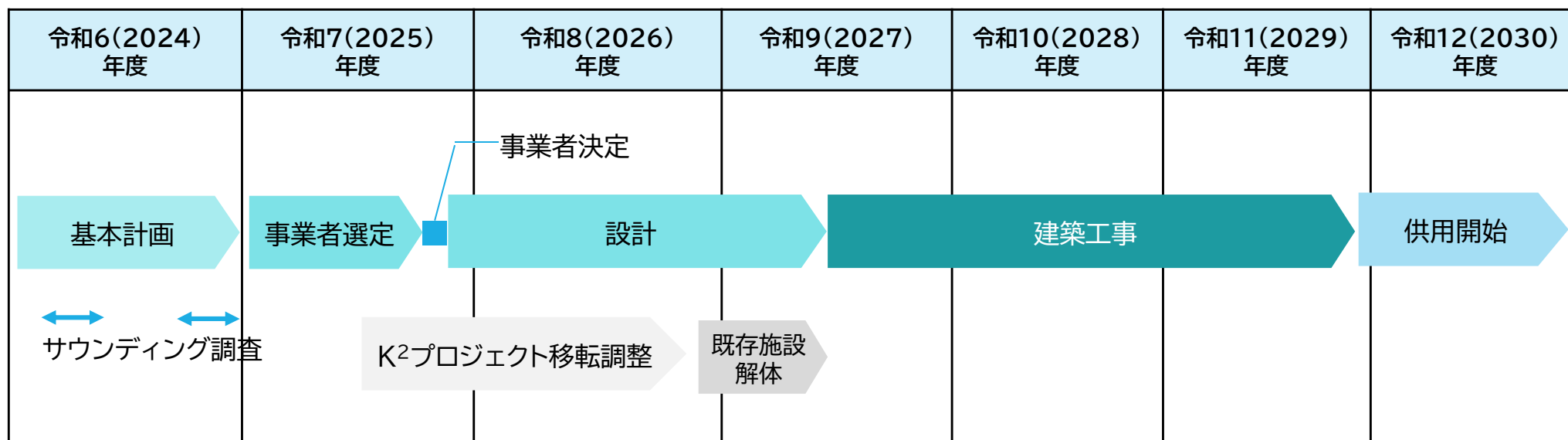
10

その他

10-1 事業スケジュール

- 本計画に基づき、サウンディング調査を行いながら、事業者公募のための要求水準等を取りまとめ、令和7(2025)年度に事業者選定を行います。
- 令和7(2025)年度からK²タウンキャンパスの研究プロジェクトの移転調整を進め、令和8(2026)年度に既存施設の解体に着手し、令和9(2027)年度から建築工事に着手する予定です。
- 工事期間については、本市が定める要求水準に基づく民間事業者の提案によることとなりますが、約2年半かかることが想定され、令和11(2029)年度の工事完成、供用開始を目指しています。

想定スケジュール



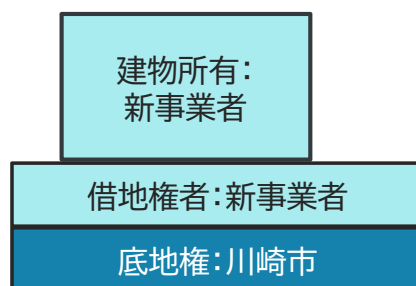
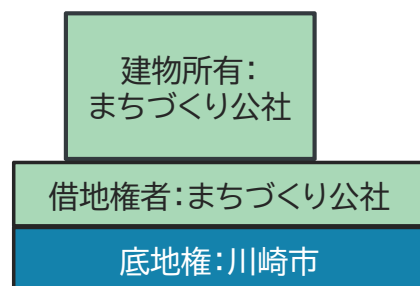
10-2 新たなスキームへの移行

- 対象となるK²タウンキャンパス敷地は、現在、市と（一財）川崎市まちづくり公社とが事業用定期借地権契約を設定しており、その契約期間が令和12（2030）年3月までとなっていることから、新たな事業者の選定後、両者合意の上で契約を前倒し解除し、その後、新事業者との定期借地権契約を締結する予定です。
- 既存建物の解体は、新事業者が施設の建築工事と一体的に施工することで、工期の短縮と整備費を圧縮する工夫を取り入れることが可能となります。

スキーム移行のステップ

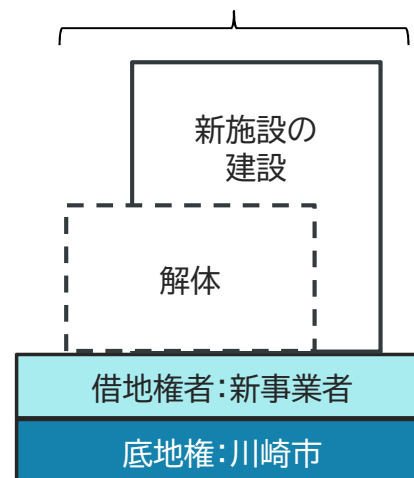
Step1

- ① 本市とまちづくり公社の借地権契約を両者合意の上で前倒し解除
- ② 本市と新たな事業者との借地権契約を締結
- ③ まちづくり公社から新事業者へ建物所有権を移転



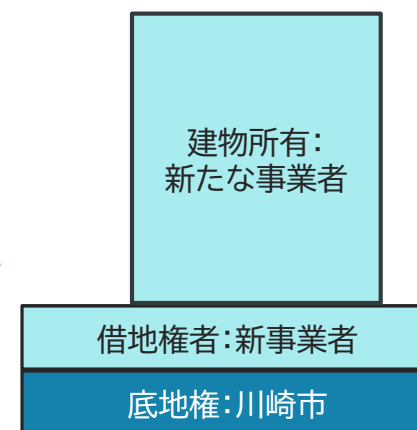
Step2

新事業者が既存施設の解体と新施設の建設を一体的に施工



Step3

施設の供用開始



【既存】借地権契約

【新】定期借地権契約

10-3 関係法令の整理

○施設整備にあたっては、前述の地区計画の基準とあわせ、関連する法令及び条例・基準等を踏まえ、施設内容に応じた整合等を図っていく必要があります。

関係法令、主な条例・基準等

主な法令	主な条例・基準等
● 都市計画法 ● 建築基準法 ● 消防法 ● 景観法 ● 高齢者・障害者等の移動等の円滑化促進に関する法律(バリアフリー新法) ● 建築物における衛生的環境の確保に関する法律 ● 水道法、下水道法、水質汚濁防止法 ● 騒音規制法、振動規制法 ● 土壌汚染対策法 ● 廃棄物の処理及び清掃に関する法律	● 川崎市中高層建築物等の建築及び開発行為に係る紛争の調整等に関する条例 ● 川崎市福祉のまちづくり条例 ● 川崎市公害防止等生活環境の保全に関する条例 ● 川崎市都市景観条例 ● 川崎市緑の保全及び緑化の推進に関する条例 ● 川崎市建築物における駐車施設の附置等に関する条例 ● 新川崎都市景観形成方針・基準
等	等

用語集

用語	フリガナ	解説	ページ
アーリー	—	スタートアップ企業・ベンチャー企業の成長ステージの区分のうち起業直後の段階を指します。	27
R&D	アールアンドディー	英語の「 R esearch and D evelopment」の略で研究開発を意味します。	32
IX	アイエックス	インダストリアル・トランスフォーメーションの略称で、デジタル技術による産業分野の変革をもたらす状態を指します。企業単体ではなく、産業全体の変化を目指します。	26
IoT	アイオーティー	Internet of Thingsの略で、あらゆるモノをインターネットに接続することであり、日本語ではモノのインターネットと訳されます。	31
IBM Quantum System One「Kawasaki」	アイビーエム クオントム システムワン カワサキ	令和3年7月に「新川崎・創造のもり かわさき新産業創造センター」に設置された「IBM Quantum Falcon プロセッサー」を登載するゲート型商用量子コンピューターの名称です。IBM社の量子コンピューターは設置場所に依らず、様々な地名が名前が付けられていますが、川崎市に設置された量子コンピューターは設置場所のとおりに「kawasaki」の名前が付けられています。	17
IPO	アイピーオー	英語の「Initial Public Offering」の略で、日本語では「新規公開株式」や「新規上場株式」と訳されます。	15
アクセラレーション(プログラム)	—	英語の「Accelerator」(加速させるもの)という意味から、スタートアップ企業や起業家の成長を促進する(加速させる)支援事業者や支援プログラムを意味します。	27
アントレプレナーシップ	—	新しい事業を創造するため、失敗やリスクを恐れず挑戦する精神や姿勢。起業家精神とも定義されますが、起業家にとどまらず、企業で働く人にも求められます。	14
イノベーション	—	オーストリアの経済学者として知られるヨーゼフ・シュンペーターが考案した理論のなかで使った言葉で、技術革新や新機軸、導入のことを指します。「新しい技術や考え方を導入して新たに価値を生み出す」ことを意味します。	3
インキュベーション	—	英語の「incubation」(ふ化、卵かえす)という意味から、新規事業の立ち上げをサポート・育成する活動を意味する言葉として使われています。	3
インシデント	—	英語の「incident」(出来事、事件)という意味から、問題が発生してアクシデントになる一歩手前の状況を指す言葉として使われています。	48
インターンシップ	—	学生が就職前に企業などで就業体験をすることです。様々な期間や形態の形式がありますが、一般的には、学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこととして幅広くとらえられています。	29

用語	フリガナ	解説	ページ
インテグリティ	—	「誠実」、「真摯」、「高潔」などの概念を表す言葉です。企業においては、欧米企業を中心に、経営やマネジメントに必要な資質や持つべき価値観の一つとして使用されることが多く、日本でもインテグリティに注目する企業が増加しています。	48
ウェルビーイング	—	well(よい)とbeing(状態)からなる言葉で、個人や社会のよい状態。健康と同じように日常生活の一要素であり、社会的、経済的、環境的な状況によって決定されます。短期的な幸福だけでなく、生きがいや人生の意義などの持続的な幸福を含む概念です。	26
HPC	エイチピーシー	HPC(ハイパフォーマンス・コンピューティング)の略で、膨大なデータに対し複雑な演算処理を高速に実行することを指します。学術や産業分野において、膨大なデータと AI に対応したユースケースを促進するため、HPCへの需要が高まっています。	31
エコシステム	—	本来、生態系の関係を表す言葉ですが、ビジネスの分野においても企業同士がそれぞれの技術やノウハウを共有しながら持続的に収益を上げる構造を指します。	3
SX	エスエックス	サステナビリティ・トランスフォーメーションの略称で、企業や社会の活動などがサステナビリティ(持続可能性)を重視したものに転換することや、そうした変革を実現する技術・サービスなどを指します。	26
SQAI	エスクーエーアイ	JST「共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)(量子技術分野)」に採択された東京大学を代表機関とするプロジェクトである、サスティナブル量子AI拠点の略称です。量子ソフトウェアとHPC・シミュレーション技術の共創によりエネルギーの不安なしに情報技術を存分に活用し、量子AIに支えられた生産性革命や新産業創出が持続する社会をめざします。	18
mRNA	エムアールエヌエー	mRNAは、アンチセンス核酸(ASO)やsiRNAの創薬標的として、タンパク質と並んで非常に重要な生体高分子群です。近年、創薬研究において標的タンパク質の枯渇が指摘される中、新たな創薬標的として、mRNAはタンパク質と同等もしくはそれ以上の標的を供給できる可能性があるとの認識が高まっています。	12
LX	エルエックス	ライフスタイル・トランスフォーメーションの略称で、生活様式や生き方等を変革・革新する行動や、そうした変革を実現する技術やサービスを指します。	26
オープンイノベーション	—	イノベーションを達成するために、自社以外も含めたあらゆるリソースを活用して市場機会の増加を目指すことです。	4
オープン・クローズ戦略	オープン・クローズセンリャク	グローバルな市場に自社技術を普及させる「オープン戦略」と、コア技術を自社で守る「クローズ戦略」とを掛けあわせた戦略、使い分けた開発・事業戦略を指します。	25
オープンファクトリー	—	3Dプリンターやレーザーカッターなどの工作機械を備えた工房で、ものづくりやプロトタイプの作製をしたいスタートアップや学生・個人が、機器の利用をサポートするスタッフのもと、利用できる施設。	44

用語	フリガナ	解説	ページ
CAD／CAM	キャド/キャム	製品の設計から製造までをコンピューターで制御するシステムです。 CAD(Computer Aided Design)は、コンピューターを利用して設計を行うためのシステムで、CAM(Computer Aided Manufacturing)は、CADでつくられた形状データを基に工作機械やロボットを制御する加工データをつくるためのシステムです。	47
QX	キューエックス	クオantum・トランスフォーメーションの略称で、量子技術によって、社会の問題の解決や社会の転換を目指すこと、そうした社会を実現する技術やサービスを指します。	26
共創の場形成支援プログラム (COI-NEXT)	キョウソウノバ ケイセイシエンプログラム (シーオーアイネクスト)	JST(科学技術振興機構)が実施する、大学等の研究成果を社会に届けるための産学官連携を支援する事業。川崎市においてはサステナブルAI研究拠点の他に、4つのプロジェクトに採択されています。	18
キングスカイフロント	—	川崎市殿町地区(羽田空港の南西、多摩川の対岸)に位置する、世界最高水準の研究開発から新産業を創出するオープンイノベーション拠点です。約40haに及ぶこのエリアでは、健康・医療・福祉、環境といった課題の解決に貢献するとともに、この分野でのグローバルビジネスを生み出すことで、日本の成長戦略の一翼を担います。国家戦略特区・国際戦略総合特区・特定都市再生緊急整備地域に指定されているエリアであり、規制緩和・財政支援・税制支援等の様々な優遇制度の活用が可能です。	3
クライメートテック	—	クライメートテック(Climate Tech)は、CO ₂ 排出量の削減や地球温暖化対策など、気候変動対策に焦点を当てた技術やビジネスのことです。	19
クラウドプログラム	—	インターネットを通じてサービスを必要なときに必要な分だけ利用できるクラウドサービスの機能を決定するシステムプログラムです。クラウドプログラムの安定的な供給を確保することは経済安全保障上、重要であるため、国が支援しこれまでに11の事業を認定されています。うち、一つが東京大学を事業者とする量子コンピューターを活用したクラウドサービスの提供であり、新川崎・創造のもりにある量子コンピューターのチップのアップグレードに活用されています。	3
グラント	—	一般的に公的機関の補助金を指します。	27
クリーンルーム	—	空気中に浮遊する微粒子や微生物が限定されたレベル以下の清浄度に管理されて、不純物やゴミを持ち込まないようにするための部屋	9
経済安全保障	ケイザイアンゼンホショウ	国が、自国の経済活動や国民生活に対する脅威を取り除き、経済体制や社会生活の安定を維持するために、エネルギー・資源・食料・技術などの安定供給・安全性を確保するための措置を講じることです。	3
経済センサス	ケイザイセンサス	事業所及び企業の経済活動の状態を明らかにし、日本の包括的な産業構造を明らかにするとともに、事業所・企業を対象とする各種統計調査の実施のための母集団情報を整備することを目的とし、総務省統計局が実施しています。	15

用語	フリガナ	解説	ページ
ゲート型量子コンピューター	ゲートガタリョウシ コンピューター	量子ビットの重ね合わせ状態を制御するために量子ゲートを組み合わせて量子回路を構築する量子コンピューターを指します。これに対して、アニーリング操作により、最適解を見つけるコンピューターをアニーリング型の量子コンピューターといいます。	3
古典コンピューター	コテンコンピューター	量子力学の原理で動作する量子コンピューターに対して、古典力学の原理で動作するコンピューターを指します。0または1の2進法を用いた計算方式で、私たちが日常で使うコンピューター全般が該当します。	16
コワーキング(スペース)	—	さまざまな年齢、職種、所属の人たちが空間を共有しながら仕事を行うスペースのことです。「Co(=共同の、一緒に)」「Working(=働く、仕事をする)」「Space(=場所)」を語源に、それぞれを掛け合わせて作られた言葉で、「共同で働く場所」という意味があります。	28
サービス付きアパートメント	—	ホテルとアパートの中間の機能を持った住居で、家具家電の整備や室内の清掃などのサービスが提供されるため、入居してすぐに快適に生活することが可能となります。	50
サイエンスカフェ	—	科学技術の分野で従来から行われている講演会、シンポジウムとは異なり、科学の専門家と一般の人々が、カフェなどの比較的小規模な場所でコーヒーを飲みながら、科学について気軽に語り合う場をつくろうという試みです。	14
サイバー空間	サイバークウカン	コンピューターやネットワーク上に構築された仮想的な空間を指します。	12
サプライチェーン	—	製品や商品が消費者に届くまでの一連の生産・流通プロセスを指します。自社だけではなく、他社をまたいでのモノの流れを捉えるため、サプライチェーンを管理し、製品の開発から製造・販売までのプロセスの最適化が求められます。	17
GX	ジーエックス	グリーントランスフォーメーションの略称で、化石燃料をクリーンエネルギーに転換して脱炭素社会を構築しようという取組やそうした社会の転換を目指すこと、そうした社会を実現する技術やサービスを指します。	26
シード	—	スタートアップにおける成長ステージの区分のうち、会社設立前後の段階をさします。シードは日本語で「種子」や「芽が出る前の状態」を意味することから転じて、起業前のスタートアップを表します。	27
シームレス	—	シームレスとは「継ぎ目がない」という意味の言葉で、ビジネス用語では、複数の要素や機能・サービスが連携していて利用者にとって途切れのないサービスを受けることが可能となるよう状態を表現しています。	39

用語	フリガナ	解説	ページ
JST	ジェイエスティー	日本の科学技術・イノベーション政策の中核的な役割を担う国立研究開発法人です。新たな価値を生み出すための基礎研究やスタートアップの支援、研究戦略の立案、研究の基盤となる人材の育成や情報の発信、国際卓越研究大学を支援する大学ファンドの運用などを行っています。	18
資金調達	シキンチョウタツ	スタートアップが事業の成長を加速させるために、資金を募ること。「投資家から出資してもらう方法(エクイティ・ファイナンス)」と「金融機関から融資してもらう方法(デット・ファイナンス)」の2つがあります。	12
次世代半導体	ジセダイハンドウタイ	主に演算に使われるロジック半導体においては、回路を構成する線の幅が狭いほど密度の高い半導体が作れ、高度な演算ができ、消費電力も抑えられます。現時点では、3nmが最小ですが、日本においてもRapidus社が3nm以降の次世代半導体開発に乗り出しています。	13
シミュレータ	—	システムの挙動を確認するために、同じ法則に支配される他のシステムや計算によって模擬すること。量子コンピューターは、計算エラーが多く、量子コンピューターの動作を模擬したシミュレータを用いて研究開発を行っています。	18
冗長化	ジョウチョウカ	コンピューターやシステムに障害が発生した場合に備えて、予備装置を普段から配置、運用すること。	56
スタートアップ(企業)	—	決まった定義はありませんが、創業間もない企業で、数年以内の圧倒的成長を前提にベンチャーキャピタルや個人投資家(エンジェル投資家)等から多額の資金を調達している、もしくは調達を目指している研究開発型のベンチャー企業などが一般的にはスタートアップと呼ばれています。	3
セキュリティクリアランス	—	安全保障などに関わる機密情報にアクセスできる資格者を政府が認定する制度です。日本においても、令和6年5月にセキュリティ・クリアランス制度のための法律が国会で可決・成立しました。	48
Society5.0	ソサイエティゴテンゼロ	狩猟社会(Society 1.0)、農耕社会(Society 2.0)、工業社会(Society 3.0)、情報社会(Society 4.0)に続く新たな社会です。サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会として、提唱されています。	3

用語	フリガナ	解説	ページ
脱炭素社会	ダツタンソシャカイ	温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする社会	3
通信アーキテクチャ(ネットワークアーキテクチャ)	ツウシンアーキテクチャ(ネットワークアーキテクチャ)	コンピュータネットワークの基本的なシステム設計についての約束を定めたものです。	13
DX	ディーエックス	デジタルトランスフォーメーションの略称で、デジタル技術で社会や生活を変革を目指すこと、そうした社会を実現するための技術やサービスを指します。	3
デジタルサイネージ	—	デジタル技術を使用して情報や広告を表示する技術	49
デジタルツイン	—	リアル(物理)空間にある情報・データを集め、収集したデータを元にサイバー(仮想)空間上でリアル空間を再現する技術です。	26
テストベッド	—	システム開発時に、実際の使用環境に近い状況を再現可能な試験用環境、または試験用プラットフォームの総称です。	13
ナノ・マイクロ技術	ナノ・マイクロギジュツ	ナノマイクロ技術は、ナノメートル(10の-9乗メートル)やマイクロメートル(10の-6乗メートル)といった極めて微細なスケールでの加工技術やデバイスの設計・製造を指します。	9
ネイチャーポジティブ	—	日本語訳で「自然再興」といい、「自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止め、反転させる」ことを指します。これまでの自然環境保全の取り組みだけでなく、経済から社会、政治、技術までの全てにまたがって改善を促していくことで、自然が豊かになっていくプラスの状態にしていこうというのがネイチャーポジティブの趣旨です。	26
NEDO	ネド	国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(New Energy and Industrial Technology Development Organization)の略称 経済産業省が所管する独立行政法人。持続可能な社会の実現に必要な研究開発を支援する研究開発法人です。	27
ハプティクス	—	ロボットの力加減を調整し、ありのままの感触が伝わるよう制御し、モノにやさしく触れたり、遠隔でデバイスを作用させることで人が直接作業することが困難な作業を代替させることができる技術です。	12

用語	フリガナ	解説	ページ
ハンズオンセミナー	—	実際に手を動かして学ぶスタイルのセミナーです。	18
半導体	ハンドウタイ	金属などの導体と、ゴムなどの絶縁体の中間の抵抗率を持つ物質。電気の流れをコントロールすることができ、コンピュータのCPUやスマートフォンなどの電子機器に欠かせない部品となっています。	3
ピッチイベント	—	一般的にスタートアップ企業が投資家などに対して、自社の技術やサービスをプレゼンテーションしたり、投資家の支援を行う企業や投資会社が、スタートアップ企業に対してプレゼンをする機会を提供したりするイベントのことを指します。	30
Beyond5G	ビヨンドファイブジー	5Gの「高速・大容量」「低遅延」「多数同時接続」といった機能の高度化に加え、「超低消費電力」「超安全・信頼性」「自律性」「拡張性」といった持続可能で新たな価値の創造に資する機能を持つ5Gの次の世代の移動通信システムです。	3
プレシード	—	スタートアップの資金調達において最も早い段階。企業の発展段階や資金調達が「シード」よりも前の段階を指します。この段階では、創業者もしくはその家族やサポーター、あるいはエンジェル投資家と呼ばれる一部の個人投資家から資金を調達します。	27
ペルソナ	—	サービスや商品を利用してくれそうな具体的・仮想的なユーザー像です。	30
ベンチャーキャピタル(VC)	ベンチャーキャピタル (ブイシー)	成長段階にある新興企業やベンチャー企業に対して出資する組織です。	12
ポジティブなM&A	ポジティブナエムアンドエー	事業の飛躍的な発展やまとまった利益の確保等の積極的な理由で行われる、売り手側にもメリットがあるM&Aを指します。	15
マイクロモビリティ	—	通常の自動車よりもサイズが小さい、1～2人用の乗り物。具体的には、小型自動車、電動キックボード、電動バイクなどを指します。	54
マテリアル	—	素材の開発・製造を行う産業を指します。	27

用語	フリガナ	解説	ページ
南渡田地区	ミナミワタリダチク	川崎臨海部の創成期から操業を続けてきた旧日本鋼管株式会社創業の地であり、本市の産業都市としての発展を支えた象徴的な場所です。次世代の臨海部を牽引する新産業拠点の形成に向けて、クライメイトテック、マテリアルの先端拠点を目指しています。	19
ユニコーン(ベンチャー)企業	ユニコーン (ベンチャー) キギョウ	評価額が10億ドルを超える未上場のスタートアップ企業で、アメリカや中国に多く、日本国内では10社未満です。	15
ユニバーサルデザイン	—	すべての人にとって使いやすく、できるだけ多くの人が利用可能であるようにデザインすることをいいます。	28
ライフサイエンス分野	ライフサイエンスブンヤ	生物が営む生命現象の複雑かつ精緻なメカニズムを解明することで、その成果を医療・創薬の飛躍的な発展や、食料・環境問題の解決など、国民生活の向上及び国民経済の発展に大きく寄与するものとして注目を浴びている分野です。	3
量子インターネット(量子通信システム、量子中継器)	リョウシインターネット (リョウシツウシンシステム、 リョウシチュウケイキ)	量子技術による量子データ伝送ネットワークです。物理的に離れた場所に設置された複数の量子デバイスのネットワークをまたがった量子ビットをやり取りしあうインターネットシステムを指します。	12
量子コンピューター ・量子コンピューティング技術	リョウシコンピューター ・リョウシコンピューティング ギジュツ	量子力学独自の性質を利用して、最も強力な古典的なコンピューターの能力を超えた問題を解決する、最先端のコンピューター・サイエンスの新興分野です。	3
量子シミュレーション	リョウシシミュレーション	量子力学の原理を用いて、複雑な物理現象やシステムの挙動を再現する技術です。新しい素材の開発や創薬等の分野で活用が期待されます。	18
量子ビット	リョウシビット	量子情報の最小単位。古典コンピューターではビットは0と1のどちらかの状態しかとれないのに対して、量子ビットは0と1の重ね合わせ状態を取ることが可能です。	18